

大阪大学 21世紀懷徳堂 活動報告書 2019



大阪大学
21世紀
懷徳堂

大阪大学 21 世紀懷徳堂 活動報告書 2019 目次

はじめに	3
1. 今年度の事業概観	4
2. 公開講座・催しの実施	
2-1. 大阪大学公開講座（第 51 回）	8
2-2. Handai-Asahi 中之島塾	14
2-3. 大阪大学 21 世紀懷徳堂 i-spot 講座	20
2-4. 植物探検隊	26
2-5. Science café@大阪大学歯学部附属病院	28
2-6. 大阪・京都文化講座	30
2-7. 大阪大学×大阪ガス 「アカデミックッキング」	34
2-8. 大阪大学×ナレッジキャピタル連携事業	38
2-9. 21 世紀懷徳堂×豊中市 レクチャーコンサート	40
2-10. 豊中魅力アップ助成金採択事業	42
2-11. EXPOCITY との共創事業	44
2-12. 大阪大学シンポジウム	48
2-13. アートエリア B1 事業、クリエイティブアイランド中之島	50
2-14. 大阪大学社会学共創連続セミナー	68
2-15. 森村泰昌「下町物語プロジェクト 2017-2019」	72
3. 広報・情報発信	
3-1. 大阪大学 21 世紀懷徳堂だより	74
3-2. みのおエフエム「まちのラジオ」	76
3-3. 大阪大学 21 世紀懷徳堂メールマガジン	78
3-4. 大阪大学 21 世紀懷徳堂ホームページ	82
3-5. 学外媒体掲載実績（新聞、タウン誌、WEB など）	85
3-6. 学内媒体掲載実績	88
3-7. プレスリリース	90
4. 学内外との連携による社会学連携事業推進	
4-1. 社会学連携事業支援メニューおよび支援実績の概要	92
4-2. アウトリーチ活動支援	98
4-3. 自治体・大学・企業等との連携	102
4-4. 学生・卒業生との連携	105
5. 活動スペースの運営	
5-1. 活動スペースの概要	106
5-2. 活動スペースの利用実績	107
6. 組織の概要	
6-1. 運営体制	112
6-2. スタッフ	114

はじめに

大阪大学 21 世紀懷徳堂学主

永田 靖

大阪大学では一昨年に、学内組織の総合学術博物館、適塾記念センター、大阪大学アーカイブズに加えて、21 世紀懷徳堂を「社会学共創本部」として一つに再編いたしました。そしてさらに、他の二つの本部である産学共創本部、渉外本部と共により大きな「共創機構」を組織して、大阪大学の標榜する社会との共創を強力に推進して参りました。大阪大学がめざす社会学共創とは、社会と大学との繋がりを強固にすることを言うのですが、特に地域社会の課題を探索し、大阪大学の諸学問や研究成果と縦横に結びつけることで、それら課題の解決への道筋を拓いていく、その種の繋がりを構築していくことです。それは広い意味では大学の学問研究の基本ですが、しばしば専門化し、細分化してしまった学問は社会との結びつきを容易に見いだせなくなっていることも事実でした。大阪大学では現代社会の多様化、重層化する諸課題の解決を大学に課せられた使命であると認識し、大学の研究成果をより地域課題の解決に結びつけるべくこの新しい組織を立ち上げたわけです。

さらに、その方向性をさらに強く前進させようと、次年度 2020 年 4 月からは共創機構を再々編し、この社会学共創本部を含む上記 3 本部は一旦解消となり、新たに 4 つの部門を組織することとしました。21 世紀懷徳堂はその部門の一つ「社会学共創部門」に統合再編されることになりました。つまり、21 世紀懷徳堂は組織的には本年 2020 年 3 月までで解消されることとなり、21 世紀懷徳堂の今まで行ってきた活動の多くがこの新たな部門に吸収され、新たな「共創機構」というより大きなミッションの中で新しい展開を行うことになりました。

2008 年に 21 世紀懷徳堂が誕生して以来、様々な形で大阪大学の学知を社会と結びつける仕事を行ってきました。公開講座や講演会、シンポジウムはもちろん、カフェ形式や見学会など、また音楽や演劇、食などのアートやカルチャーと結びつけて、研究成果を斬新な切り口で市民に提供するという試みを続け、地域社会との連携を図る地域貢献の拠点として、多くの方々の賞賛を頂戴しました。これもひとえに 21 世紀懷徳堂の精神をご理解いただき、ご協力を頂きました自治体、関係諸機関、市民の皆様のお力の賜物と思っております。この場をお借り致しまして、心からお礼を申し上げます。どうもありがとうございます。

今年度の報告書はその 21 世紀懷徳堂の最後の報告書になりますが、大阪大学の社会学共創活動はここで終了する訳ではありません。この 10 年間で一層社会の問題は複雑化し、解決が困難になって来ており、今までと同じ方法では解決の糸口すら見いだせなくなっています。そのような未来を見据えて、新しい組織の中でさらに大きな展開を目指して、生まれ変わろうとしています。

どうか今後とも大阪大学の社会学共創に忌憚のないご意見を頂けましたら幸いです。

1. 今年度の事業概観

ここ数年、大阪大学では社会学連携関係の体制に大きな変化があった。2017年8月には、これまで社会学連携に関わってきた4組織（21世紀懐徳堂、総合学術博物館、適塾記念センター、アーカイブズ）を核として、社会学共創本部が立ち上がり、さらに2018年1月には、大阪大学共創機構が発足し、社会学共創本部、産学共創本部、渉外本部が連携して社会と本学との共創を推し進める体制を整えた。また、2020年4月の共創機構の改組により、大阪大学の社会学共創活動は新たなステップに進むこととなる。

これまで21世紀懐徳堂は、本学の研究成果を様々な形で社会発信することで社会貢献に繋げてきた。また社会学関連組織との効率的かつ有機的な連携を図るため、学内における社会学共創活動の周知や学内外の組織との連携体制の整備はもちろんのこと、社会と大学との持続可能な共創関係を確立するために必要不可欠な「市民との対話」のチャンネルをできるだけ多く提供することを目指してきた。

21世紀懐徳堂は、これまでに積み上げてきた社会学連携活動の蓄積と継承によって充実した活動を行ってきたが、今後の共創機構においては自治体や市民等とのリンクした活動の強化が更に求められることとなる。そこで、今年度実施した21世紀懐徳堂の諸活動を振り返り、今後、共創機構の活動につながる事業展開のための検証と準備の機会としたい。

（社会学共創本部本部長、21世紀懐徳堂運営委員会委員長 永田 靖）

1) 公開講座・シンポジウム・催事関係

本学が提供する公開講座として、永きにわたり多くの市民に親しまれてきた「第51回 大阪大学公開講座」を実施した。今回は本学の最新研究を社会に広く発信する企画として、「次世代研究者と拓く共創社会」と題した全8講座を開講した。昨年度より1人でも多くの方に受講していただくため、それまでより収容定員の多い会場で実施したことが好評であったため今年も同様の対応で行い、例年を超える受講者数を得た。歴史ある本講座への関心の高さがうかがえる。

その他、待兼山で植物観察する「植物探検隊」、大阪ガスとの共催講座「アカデミックッキング」、朝日カルチャーセンターとの共催講座「Handai-Asahi 中之島塾」、立命館大学との共催講座「大阪・京都文化講座」、大阪市との共同講座「i-spot 講座」、ナレッジキャピタルとの共催事業「大阪大学×ナレッジキャピタル」を開講した。また、学内組織との連携では、歯学研究科・歯学部附属病院との共催企画「Science café@大阪大学歯学部附属病院」を昨年度に引き続き実施した。

また、新たな豊中市とのジョイント企画として大阪大学21世紀懐徳堂×豊中市レクチャーコンサート「音楽のアラベスク 文学のアラベスク」を行い、多様な意味を持つ「アラベスク」という言葉をキーワードに、音楽と文学という異なる芸術分野の関係や魅力についてピアニストと北欧文学の研究者が語るユニークなコンサートとなった。

いずれの催事も会場が満席になるほどの多くの方々にご参加いただいた。座学と実演を上手く組み合わせ、アカデミックな雰囲気の中にも心和む話題が散りばめられた演出で、人々を次々に魅了して行く企画は、正に21世紀懐徳堂

の真骨頂である。

昨年度に引き続き、豊中市からの助成を受けて「豊中魅力アップ助成金採択事業」に取り組んだ。特集「つながるまなびば 大阪大学×豊中市」とするフリーペーパーを発行し、大阪大学総合学術博物館第22回企画展「四国五郎展～シベリアからヒロシマへ～」大阪大学21世紀懐徳堂×豊中市レクチャーコンサート 音楽のアラベスク 文学のアラベスク「とよなかりレーションハウスプロジェクト」等を紹介し豊中市の地域資源である待兼山（ましかねやま）に位置する、大阪大学の「つながるまなびば」としての魅力を地域社会に周知するとともに、大阪大学の研究成果を発信することができた。

今年度の大阪大学シンポジウムは、「＜ELSI センター＞設立記念シンポジウム」と「大阪大学オープンイノベーション機構発足記念シンポジウム」を2020年3月9日、10日に連続実施を計画していたが、新型コロナウイルス拡大防止のため延期となった。

京阪中之島線にわ橋駅のアートエリア B1 は、大阪大学からの情報発信のステージとして頻繁に活用されている。そこで実施されるラボカフェは、本学のアウトリーチ活動として多彩な話題を提供し続けている。文化と歴史の集積地として中之島の潜在的な可能性を探るとともに、今後も大阪大学のアウトリーチ活動にあわせて、更なる有効活用が望まれる。

2) アウトリーチ活動・社会学共創活動の支援

社会学共創活動の支援について、広報支援、名義使用、講師派遣受付、イベント情報のホームページ掲載、スタジオ等の会場提供は安定した活用が見受けられ、これまでの21

世紀懷徳堂の活動や取り組みが少しずつ学内に浸透してきているのではないかと考えている。

3) 社会学共創関連事業の支援

社会学共創関連の授業への支援は、今年度も活動スペース「スタジオ」の提供を中心として、本学の教育活動に実績を残している。直接的な教育研究活動にはあたらないが、今後、学生の主体的な取り組みにも支援することで、社会学共創活動の裾野が広がると期待できる。

4) 自治体等との連携

自治体との連携については、大阪市との連携講座である i-spot 講座が毎回大好評である。箕面市との連携では大学院言語文化研究科・外国語学部が主催する「阪大生たちがみた“生きた”学び」の連携講座も継続している。この講座では、学生が実際にフィールドワークや留学を通じて学んだことを市民の皆さんに向けて報告するもので、たいへん好評をいただいている。また、みのおエフエムとの「まちのラジオ」を継続して実施し、本学学生が主体的に参加し、社会課題や大学の最新研究を箕面市及び周辺エリアに発信した。

大阪府とは行政が抱える諸問題を大学の知をもって解決を目指すプロジェクトを継続して実施している。今年はキャンパスライフ健康支援センターと協力し「健康キャンパスプロジェクト～ヘルスリテラシー向上講座」を実施し、学生・教職員及び一般の方々に栄養管理、受動喫煙防止、がんに関する情報を分かりやすく紹介・解説した。

今後もさらに多くの分野において連携・協働を促進し、地域の活性化と府民生活の向上を図りたい。

5) 広報・情報発信事業

ホームページ、メールマガジン、フリーペーパー「21 世紀懷徳堂だより」の広報媒体が、社会学共創活動を支える情報発信ツールとして活用されている。特にホームページでは、21 世紀懷徳堂の主催事業で使用している WEB フォームによる受付機能を、各部局等の催事情報発信のプラットフォームとして提供し、受付業務の省力化、効率化に貢献し

た。

また学内広報としては、社会学連携ネットワークを活用し、21 世紀懷徳堂の活動や取り組み、各部局が企画・運営する社会学共創事業に対する相談受付など、21 世紀懷徳堂が持つノウハウの情報発信を継続している。

6) 活動スペース運営

活動スペースのスタジオ・楽屋は、社会学共創に係る授業やイベント開催等で利用されている。利用者数は年々増加傾向にあり、これは社会学連携活動以外にも課外活動団体の発表の場として提供しているためである。

また地域との連携の場として、今年度も、大阪大学と豊中市との包括協定に基づく連携事業として期日前投票所の会場として利用し活用を図っている。

スタジオは、本格的な照明機材を常備していることから、使用にあたっては安全性の確保が極めて重要である。そこで、昨年度に引き続き照明機材に関する講習会を開催し、安全な運用に努めている。

総括と来年度への課題

今年度の総括であるが、これまでの実績と経験を踏まえ、新規事業と継続事業とを包括的かつ効果的に展開でき、活発な社会学共創活動が行えたのではないだろうか、今後も大学本体の広報活動や社会学共創活動を軸として、大学本部と各部局との密な連携を強化し、大学全体の社会学共創活動を効果的に行うことを望みたい。

最後に、来年度の課題として、大阪大学の社会学共創活動への研究開発エコシステムの導入がある。冒頭でも述べたが本学は持続的な発展を支える施策として、大阪大学共創機構を立ち上げ、社会と本学との共創を推し進める体制を整えた。21 世紀懷徳堂も個別の活動のみならず、より組織的で機動力のある活動が求められることとなる。人員や予算、事務組織整備等、課題が山積しているが、これまで蓄積してきた経験や学内組織の協力を得て、この難局を乗り越えて行きたい。引き続き、大阪大学および大阪大学全構成員のご理解とさらなるご支援をお願いしたい。

2019年度 大阪大学21世紀懐徳堂の主な取り組み

分類	名称	頻度	受講者・参加者数等	開催場所・配布場所等	実施体制	2018年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2019 1月	2月	3月	備考
公開講座・催し	社会学創連続セミナー（21世紀懐徳堂シンポジウム）	年6回	第5回 55名 第6回 28名 第7回 27名 第8回 32名 第9回 31名 第10回 25名	中之島センター サイエンス・コモンズ Studio A 大学会館2階セミナー室	主催：大阪大学共創機構社会学創本部 企画制作：21世紀懐徳堂			● 6/12	● 7/2			● 10/30	●● 11/6・13		● 1/31			第3回 Universities and Cities 第6回 ソーシャルビジネスと大学 第7回 貧困の連鎖を断ち切る 第8回 多文化共創社会の実現に向けた課題－ミランマ－難民として来日してから 第28年の歩み－ 第9回 歴史・文化資源のポテンシャル－文化財保全のオプションとしてのクラウドファンディング 第10回 女性のリーダーシップと多様性がもたらすイノベーション／大学の役割
	Handai+Asahi中之島塾	年4期 各5講座	年4期20講座 930名	大阪大学中之島センター	主催：21世紀懐徳堂、朝日カルチャーセンター													
	大阪大学21世紀懐徳堂i-spot講座	年2期 各6講座開講 小学生対象3講座	前期 221名 後期 92名 ※前期は小学生対象講座参加者を含む	大阪市 まちづくり情報発信施設 「アイ・スポット」	主催：21世紀懐徳堂、大阪市都市計画局													前期：7/26、7/31、8/21、8/28、9/5、9/11 後期：1/29、2/6、2/12、2/18 小学生対象：8/2、8/5、8/9
	植物探検隊	年2回 各2日	春 46名 秋 42名	21世紀懐徳堂スタジオ、 待兼山周辺、待兼山修学館	主催：21世紀懐徳堂 協力：総合学術博物館	● 4/27	● 5/11					●● 10/5・19						
	Science cafe@大阪大学歯学部附属病院	年2回開催	46名	大阪大学歯学部附属病院 1F カフェド・クリエ	主催：21世紀懐徳堂 大学院歯学研究科 歯学部附属病院								●● 12/6・12					
	大阪・京都文化講座	年2期 各6講座	前期 のべ856名 後期 のべ779名	立命館大阪梅田キャンパス	共催：文学研究科、21世紀懐徳堂、立命館大学文学部													前期：5/13、5/20、5/27、6/3、6/10、6/17、6/24、7/1 後期：10/7、10/21、10/28、11/11、11/18、11/25、 12/2、12/9
	大阪大学・豊中市レクチャーコンサート		68名		主催：21世紀懐徳堂、豊中市									● 12/1				大阪大学21世紀懐徳堂、豊中市の共創による企画
	大阪大学×大阪ガス アカデミックキング	不定期開講	120名	大阪ガス キングスクール淀屋橋 (8/9,10/10,11/26)	主催：21世紀懐徳堂、大阪ガス株式会社					● 8/9		● 10/10	● 11/26					
	大阪大学×ナレッジキャピタル	不定期開講	103名	グランフロント大阪北館 ナレッジキャピタル1F CAFÉ Lab.（カフェラボ）	主催：21世紀懐徳堂 一般社団法人ナレッジキャピタル 株式会社KMO								●● 11/14,20					
	豊中市の新たなランドマーク創出 ～待兼山企画～	フリーペーパー1月発行	20,000部発行	—	—										● フリーペー パー発行			豊中市「豊中魅力アップ助成金」採択授業
	アートエリアB1 ラボカフェ	毎月複数回開催	50回開催 のべ 2,334名	アートエリアB1	主催：アートエリアB1 (大阪大学＋NPO法人ダンスボックス ＋京阪ホールディングス(株)) 企画制作：大阪大学21世紀懐徳堂／NPO法人ダンスボックス													
	大阪大学公開講座（第51回）	10～12月に 全8講座	受講者数のべ 914名	大阪大学中之島センター	主催：大阪大学													テーマ：「次世代研究者と拓く共創社会」
	大阪大学シンポジウム	3月9日 3月10日 (延期)	両日とも300名	ナレッジキャピタル コングレコンベンションセンター	主催：大阪大学 後援：国立研究開発法人科学技術振興機構（3月9日のみ）												● 3/9,3/10	【延期】 3月9日「＜ELSIセンター＞設立記念シンポジウム」 3月10日「大阪大学オープンイノベーション機構発足記念シンポジウム」
社会学連携事業・ アウトリーチ活動等 の支援	会場提供		のべ81件	大阪大学21世紀懐徳堂スタジオ、楽屋	—													
	名義使用	依頼に応じて 随時対応	共催：5件、協力：44件、 後援：9件	—	—													
	ホームページ掲載、チラシ配架・学外発送、 メルマガ配信、申込みフォーム貸出し等		53件 関連組織18件	—	—													
	講師派遣相談受付		10件	—	—													
	教員データベース代理入力	随時		—	—													
広報・情報発信	大阪大学21世紀懐徳堂ホームページ	随時更新	イベント情報掲載 270件 月平均 約 6,700訪問数	—	—													
	大阪大学21世紀懐徳堂活動報告書	年1回	500部発行	—	—													
	大阪大学21世紀懐徳堂だより	年4回程度	4回 8,000～ 12,000部発行	—	—				● vol.42	● vol.43		● vol.44	● vol.45					
	待兼山PRESS	1月発行	20,000部発行	—	—										●			豊中市「豊中魅力アップ助成金」事業
	大阪大学21世紀懐徳堂メールマガジン	月4～6回程度	登録者約 2,858名 49 回配信	—	—													
	みのおエフエム「まちのラジオ」	毎月第2(木) ＋再放送		放送地域：箕面市及び周辺エリア7	・放送局：みのおエフエム ・番組名：「まちのラジオ(大阪大学社会学連携事業)」	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	学外媒体掲載 (TV・新聞・タウン紙等)	随時	掲載等の実績91件	—	—													
	学内媒体掲載	随時	掲載等の実績66件	—	—													
	活動スペース 運営	随時	イベント時の利用人数 5,472名	21世紀懐徳堂スタジオ、楽屋	—													
	問合せ対応等	平日9:00～17:00			—													

2-1. 大阪大学公開講座（第51回）

大阪大学は1968年に総合的な公開講座を開講した。当初は「大阪大学開放講座」という名称であったが、2004年に「大阪大学中之島講座」と改め、大阪大学中之島センターを主会場として開講している。2011年度には「大阪大学21世紀懐徳堂講座」、2012年度からは「大阪大学公開講座」と名を改め、本学の基幹講座として連綿と続く社会貢献の伝統を引き継いでいる。本年は「次世代研究者と拓く共創社会」というテーマのもと、全8回の講座を実施した。今年度も総合大学である本学の強みを活かした講師陣により、諸問題を様々な角度から掘り下げ、充実した内容で多くの市民の方々とともに学ぶ公開講座を開催することができた。（畑 美祈）

- ・対象／一般・学生
- ・定員／各講義120名（応募者多数の場合には参加人数を調整）
- ・会場／大阪大学中之島センター（大阪市北区中之島4-3-53）
- ・受講料／全講義を受講する場合 7,700円
全8講義のうち、1～数講義を選択受講する場合
1講義あたり 1,600円
- ・受講者数／のべ914名
- ・申込／大阪大学共創推進部社会学共創課
- ・主催／大阪大学
- ・時間／原則として1講義90分
- ・開催頻度／年1回 10月～12月の期間内
- ・開設時期／1968年



受講生募集パンフ表紙

成果

今年度は、「次世代研究者と拓く共創社会」というテーマのもと、各研究領域において次世代を切り拓く研究を推進する研究者を講師として開催し、資本主義とお金の未来、脳における自己認識、地域資源としての寺社仏閣の災害時の機能、紙デバイスの可能性など、文系理系を織り交ぜてさまざまな講義が行われた。

受講者のアンケートでは、「これからの研究に期待したい」「講義内容を日々の生活に生かしたい」「新しい研究でわくわくした」「知識がなくてもわかりやすかった」などの意見・感想が寄せられた。テーマにもとづき、受講者が、未来を担う研究に触れたことで、次の時代をともに感じられる講義を展開できたといえる。

また、受講者数においては、昨年度に続き大きな会場で開催した結果、のべ受講者数約1,000人と、多くの方にご受講頂いた。

会場のレイアウトについて、なるべく多くの方にご受講頂けるよう変更した結果、メモをとる机や荷物を置くスペースが確保できず、席が狭いというご指摘があった。

また、申込者を年代別にみると、近年若年化傾向にあるものの、40代以下の受講が約15%とまだまだ若い世代の参加が少なく、いかに積極的に受講していただけるかが今後とも検討課題である。

定員数の調整や会場の大きさについてはさらに検討を重ね、引き続きより多くの方にご参加いただきつつ、幅広い世代の方々になるべく快適に受講いただけるように工夫できればと考える。

全体の総括としては、課題もあったが、今年度も、大阪大学の高度な研究と教育の成果、文化的資源を広く社会に還元する講座として役割を果たせたと思う。

第 51 回 大阪大学公開講座
共通テーマ「次世代研究者と拓く共創社会」

■ 1 資本主義とお金の未来	
安田 洋祐 (大阪大学大学院経済学研究科・准教授) 10/2 (水) 18:30～20:00 申込者数 172 名	世界経済はどのように発展して、これからどこへ向かっていくのでしょうか。本講義では、グローバル化や技術革新、格差の拡大といった課題を踏まえた上で、資本主義とお金の新しい可能性を探っていきます。
■ 2 自分を認識し、自分を作り出す脳	
守田 知代 (大阪大学先導的学際研究機構・特任准教授) 10/8 (火) 18:30～20:00 申込者数 172 名	私たちにとって特別な存在である「自分」。子供から大人まで様々な脳を調べることで、自分という感覚がどのように育まれるのか、右半球の知られざる機能が分かってきました。最新の脳科学の知見を交えながら、自己の感覚や認識を生み出す脳の仕組みについてお話します。
■ 3 おいしさの科学 ～匂いがあるのに匂わない？ 普段は気づきにくい嗅覚の重要性～	
竹内 裕子 (大阪大学大学院生命機能研究科・准教授) 10/21 (月) 18:30～20:00 申込者数 157 名	おいしさを決める 1 要素に風味がありますが、この風味を左右しているのは、味覚ではなく、嗅覚であることは意外と知られていません。本講座では、私達が匂いを感じるしくみと飲食品の風味との関わりをワインを例に取り、細胞レベルの最新実験データと共に解説します。
■ 4 お寺と神社で助かる防災？ ～科学技術と地域資源による安心・安全社会～	
稲場 圭信 (大阪大学大学院人間科学研究科・教授) 10/23 (水) 18:30～20:00 申込者数 141 名	防災の取り組みは待った無し。お寺でも神社でも新たな取り組みが始まっています。産官社学連携の共創知による安心・安全社会の構築の取り組みをお話いたします。

2.公開講座・催しの実施 > 2-1. 大阪大学公開講座（第 51 回）

■ 5 はたらく細胞 ～病気ごとに異なる、新種マクロファージ (疾患特異的マクロファージ)の発見～	
佐藤 荘 (免疫学フロンティア研究センター・准教授) 11/6 (水) 18:30～20:00 申込者数 170 名	マクロファージという細胞は 100 年以上前に発見されて以来、1 種類しかなく、異物のごみ処理係として下働きをされると考えられてきました。最近の研究から、マクロファージにはどうやら複数種あることがわかり、各々が特定の病気と密接に関わっているようです。100 年以上スポットライトを浴びていなかったマクロファージの新しい働きに注目です。
■ 6 「ふつう」ってなに？ ～ダイバーシティとインクルージョン再考～	
ほんま なほ (大阪大学 CO デザインセンター・准教授) 11/12 (火) 18:30～20:00 申込者数 149 名	ダイバーシティ＝女性活躍ではありません。さまざまな排除を前提につくられているこの社会の「ふつう」について、フェミニズム研究、クィア研究、障害学、当事者研究など例に、考え直してみましょう。
■ 7 たかが紙、されど紙 ～未来の紙が拓く新しい世界～	
古賀 大尚 (大阪大学産業科学研究所・准教授) 11/25 (月) 18:30～20:00 申込者数 151 名	紙は、約 2000 年前に発明された歴史の古い材料ですが、未だ多くの可能性を秘めています。 本講義では、「透明で電気の流れる紙」、「デジタル情報を記憶する紙」、「紙の電子ペーパー」等、最新科学技術によってリノベーションした「未来の紙」を紹介します。
■ 8 南北朝・室町時代の改元	
松永 和浩 (大阪大学社会学部・准教授) 12/4 (水) 18:30～20:00 申込者数 148 名	2019 年 5 月 1 日の改元は、日本人に元号の意義を考えさせる機会となりました。そもそも天皇の代替わりで改元となる制度は、明治以降のものです。本講座では、近代以前の年号の制度や意義について、南北朝・室町期を事例に紹介します。

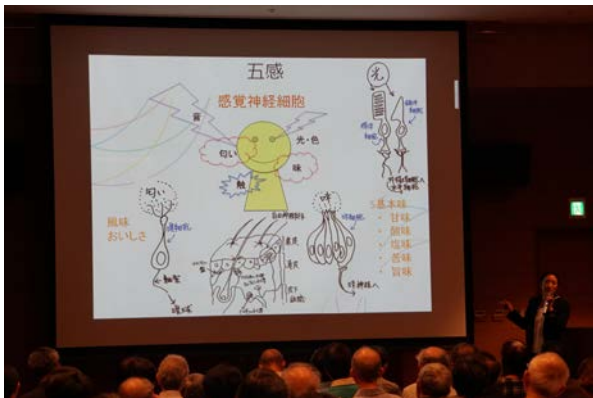
講義風景



1. 資本主義とお金の未来
(10/2 安田准教授)



2. 自分を認識し、自分を作り出す脳
(10/8 守田特任准教授)



3. おいしさの科学 ～匂いがあるのに匂わない？
普段は気づきにくい嗅覚の重要性～
(10/21 竹内准教授)



4. お寺と神社で助かる防災？～科学技術と地域資源による安心・安全社会～ (10/23 稲場教授)



5. はたらく細胞 ～病気ごとに異なる、新種マクロファージ（疾患特異的マクロファージ）の発見
(11/6 佐藤准教授)



6. 「ふつう」ってなに？～ダイバーシティとインクルージョン再考
(11/12 ほんま准教授)

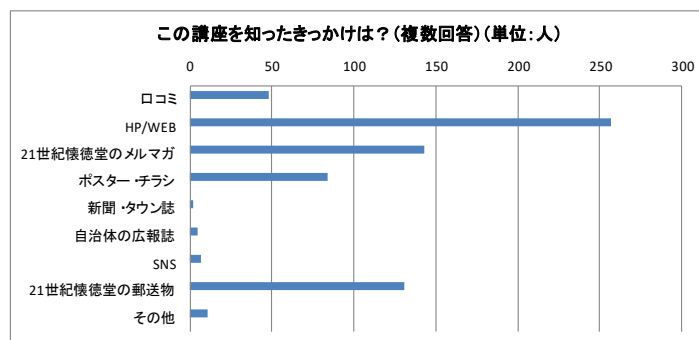
2.公開講座・催しの実施 > 2-1. 大阪大学公開講座（第51回）

第51回大阪大学公開講座 アンケート集計結果より（抜粋）

■講座を知ったきっかけは？

（複数回答）（単位：人）

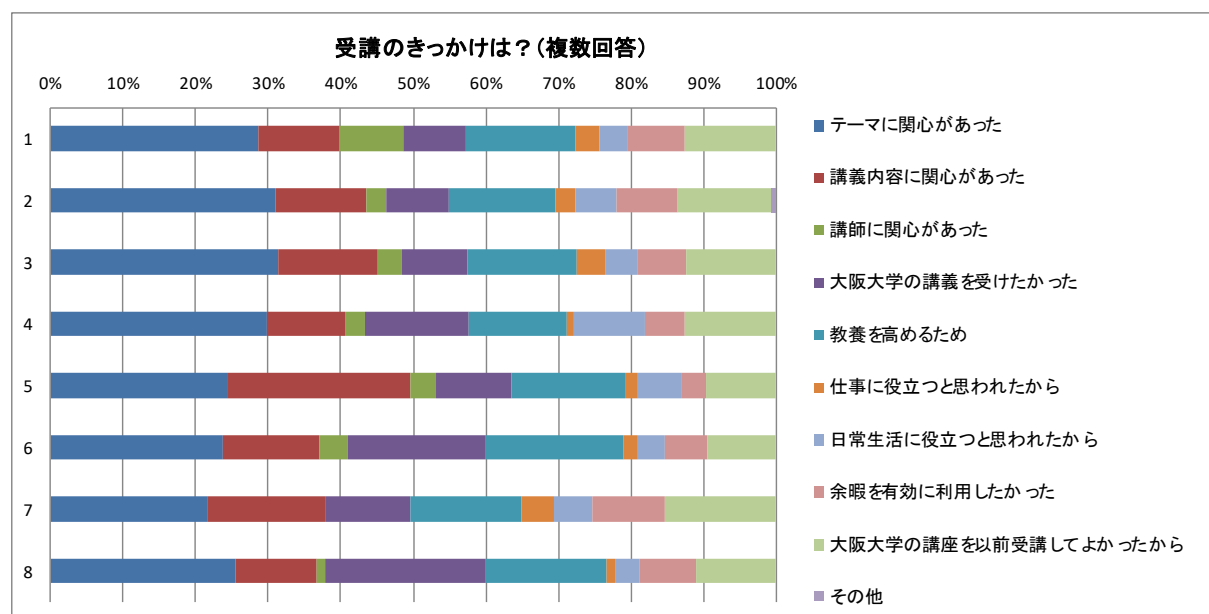
ロコミ	48
HP/WEB	257
21世紀懐徳堂のメルマガ	143
ポスター・チラシ	84
新聞・タウン誌	2
自治体の広報誌	5
SNS	7
21世紀懐徳堂の郵送物	131
その他	11



ホームページ詳細：大阪大学HP(106)、21世紀懐徳堂HP(93)、その他(7)

■受講のきっかけは？（複数回答）（単位：人）

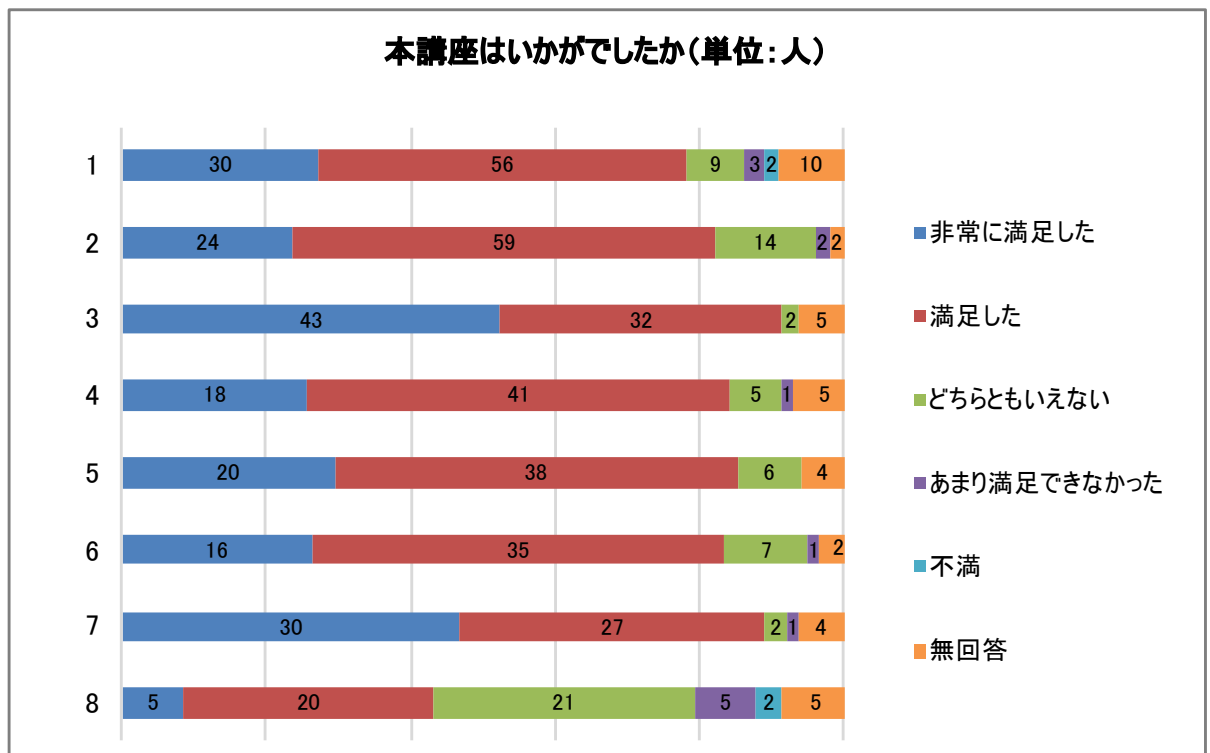
	1	2	3	4	5	6	7	8
テーマに関心があった	59	55	48	33	28	25	24	23
講義内容に関心があった	23	22	21	12	29	14	18	10
講師に関心があった	18	5	5	3	4	4	0	1
大阪大学の講義を受けたかった	18	15	14	16	12	20	13	20
教養を高めるため	31	26	23	15	18	20	17	15
仕事に役立つと思われたから	7	5	6	1	2	2	5	1
日常生活に役立つと思われたから	8	10	7	11	7	4	6	3
余暇を有効に利用したかった	16	15	10	6	4	6	11	7
大阪大学の講座を以前受講してよかったから	26	23	19	14	11	10	17	10
その他	0	1	0	0	0	0	0	0



■本講座はいかがでしたか？ ①=回答者数（単位：人）、②=割合（単位：%）

	1		2		3		4	
	①	②	①	②	①	②	①	②
非常に満足した	30	27.3	24	23.8	43	52.4	18	25.7
満足した	56	50.9	59	58.4	32	39.0	41	58.6
どちらともいえない	9	8.2	14	13.9	2	2.4	5	7.1
あまり満足できなかった	3	2.7	2	2.0	0	0.0	1	1.4
不満	2	1.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0
無回答	10	9.1	2	2.0	5	6.1	5	7.1
合計	110	100	101	100	82	100	70	100

	5		6		7		8	
	①	②	①	②	①	②	①	②
非常に満足した	20	29.4	16	26.2	30	46.9	5	8.6
満足した	38	55.9	35	57.4	27	42.2	20	34.5
どちらともいえない	6	8.8	7	11.5	2	3.1	21	36.2
あまり満足できなかった	0	0.0	1	1.6	1	1.6	5	8.6
不満	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	3.4
無回答	4	5.9	2	3.3	4	6.3	5	8.6
合計	68	100	61	100	64	100	58	100



2-2. Handai-Asahi 中之島塾

Handai-Asahi 中之島塾は、2004 年に大阪大学第 3 キャンパス・中之島センターの誕生を機に設けられた、朝日カルチャーセンターと大阪大学との共同講座。大阪大学が取り組むユニークな研究の成果を、主に学外からの受講生に向け、大阪大学の研究者が講義する。知識を吸収しながら問題を発見し、考察する力をも養う。（※2007 年、大阪外国語大学との統合により箕面キャンパスが第 3 キャンパスに。現在、中之島センターは第 4 キャンパスという位置づけ）（沢村 有生）

- ・対象／一般
- ・定員／各講座により異なる
- ・会場／大阪大学中之島センター
- ・年間受講者数／930 名
- ・受講料／各回 1,620 円（2019 年 9 月まで）、1,650 円（2019 年 10 月以降）
（朝日カルチャーセンターへの入会金不要）
- ・申込先／朝日カルチャーセンター
- ・主催／大阪大学共創機構社会学部共創本部 21 世紀懐徳堂、
朝日カルチャーセンター
- ・時間／1 講義 90 分
- ・開催頻度／年 4 期、各 5 講座
- ・開設時期／2004 年 10 月



成果

年間を通じてコンスタントに開講。統一テーマは設けず総合大学の強みとしてバラエティに富んだ講座を提供している。以下は直近5年間の講座数と受講者数の推移。

- ・ 2015 年度・・・21 講座、1,274 名
- ・ 2016 年度・・・21 講座、1,134 名
- ・ 2017 年度・・・20 講座、1,163 名
- ・ 2018 年度・・・20 講座、1,158 名
- ・ 2019 年度・・・20 講座、930 名

15 年間に渡り、阪大の研究者のアウトリーチをオーソドックスな座学の形で継続的に開講、21 世紀懐徳堂主催事業の最もベースとなる講座であった。開設当初は、まだ閑散としていた中之島センターの稼働率を上げ、社会学連携の拠点としての存在感を学内外に示す目的もあったが、近年、同センターは講義室の確保が困難なほどの賑わいとなり、本講座も同センターの価値向上に一役かったと思われる。受講生のトータルは約 15,700 名、321 講座にのぼる。共創機構の組織改変にともない、本講座は 2019 年度で終了となる。



6/16 「生き方死に方と在宅医療を考える」



9/22 「外国語として学ぶ日本語の面白さとむずかしさ」

■ スーパーフードの効用と健康長寿	
山口 明人 (大阪大学産業科学研究所・特任教授) 4/13 (土) 10:30～12:00 大阪大学中之島センター 講義室 304 受講者数 42 名	今話題のスーパーフードは、肉食に偏った米国の食生活の見直しから出てきた概念で、体に良い栄養成分が特に豊富に含まれている野菜、果実、海産物などを指します。日本の食生活では普通に食されているものであり、そのまま取り入れてもあまり大きな意味はありません。そのため、日本でのスーパーフード・ブームは新手のサプリメントのような販売方法がとられています。しかし、スーパーフードの考え方は、日本の食生活に即した取り入れ方をすれば、健康長寿に大きな意義があります。本講座では、スーパーフードの歴史と思想、日本の食生活に即した効能・効用を解説し、美味にスーパーフードを食するための実践的な調理法まで紹介します。
■ 怖い動脈硬化にならないためには？一脂質異常症とメタボを治そう！	
山下 静也 (地方独立行政法人りんくう総合医療センター 副理事長・病院長) 6/2 (日) 13:30～15:00 大阪大学中之島センター 講義室 703 受講者数 56 名	心筋梗塞や脳卒中は突然命を落とすこともある怖い病気ですが、そのもとになるのは動脈硬化です。動脈硬化になりやすくさせる生活習慣として、喫煙、運動不足がありますが、脂質異常症、高血圧症、糖尿病などの病気が有名です。今回の講座では動脈硬化にならないために、特に脂質異常症とメタボについて、どのようにすれば防げるのか、また改善できるのかについてお話したいと思います。
■ 生き方死に方と在宅医療を考える	
山中 浩司 (大阪大学大学院人間科学研究科・教授) 6/16 (日) 10:30～12:00 大阪大学中之島センター 講義室 703 受講者数 73 名	高齢になると医療との付き合いが増えます。薬も増えれば入院も増えます。長生きしたくない、病院で寝たきりはいや、という人は多いですが、私の身近な例で考えても意外と人は簡単に入院します。理由は「元気になってから死にたい」です。もう一つの理由は「家族の負担」です。在宅医療が普及するとどうなるでしょうか。入院は減るでしょうか、家族の負担はどうでしょうか。医療の適切なあり方使い方をみなさんと考えたいと思います。
■ 「死後の世界」と東西文化の交流ー日本の冥界観はどこから来たのか？	
荒川 正晴 (大阪大学大学院文学研究科・教授) 6/16 (日) 15:00～16:30 大阪大学中之島センター 講義室 703 受講者数 79 名	古来、人は死後の世界のことをいろいろと思い描いてきました。ただ何故か、民族や宗教・文化の違いを越え、人々の死後のイメージには共通しているところがあります。たとえば、極楽と地獄の存在だけでなく、死後に現れる三途の川や閻魔さまなどは、少なくとも東アジアでは広く共有されています。ただ、それはどこから来て、どのようにして形成されてきたものなのでしょうか？この講座では、中央アジアや中国の墳墓より出土した文字・画像資料を用いて、この問題について考えてみたいと思います。
■ 古代語の謎を解く	
蜂矢 真郷 (大阪大学・名誉教授) 6/30 (日) 13:30～15:00 大阪大学中之島センター 講義室 507 受講者数 33 名	日本の古代のことばについて、形や意味を変えたりもしながら現代でも用いられているものを中心に、その語の成り立ちや由来を考えます。あまり根拠のない語源説のようなものではなく、国語学の、語構成を研究する立場から、いろんな語の表すところに迫ります。多くの語を合わせて比べてみると分かってくることもあります。分かりにくいことに迫る時には謎解きのようなおもしろさが、その由来に迫る時にはルーツを探るようなおもしろさがあるでしょう。(取り上げることばは毎回変わります)

2.公開講座・催しの実施 > 2-2. Handai-Asahi 中之島塾

Handai-Asahi 中之島塾 2019 年 7～9 月期 講座一覧

■ 腸内フローラの話：微生物と共に生きる人生を知ろう	
中村 昇太 (大阪大学微生物病研究所・特任准教授) 7/7 (日) 13:30～15:00 大阪大学中之島センター 講義室 304 受講者数 61 名	ヒトは生まれてから 3 歳頃までに環境から様々な細菌を取り込んで腸内フローラ(腸内細菌叢)を確立し、その後の一生を一緒に暮らします。この腸内フローラは個人毎に異なり、病気等になり調子が悪くなると、腸内フローラも乱れ、回復すると元に戻ります。本講座では、この腸内フローラの基本的な知識や最新の研究成果を紹介します。
■ めまいと難聴の仕組みと原因 ～内耳疾患の最新の治療について	
今井 貴夫 (大阪大学大学院医学系研究科・准教授) 9/1 (日) 10:30～12:00 大阪大学中之島センター 講義室 304 受講者数 63 名	内耳は聴覚だけではなく平衡覚もつかさどっていますので、内耳の疾患により、難聴やめまい症状があらわれます。両側の高度感音難聴には人工内耳埋め込み術という治療法があります。人工内耳は人工臓器の中で最も成功しているものです。iPS 細胞を用いた内耳再生医療の研究も実用化はまだですが、進んでいます。内耳の生理、メニエール病などの内耳疾患の診断および治療、最新の内耳研究について解説します。
■ 古代語の謎を解く	
蜂矢 真郷 (大阪大学・名誉教授) 9/1 (日) 13:30～15:00 大阪大学中之島センター 講義室 507 受講者数 28 名	日本の古代のことばについて、形や意味を変えたりもしながら現代でも用いられているものを中心に、その語の成り立ちや由来を考えます。あまり根拠のない語源説のようなものではなく、国語学の、語構成を研究する立場から、いろんな語の表すところに迫ります。多くの語を合わせて比べてみると分かってくることもあります。分かりにくいことに迫る時には謎解きのようなおもしろさが、その由来に迫る時にはルーツを探るようなおもしろさがあるでしょう。(取り上げることばは毎回変わります)
■ 温暖化と私たち—社会科学の視点から—	
北村 周平 (大阪大学大学院国際公共政策研究科・講師) 9/21 (土) 10:30～12:00 大阪大学中之島センター 講義室 507 受講者数 31 名	温暖化と聞くと、地球規模のとても大きな問題で、あまり身近なこととして実感できないかもしれません。しかし、ふと立ち止まってみると、教室にエアコンを設置しようという話や、夏の高校野球と日射病の話など、日常の至るところで関連する話を耳にします。気温が上がると、私たち一人ひとりや社会全体にどのような影響があるのでしょうか。これまでの研究でわかってきたことを踏まえ、みなさんと一緒に考えたいと思います。
■ 外国語として学ぶ日本語の面白さとむずかしさ ～日本語教育の現場から	
眞嶋 潤子 (大阪大学大学院言語文化研究科・教授) 9/22 (日) 10:30～12:00 大阪大学中之島センター 講義室 304 受講者数 71 名	日本の在留外国人数は増加の一途を辿っています。長年、日本語教育の現場で主に留学生に日本語を教え、日本語教員の養成にも関わってきた講師が、日本語が母語ではない方々の日本語の習得中に現れる、面白くてむずかしい問いを紹介し、日本語を外国語として学ぶ際のメカニズムを紐解きます。例えば「山の上に、お弁当を食べました」という「間違い」の意外な理由とはなんでしょう？一緒に考えてみませんか。

■ 日本の伝統文化、能狂言に親しむ	
中尾 薫 (大阪大学大学院文学研究科・准教授) 10/27 (日) 10:30～12:00 大阪大学中之島センター 講義室 507 受講者数 26 名	ユネスコ世界無形文化遺産に登録された伝統演劇「能狂言」には、長い歴史と文化、普遍的な美意識や喜怒哀楽などの心が凝縮されています。しかし、なぜ能は難しく、わかりにくいと思う人が多いのでしょうか？講義では、能狂言を敬遠する歴史とその背景（原因）をひもときながら、能狂言の特徴や魅力を考えてみたいと思います。
■ 長期志向・短期志向の違いから見る貿易戦争	
堀井 亮 (大阪大学社会経済研究所・教授・所長) 11/10 (日) 10:30～12:00 大阪大学中之島センター 講義室 507 受講者数 30 名	日本人や中国人は、将来や老後のことを心配して、節約や貯蓄が大事だと思う傾向があります。一方、アメリカ人は今を充実して生きることを比較的重視します。このように国によって、長期志向・短期志向の考え方の違いがあります。ところが短期志向の国は、たくさん消費するので、貿易赤字になり、借金（対外債務）がかさみます。この講義では、長期志向・短期志向の違いが最近の日中貿易戦争や、かつての日米貿易摩擦の要因になっているという最近の研究を解説します。
■ 認知症医療の過去、現在、未来	
橋本 衛 (大阪大学大学院連合小児発達学研究所・准教授) 11/23 (土祝) 10:30～12:00 大阪大学中之島センター 講義室 703 受講者数 49 名	近年の急速な高齢化の進展により、認知症は本邦における重大な社会問題となっています。認知症に対する研究や医療は目覚ましい進歩を遂げていますが、残念ながら認知症を根治させる薬はいまだ開発されておらず、認知症の人は年々増えています。このような状況に対して我々は何をすれば良いのでしょうか。そもそも何ができるのでしょうか。この問いに対して、過去、現在の認知症医療を概観しつつ、未来の認知症医療を考えていきたいと思います。
■ ミャンマーのいまを歴史的に考える ～アウンサンスーチーとロヒンギャ問題	
池田 一人 (大阪大学大学院言語文化研究科・准教授) 12/7 (土) 10:30～12:00 大阪大学中之島センター 講義室 304 受講者数 38 名	ミャンマー（ビルマ）では 2010 年に軍政が自己民主化を始め、2016 年にアウンサンスーチー政権が樹立されました。ミャンマー研究者の誰もが予想できなかった政治展開です。同時に国際社会は、ノーベル平和賞受賞者のスーチー氏がロヒンギャ問題でかくも保守的な対応を取るとは予想しませんでした。ミャンマーではいま、どんな変化が訪れているのでしょうか。その「双子の問題」—民主化問題と民族問題—を歴史的に考えてみたいと思います。
■ 臓器移植はなぜ社会の問題となるのか？：医療人類学の考え方	
山崎 吾郎 (大阪大学 CO デザインセンター・准教授) 12/7 (土) 13:30～15:00 大阪大学中之島センター 講義室 304 受講者数 20 名	新しい技術は、ときに私たちの価値観、生命観、さらには社会のあり方そのものを変化させます。臓器移植医療は、そうした社会と先端技術の関係を考える上での格好のケーススタディといえるでしょう。「脳死」は人の死なのか、臓器は商品なのか、文化の違いは関係あるのか…。医療人類学の研究を紹介しながら、この医療についてなされてきた数々の争点について、一緒に考えてみたいと思います。

Handai-Asahi 中之島塾 2020 年 1～3 月期 講座一覧

■ 大阪弁ぼちぼち講座—「知らんけど」の秘密	
金水 敏 (大阪大学大学院文学研究科・教授) 1/25 (土) 10:30～12:00 大阪大学中之島センター 講義室 304 受講者数 101 名	大阪人・関西人の話し方には、単に大阪弁・関西弁を話すという以上に、独特の話し方の特徴というべきものがあります。例えば、オノマトペの多用、「ぼけ」「つつこみ」の応酬、「落ち」への強い執着、よく知らないことでも喋ってしまい、とりあえず「知らんけど」と言い添える癖など。日本国内の他地域と比較しても、きわめて特異といえるこのような言語文化や、そこに通底する大阪人・関西人のコミュニケーション哲学は、いったいどのような形に形成されたのでしょうか。
■ 老年行動学からみた認知症	
佐藤 真一 (大阪大学大学院人間科学研究科・教授) 2/1 (土) 10:30～12:00 大阪大学中之島センター 講義室 304 受講者数 78 名	認知症は多くの中高年の人々が恐れている病気ですが、周囲のことが何もわからなくなる、家族や周囲の人たちに迷惑をかけるなど、漠然としたイメージが先行しています。認知症の人の不可解な行動には理由があります。その理由を知ることによって介護は楽になりますし、認知症のご本人も幸せに暮らすことができます。今回の講座では、私たちの研究を紹介しながら、認知症の人の不可解な行動の背後にある心の世界について考えます。
■ うつの人を支える人のために ～どうかあなたが追い詰められてしまいませんか～	
根岸 和政 (大阪大学大学院工学研究科・講師) 2/15 (土) 10:30～12:00 大阪大学中之島センター 講義室 304 受講者数 34 名	うつに苦しむ方への支援・援助の方法は、ある程度確立しているように思います。しかし、うつの人を支えることは、とても労力を必要とします。支え手となる私たちが疲弊してしまい共倒れになってしまったら、元も子もなくなってしまう。うつを人の支え手として大切なことは何か。それは、支え手となる私たち自身の心の健康なのです。本講座では、私たちの心の健康維持・増進についてご紹介させていただきます。
■ 日本人の肥満・メタボ研究と医療、30 年	
下村 伊一郎 (大阪大学大学院医学系研究科・教授) 3/5 (木) 13:00～14:30 大阪大学中之島センター 講義室 703 受講者数 17 名	私は、30 年にわたって肥満・メタボに関わる仕事をしてきました。内臓脂肪型肥満・皮下脂肪型肥満、メタボリックシンドローム、アディポサイトカイン概念（全身の中で脂肪がたくさんホルモンを作ること）、また長寿ホルモンと呼ばれるようになったアディポネクチンの発見・医療展開など、先輩・同僚・後輩たちと多くの仕事に携らせていただけてきました。この講座では、それらの軌跡と現状の理解、そして未来への展望を考えたいと思います。
■ 豊臣秀吉と天皇	
野村 玄 (大阪大学大学院文学研究科・准教授) 3/14 (土) 10:30～12:00 大阪大学中之島センター 講義室 304 ※開催延期	周知のように豊臣秀吉は関白として諸大名を服属させました。なぜ秀吉が將軍職ではなく関白職を選択したのかについては諸説ありますが、秀吉による関白職の選択は、同時に秀吉が天皇への接近を選択したことをも意味します。なぜ秀吉は天皇に近づいたのでしょうか。尊崇や政治的利用などといった形式的説明では理解できない側面が多くあります。天皇とは何かという問題について、豊臣期を中心に考えられたらと思います。

■アンケート結果から

受講生のプロフィールと社会学連携活動への理解度を調査した（930 名中、676 名が回答）。

●性別（人）

男 性	376
女 性	291
無回答	9
計	676

●満足度（人）

1-不満足	4
2	9
3	82
4	278
5-満足	229
無回答	74

●年代（人）

10 歳未満	0
10 歳代	1
20 歳代	6
30 歳代	23
40 歳代	41
50 歳代	124
60 歳代	200
70 歳以上	259
無回答	22

●職業（人）

学生	10
会社員	126
自営業	41
公務員	21
阪大教職員	7
無職	335
その他	114
無回答	23

●阪大主催事業の参加経験（人）

ある	469
ない（今回が初回）	66
無回答	141

●阪大が社会学連携活動に力を注いでいると知っていましたか？（人）

よく知っていた	300
聞いたことはある	198
今回初めて知った	145
無回答	33

●自由記述より抜粋

- ・子供の頃の「ワクワクする気持ち」を思い出した。「小学校の授業」をきちんと聞いておけばよかったと後悔、基礎知識があればもっと今日の内容が頭に入ってきたと思う。
- ・丁寧な説明をして下さり、良く理解できました。ありがとうございました。
- ・資料も豊富で分かりやすい講演でした。
- ・大変熱心に教えて頂きました。全然時間が足りないくらいでした。
- ・「専門家」ってすごい、の一言、深く広く研究されている姿に関して、尊敬しました。
- ・お話がとてもわかりやすく、声も大きく聞きやすくてよかった。今日から食事に気を付け、運動も頑張りたいと思います。資料も大変わかりやすく、たくさんあり、帰宅後もゆっくり見直せます。ありがとうございました。
- ・難しい内容を面白く説明頂き興味を持ってました。病気との相関など説明されつつあるような最先端の話にももう少し突っ込んでいただけたと思いました。
- ・門外漢ですが、先生の研究内容にこういうテーマがあったのかと感銘しました。
- ・大学で研究度の高いレベルを少し理解でき、若い人の研究が進んでほしいと思う。
- ・講義のところどころかに判りやすい例えを入れていただいて、とても腸内に対して興味を持ちました。腸内細菌の解明がこれからの医療に大いに必要（重要）な分野になってゆくような気がします。
- ・私自身、突発性難聴を患っているため、有毛細胞の再生の研究が進んでいるということが一番印象に残りました。医学の深化に期待したいです。
- ・タイムマネジメントを少し検討いただければと思います。終了時間以後の質疑はいったん解散後に個別にするなり、他も検討してはと思いました。
- ・講師はもう少し一般的な話をしてほしい。専門的なことはいい。
- ・非常に専門的で、日頃の疑問も解けた。ありがとうございました。質問時間を増やしてほしい。
- ・資料があったほうが後で見直してもわかるので、いただけたほうがありがたかったです。
- ・時間が限られていて、先生が伝えたいことのごく一部しかお話できていないような印象でしたが、本日の内容をさらに深められるポイントが要所にあったと感じ有意義でした。

2-3. 大阪大学 21 世紀懷徳堂 i-spot 講座

大阪大学が大阪市都市計画局と協同で提供する公開講座で、それぞれの専門分野からともに「学び合う」を意識したテーマ設定と講座スタイルが特徴。講師は、原則として本学若手教員を中心に構成し、まちづくりをはじめ幅広い分野の講座を展開している。

(肥後 楽)

- ・対象／一般
- ・定員／各回 30 名（小学生対象講座の場合 12 組、24 名）
※開講日までに定員に達した場合、35 名まで受付
- ・会場／大阪市まちづくり情報発信施設「アイ・スポット」
（大阪市中央区今橋 4-1-1 淀屋橋 odona2F）
- ・受講者数／前期 221 名、後期 92 名
- ・受講料／無料
- ・申込／アイ・スポット
- ・主催／大阪大学共創機構社会学共創本部 21 世紀懷徳堂、
大阪市都市計画局
- ・時間／原則として 1 講義 90 分
- ・開催頻度／年 2 期、計 14 講座
- ・講座開設時期／2008 年 10 月



成果

当講座は、気軽に参加できる 21 世紀懷徳堂の公開講座として長く親しまれてきた。受講料が無料であることに加え、大学の研究を自らに引きつけて考えられるテーマ設定や 2 種類の開講時間、夏休みの小学生対象講座等により大学の公開講座に参加したことがない人にも気軽に参加できる入り口の役割を果たした。

また、会場のアイ・スポットは、交通の便が良く大勢の人が行き交う商業施設にあり、大学・自治体・市民が交流

する「まちづくりの場」として発展した。

参加者からは「普段の生活を考えるきっかけとなった」「研究と自分の生活の中にあるつながりを見つけることができた」などの声が寄せられ、「大学の研究をわかりやすい形で社会に拓く」という目的が十分に参加者にも浸透していたことがうかがえる。

共創機構の組織改編にともない、本講座は 2019 年度で終了となる。



8/2 「やっぴいいマネ・悪いマネ」



7/31 「鳥の歌が教えてくれること」

大阪大学 21 世紀懐徳堂 i-spot 講座 2019 年度前期 講座一覧
「空を飛ぶ」「世界と日本」の 2 シリーズ

■ フィンランドに生きる～複数の言葉が共存する国の歴史（世界と日本①）	
古谷 大輔 （大阪大学大学院言語文化研究科・准教授） 7/26（金）19:00～20:30 受講者数 25 名（申込受付数 34 名）	2019 年に日本との外交関係樹立 100 周年を迎えるフィンランド。そこにはフィンランド語を話す人たちとスウェーデン語を話す人たちが共存しています。日本ではフィンランドの福祉や教育などへの関心が高まっていますが、フィンランドを理解する鍵はひとつの国に複数の言葉が共存する「くにかたち」にあります。この講座では、隣国スウェーデンの視点も交えながら、そうした「くにかたち」が築かれてきた道のりをお話します。
■ 鳥の歌が教えてくれること（空を飛ぶ①）	
松林 志保 （大阪大学大学院工学研究科・特任准教授） 7/31（水）18:30～20:00 受講者数 18 名（申込受付数 32 名）	鳥の歌を聞いたとき、今どこで鳴いたんだろう？なんて言っているのか知りたい！と思ったことはありませんか？本講では、ロボットの耳を使った鳥類の新しい観測技法の紹介と、野外調査を行う中で「聞こえてきた」鳥の歌の世界の一片をご紹介します。森や野生動物が好きな方、ロボットや AI に興味がある方、ぜひご参加ください。
■ なぜ、医師が大阪の「空を飛ぶ」のか—大阪府ドクターヘリの紹介（空を飛ぶ②）	
中川 雄公 （大阪大学医学部附属病院・講師） 8/21（水）18:30～20:00 受講者数 25 名（申込者数 31 名）	日本では、現在、53 機のドクターヘリが運航しています。少なくとも 53 人の医師が、毎日のように空を飛んでいることになります。その中の一つ、大阪府ドクターヘリは 2008 年 1 月から運航が始まりました。どうして、医師が、日本の、さらに、大阪の空を飛ぶ必要があるのでしょうか。本講座では、大阪府ドクターヘリ導入の経緯や活動の紹介を通じて、救急医療におけるドクターヘリの意義と役割を解説します。
■ 空と航空機と軍事の世界—日本とその近傍で軍用機が係わるあれこれの事例を国際法から見ると—（空を飛ぶ③）	
真山 全 （大阪大学大学院国際公共政策研究科・教授） 8/28（水）18:30～20:00 受講者数 29 名（申込受付数 55 名）	戦争でなくとも日本とその周辺には軍用機が徘徊しその密度は世界有数でしょう。普通なら日常生活常同で民間機に乗る程度ですから実感しませんが、軍人の他にそんなことばかり考える法学者もいます。国際法学者です。高度 100 キロを弾道弾が駆け抜けたら領空侵犯？サミット会場に乘取外国旅客機が突入してきたら空自戦闘機が空中で爆砕していい？亡命軍用機をバラして調査可？米軍機は何故気ままに日本で飛べる？嘉手納拠点の米軍仮想敵役の民間軍事会社戦闘機が落ちたら誰が責任とる？中国軍機が勝手に通れる日本領空ってある？といった問題を国際法から分析します。
■ イラン文化の背景を探る—伝統と革新と—（世界と日本②）	
堂山 英次郎 （大阪大学大学院文学研究科・教授） 9/5（木）19:00～20:30 受講者数 31 名（申込受付数 40 名）	イランは紀元前から続く長い歴史の中で、多くの宗教的、政治的、社会的変容をこうむってきました。しかしそのたびごとに新しい文化を取り入れ、古い文化と調和させながら、激動の時代をたくましく乗り越えてきたのです。こうした伝統と革新の数々が、今のイラン文化に独自性を与えていると言えるでしょう。今回の講座では、歴史書、宗教文献、文学作品など様々な文献資料が語るイラン文化の歴史をひもときながら、この文化の不思議な魅力の源流をさぐりたいと思います。
■ オーストリア—多民族国家ハプスブルクの残影—（世界と日本③）	
三谷 研爾 （大阪大学大学院文学研究科・教授） 9/11（水）19:00～20:30 受講者数 31 名（申込受付数 55 名）	オーストラリアと間違われることもすくなくないオーストリア。現在でこそ小さなこの国は、かつてはハプスブルク帝国の名で知られた大国でした。それは典型的な中欧の多民族国家で、首都ウィーンはその文化的栄光を今に伝える街です。しかしこの帝国は、さまざまな民族対立や反ユダヤ主義の温床でもありました。こうしたハプスブルクの歴史が濃い影を落としているオーストリアの姿をご紹介します。

2.公開講座・催しの実施 > 2-3. 大阪大学 21 世紀懐徳堂 i-spot 講座

2019 年度前期 小学生対象講座

■ やっていいマネ・悪いマネ	
加藤 幹 (大阪大学知的基盤総合センター・特任教授) 8/2 (金) 14:00～15:30 受講者数 10 組 (申込者数 13 組)	人はマネをすることで成長します。マネをすることでいろいろなことができるようになります。しかし、人の作品を勝手にマネして公開するなど、マネをすることが悪いことになる時もあります。やっていいマネと悪いマネとはどこがちがうのでしょうか？また、ただのマネではなくてそこに自分の工夫が加わった場合はどうなのでしょう？ この講座では、かんたんな工作を通じてマネをすること、工夫をすることを体験するとともに、やっていいマネと悪いマネの違いについて学びます。
■ 箱庭フィギュアで我が家の「食」を考えよう	
山崎 あけみ (大阪大学大学院医学系研究科・教授) 8/5 (月) 14:00～15:30 受講者数 10 組 (申込者数 12 組)	みなさんは、「家族」と聞いてどんなイメージを思い浮かべますか？ご家庭によって、大切にしていることは色々あると思いますが、ある調査では「食事をしている時に家族だと感じる」と答えた人がとても多かったそうです。この講座では、箱庭フィギュア（どうぶつ・人・キャラクターの人形）を使って、みなさんご家族が、毎日の食事の中で大切にしていることを言葉にするワークショップを行います。親子にとって欠かせない食事の時間や、食べることについてのルールをふりかえり、おうちのみんなが大切にしていることを一緒に考えてみましょう。
■ 実験！台所で火山大爆発！	
佐伯 和人 (大阪大学大学院理学研究科・准教授) 8/9 (金) 10:00～12:30 受講者数 11 組 (申込者数 100 組)	火山はどうして爆発するの？火山からあふれる溶岩はどこからどうやってくるの？そんな疑問に答えるために、マグマが地下からあがってきて火山が爆発するまでを3つの実験で学びます。火山大好き佐伯和人先生と、近所のお店で簡単に集められる材料を使って、安全だけど、ちょっぴりスリルのある実験と一緒に楽しみましょう。近くで火山が爆発したらどうしたらいいか、命を守るための知識も身につけることができます。



2/18 「他人事ではない認知症：その予防からケアまで」



8/5 「箱庭フィギュアで我が家の「食」を考えよう」

大阪大学 21 世紀懐徳堂 i-spot 講座 2019 年度後期 講座一覧
「大学を社会に拓く」「これからの人とまちを考える」の 2 シリーズ

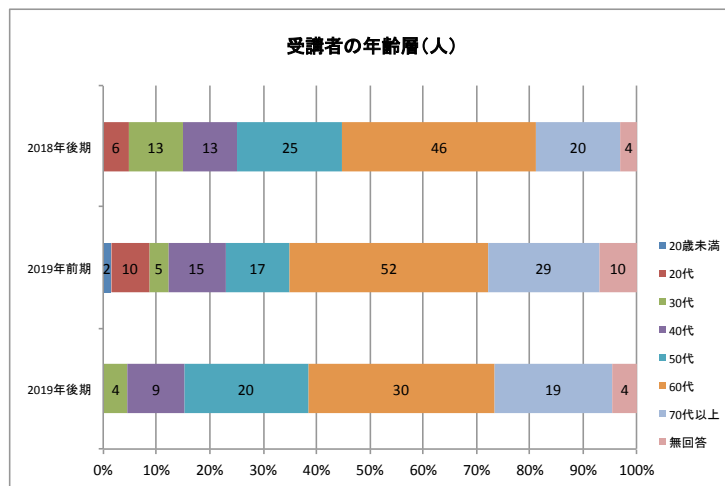
■ 子育てしやすい住環境を考える（これからの人とまちを考える①）	
伊丹 絵美子 （大阪大学大学院工学研究科・助教） 1/29（水）19:00～20:30 受講者数 12 名（申込受付数 18 名）	あなたは、どのような住環境の中で子育てをしたいですか。生活の便利さ、通勤のしやすさ、公園・緑の多さ、教育環境、実家からの距離など、子育て世帯が住環境に望むことは様々です。また、子育ての安心には人とのつながりも重要だと言われていますが、住環境は人のつながりにも貢献できるのでしょうか。 この講座では、子育て世帯の住環境選定やママ友ネットワーク形成等に関する研究成果を交えて、子育てしやすい住環境について考えたいと思います。
■ 私たち消費者、テクノロジーにどう向き合う？（これからの人とまちを考える②）	
勝又 壮太郎 （大阪大学大学院経済学研究科・准教授） 2/6（木）19:00～20:30 受講者数 28 名（申込受付数 37 名）	私たちの生活はテクノロジーによって目まぐるしく変わっています。スマートフォンの普及によって生活は便利になりました。また、キャッシュレス化が推進され、多くの新しい電子マネーが登場しています。あまりにも変わりすぎて不安な面もあるかもしれませんが、未来はどうなっていくのでしょうか。本講座では、企業経営・マーケティングの研究者の視点から、消費者である私たちの生活のこれからを考えていきます。
■ アーカイブズってなに？（大学を社会に拓く①）	
菅 真城 （大阪大学共創機構社会学共創本部・教授） 2/12（水）18:30～20:00 受講者数 25 名（申込受付数 40 名）	自衛隊日報、森友学園、加計学園、桜を見る会。これらに共通するものは何でしょうか。それは不適切な公文書管理です。この講座では、まず公文書について概説します。 公文書のうち、歴史的文化的に重要なものは公文書館（アーカイブズ）に移管され、永久保存されて、一般の利用に供されます。アーカイブズ施設で取り扱う資料のこともアーカイブズといいます。その業務を行う専門職員のことをアーキビストといいます。大阪大学アーカイブズを主な事例に、アーカイブズとアーキビストについて紹介します。
■ 他人事ではない認知症：その予防からケアまで（これからの人とまちを考える③）	
山川 みやえ （大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻・准教授） 2/18（火）19:00～20:30 受講者数 27 名（申込受付数 41 名）	超高齢社会の中で認知症は社会問題にまで発展しています。予防できる認知症もありますが、まだよくわからない認知症もあります。予防も大切ですが、もし、認知症になった後の生活やサポートもイメージできるようにしておくことも重要です。今回は、認知症の発症予防の観点だけではなく、認知症になってしまった後どうしたらよいかということまで、認知症一色でお話しさせていただきます。今回の話をきいて、少しでも認知症への不安が軽減できるようになれば幸いです。
■ 適塾のお引越し―近世大坂の町屋の所有と身分―（大学を社会に拓く②）	
尾崎真理 （大阪大学適塾記念センター・特任研究員） 2/26（水）14:00～15:30 ※開催中止	大阪市中央区北浜のオフィス街に現存する「適塾」は、我が国唯一の蘭学塾の遺構です。適塾は、天保 9 年（1838）に、蘭医学研究の第一人者とされる蘭方医緒方洪庵（1810-1863）によって、大坂の瓦町に開かれました。その後、弘化 2 年（1845）、洪庵は当時の過書町に塾を移転します。 これが現存する適塾です。適塾記念センターには洪庵が過書町に町屋を購入した際の史料一式が残されています。これらの史料から、洪庵がどのように町屋を入手したのか、当時の大坂の町屋の所有のあり方に触れながら明らかにします。
■ 大阪大学総合学術博物館～常設展の楽しみ～（大学を社会に拓く③）	
横田 洋 （大阪大学共創機構社会学共創本部・助教） 3/4（水）18:30～20:00 ※開催中止	美術館や博物館の展覧会というと、1 ヶ月や 2 ヶ月などの期間限定の会期で催され企画展や特別展とよばれる展覧会のことを思い浮かべる方も多いかと思います。しかし、さまざまな美術館や博物館において、それぞれに持つ特徴や役割あるいはその本領を最も示しているのは常に観ることのできる常設展の方だと言うことができます。今回は大阪大学総合学術博物館の常設展を紹介し、その楽しみ方をお伝えしたいと思います。

2.公開講座・催しの実施 > 2-3. 大阪大学 21 世紀懐徳堂 i-spot 講座

大阪大学 21 世紀懐徳堂 i-spot 講座 アンケート結果より（抜粋）

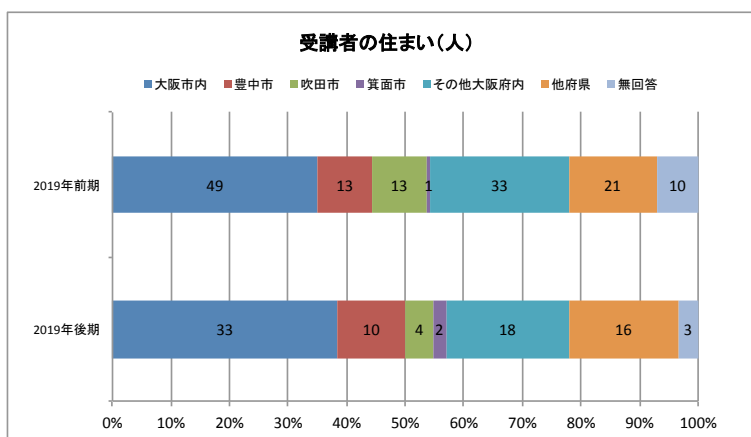
○あなたの年齢は？（19 年度前期は小学生の参加者アンケート回答を含まない）

	18 年後期	19 年前期	19 年後期
	回答者数	回答者数	回答者数
20 歳未満	0	2	0
20 歳代	6	10	0
30 歳代	13	5	4
40 歳代	13	15	9
50 歳代	25	17	20
60 歳代	46	52	30
70 歳以上	20	29	19
無回答	13	10	4
計	136	140	86



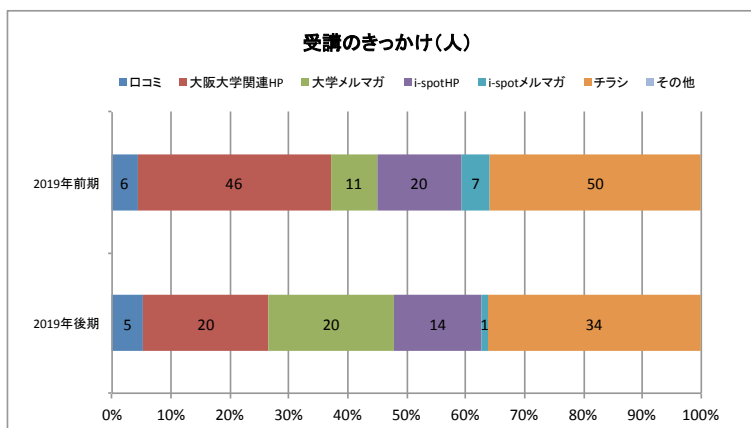
○あなたのお住まいは？

	2019 年前期	2019 年後期
	回答者数	回答者数
大阪市内	49	33
豊中市	13	10
吹田市	13	4
箕面市	1	2
大阪府下	33	18
他府県	21	16
無回答	10	3
計	140	86



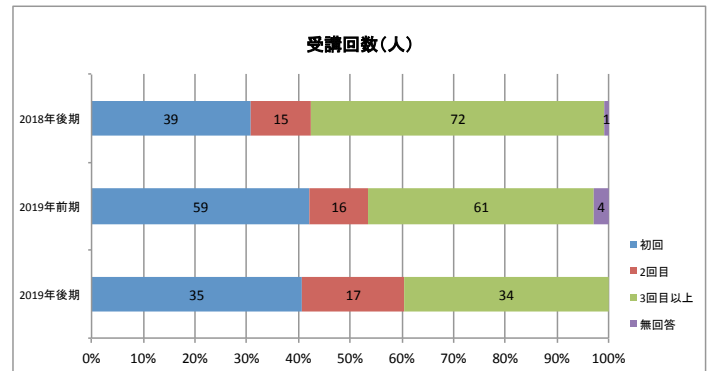
○受講のきっかけは？（複数回答可）

	19 年前期	19 年後期
	回答者数	回答者数
口コミ	6	5
大阪大学関連 HP	46	20
大学メルマガ	11	20
i-spotHP	20	14
i-spot メルマガ	7	1
チラシ	50	34
その他	0	0



○i-spot 講座を受講されるのは何回目ですか？

	2018 年後期	2019 年前期	2019 年後期
	回答者数	回答者数	回答者数
初回	39	59	35
2 回目	15	16	17
3 回目以上	72	61	34
無回答	10	4	0
計	136	140	86



○自由記述より抜粋

- ・短時間でわかりやすく話していただけて良かった。
- ・「地域に生きる」の大学の理念が実践されていると感じ印象が良かった。
- ・大阪府ドクターヘリの医療システムや歴史、現在の活動内容が詳しく聞くことが出来ました。
- ・「普段聞けないような事」をご説明頂いた。
- ・貴重なトピックだったので大変興味深かった。
- ・詳しい調査結果と先生の実体験とでとても分かりやすかったです。
- ・非常に判りやすく、たくさんの気づきを得ることができました。
- ・是非また参加したいと思いました。
- ・とても面白かった。今後も続けてほしい。
- ・ここ10年ぐらいのトレンドと現状の疑問が解けました。
- ・阪大病院の先生のお話など、幅広く今後も聞きたいなと思います。

○チラシ（左から 小学生対象講座、2019 年度前期「世界の文学」、2019 年度後期「大学を社会に拓く」



2-4. 植物探検隊

豊中キャンパスの待兼山は、遊歩道以外、普段は一般には解放されておらず、里山の自然がそのまま残された貴重なスポットとなっている。植物探検隊は、2001年に新型授業開発プロジェクトに採択された基礎セミナー「植物を知り、植物に学ぶ」の一部を、学外の一般の方にも体験してもらおうとスタートした野外ワーク型の公開講座である。2019年度は、春に第21回植物探検隊を、秋に第22回植物探検隊を、各2日ずつ開講した。（沢村 有生）

- ・対象／一般
- ・定員／各回 20 名
- ・会場／待兼山周辺、大阪大学総合学術博物館待兼山修学館、
大阪大学 21 世紀懷徳堂スタジオ
- ・受講料／無料（事前申込要） ・申込先／大阪大学 21 世紀懷徳堂
- ・主催／大阪大学共創機構社会学共創本部 21 世紀懷徳堂
- ・協力／大阪大学共創機構社会学共創本部総合学術博物館
- ・講師／栗原佐智子（21世紀懷徳堂招へい研究員、大阪大学出版会）
- ・開催頻度／年2回
- ・開設時期／2009年10月



- 「第21回植物探検隊@春の待兼山を訪ねて」
 - ・日時／1回目4月27日（土）13:30～15:30、2回目5月11日（土）13:30～15:30
 - ・受講者数／46名 4月27日＝21名（申込受付26名／晴れ）
5月11日＝25名（申込受付25名／晴れ）
 - ・申込者数／289名
- 「第22回植物探検隊@秋の待兼山を訪ねて」
 - ・日時／1回目10月5日（土）13:30～15:30、2回目10月19日（土）13:30～15:30
 - ・受講者数／42名 10月5日＝24名（申込受付25名／晴れ）
10月19日＝16名（申込受付25名／曇りのち雨）
 - ・申込者数／104名

■「秋の待兼山の自然を訪ねて」【自治体と連携】

- ・主催／豊中市立蛸池公民館
- ・共催／大阪大学共創機構社会学共創本部 21 世紀懷徳堂
- ・協力／大阪大学共創機構社会学共創本部総合学術博物館
- ・日時／5月18日（土）13:30～15:30、10月16日（水）13:30～15:30
- ・参加者数／17名（申込受付19名）
- ・参加費／500円（講師謝金に充当）

成果

第22回は産経新聞に告知が掲載され、申込者数が格段に増えた。落選者が多くなり心苦しくあったが、豊中キャンパスでのユニークな取り組みを学外に大きく周知できた。

自然豊かな里山という資産を解放、ひらかれた地域の大学を打ち出す取り組みであった。近年は学外からの共催の申し入れや新聞取材が続き、企画としての完成度が高かった。



90分間たっぷりと野外ワークを行う。講師が事前に下見をしておいた“みどころ”を中心に植物を順次解説していく。スタジオでのトークセッション（30分）は、第21回は太古からの地理、平安期以降の文献に表された待兼山について、第22回は、人の暮らしとともに役割を変えてきた待兼山の歴史についての講義があった。

【アンケート集計結果より抜粋（参加者 88 名の内、76 名より回収）】

●性別（人）

男 性	28
女 性	47
無回答	1
計	76

●年代（人）

10 歳代	0
20 歳代	1
30 歳代	5
40 歳代	2
50 歳代	14
60 歳代	27
70 歳代以上	26
無回答	1

●知ったきっかけ（複数回答）

家族・友人から	19
大阪大学 HP	11
チラシ	20
21 世紀懐徳堂メルマガ	8
新聞・タウン誌	16
自治体の広報掲示	4
SNS	3
その他	3

写真（左）待兼山で植物を観察中。

写真（右）21 世紀懐徳堂スタジオでのミニレクチャー。



2-5. Science café@大阪大学歯学部附属病院

21 世紀懷徳堂の吹田キャンパスでの活動拠点の創出・新規の参加者開拓・他部局との共催によるアウトリーチ活動の企画推進を目的とする本学歯学研究科・歯学部附属病院との共催企画。「気軽にしゃべり」をコンセプトに、研究者と参加者が、開放的なカフェ空間でフランクに对话する空間を目指し、毎回ゲストの研究者を迎えて開催する。本年度は 12 月に計 2 回の講座を企画した。

(沢村 有生)

- ・対象／一般
- ・定員／30 名（申込先着順）
- ・会場／大阪大学歯学部附属病院 1 階 CAFÉ de CRIÉ
- ・参加料／無料（ドリンク代は参加者各自）
- ・年間参加者数／46 名
- ・日時／平日の 16:30～18:00
- ・主催／大阪大学共創機構社会学共創本部 21 世紀懷徳堂、
大阪大学大学院歯学研究科、大阪大学歯学部附属病院
- ・開設時期／2016 年 6 月



成果

講師は歯学研究科に限らず他部局からも迎えることとしており全学のアウトリーチの場、吹田キャンパスのCOMMONスペースとして、機能させることができた。

会場準備のために参加者は事前申込制をとっているが、偶然カフェに居合わせた方や歯科の受診を終えた方が受付のポスターを見て、会場の内と外を区切る観葉植物の外側のテーブル席から熱心に耳を傾ける様子も見られた。このような飛び入り参加を得られるのは、営業中の実際のカフェでの開講であることの妙味であろう。タイトルにつけた

キャッチフレーズ通り、研究者と参加者が「気軽にしゃべり」ができる場となり、話題提供をする研究者側もこれまでにないアウトリーチの場として腕試しをしてもらえたように思う。

広報チラシに歯学部附属病院の案内を記し、近隣に開かれた地域の中核病院であること、また、紹介状なしでの受診が可能であることなどをアピールしたことで、歯学部附属病院の広報をも担った。



12/6 「お口の中のがんの話」



12/12 「好き嫌いの理由は科学で分かるのか」

■ vol.10 「お口の中のがんの話」

鵜澤 成一

(大阪大学大学院歯学研究科・教授)

12/6 (金) 16:30~18:00

受講者数 25 名 (申込受付者数 34 名)

お口の中にも“がん”ができることはご存知でしょうか？お口は食べ物をかみ砕いたり、飲み込んだり、言葉を発したりとても大事な機能を営んでいます。ここに“がん”が生じてしまうとこれらの機能が大幅に障害されてしまいます。お口の中がひりひりするとか、入れ歯が合わなくて困ったことはありませんか？今回は、皆さんが自らお口の中の変化をチェックする方法や口腔がんになってしまった時の対処法などについてお話しさせていただきます。

■ vol.11 「好き嫌いの理由は科学で分かるのか？」

八十島 安伸

(大阪大学大学院人間科学研究科・教授)

12/12 (木) 16:30~18:00

受講者数 21 名 (申込受付者数 37 名)

食べ物への好き嫌いは個々人で千差万別です。とはいえ、何らかのルールや決まりを科学から探ることはできないのでしょうか。我々ヒトが食べ物の味を理解できるのは、脳において味の情報を処理しているからです。それでは、脳での味の処理は、好き嫌いにおいて、どのような役割や働きを持っているのでしょうか。今回は、好き嫌いにまつわる脳や心理の働きについて紹介したいと思います。

■ アンケート集計結果から抜粋 (参加者 46 名中、44 名が回答)

● 性別 (人)

男 性	22
女 性	22
無回答	0
計	44

● 年代 (人)

10 歳未満	0
10 歳代	0
20 歳代	0
30 歳代	1
40 歳代	4
50 歳代	10
60 歳代	7
70 歳以上	22
無回答	0

● 職業 (人)

学生	2
会社員	11
自営業	1
公務員	1
阪大教職員	2
無職	21
その他	6
無回答	0

● イベントを知ったきっかけ (人)
(複数回答可)

友人知人家族から	6
大阪大学関連 HP	7
大学からのメルマガ	14
ポスター・チラシ	20
新聞、タウン誌など	0
自治体の広報・掲示	1
SNS	0
その他	3

● 阪イベントの参加の有無 (人)

ある	33
ない	11
無回答	0

● 自由記述から抜粋

<vol.10>

- ・ がんに関して理解が深まってきたと思います。舌がんの治療すごいなと思いました。
- ・ 2週間以上経っても治らないときはおかしいということを知った。生活習慣病にならないようにする。タバコ、飲酒をほどほどに、口も体も共通することが多いことも分かりました。阪大は標準治療、放射線治療、カテーテル治療をそろってできること、保険可ということで吹田市内に住むものとしてはありがたいです。

<vol.11>

- ・ 「好き嫌い」にこだわりすぎることなく生活全般の健やかさを重視するという考え方には賛成です。「好き嫌い」の奥深さを知ることが出来て良かったです。
- ・ 口の中の味覚様受容体がある小腸・十二指腸にも味覚様受容体があり脳に伝達することを知りました。
- ・ 先生のお話の仕方が丁寧でとても分かりやすく、楽しく受講できました。ありがとうございました。

2-6. 大阪・京都文化講座

21 世紀懐徳堂が大阪大学大学院文学研究科、立命館大学文学部と共催する公開講座。歴史や文化などに関して共通テーマを設定し、大阪と京都、それぞれについての講座を複数回開講している。(肥後 楽)

- ・対象／一般
- ・定員／各回 100 名
- ・会場／立命館大阪梅田キャンパス
(大阪市北区小松原町 2-4 大阪富国生命ビル 5F)
- ・受講者数／春期＝856 名(申込者数 964 名)
秋期＝779 名(申込者数 870 名)
- ・受講料／全 8 回一括受講 12,000 円(1 回ずつの場合 1,700 円/回)
- ・申込／立命館アカデミックセンター事務局
- ・共催／大阪大学大学院文学研究科、大阪大学共創機構社会学共創本部 21 世紀懐徳堂、立命館大学文学部
- ・時間／1 講義 100 分
- ・開催頻度／年 2 期、各 8 講座(大阪大学担当 4 回、立命館大学担当 4 回)
- ・講座開設時期／2009 年 10 月



成果

2009 年の事業開設以来、立命館大学・大阪大学の研究者が、2 大学の位置する京都・大阪について、多様な視点で共通テーマをもとに掘り下げ、その魅力を発信してきた。大学が地域の魅力を共通テーマによって発信するという講座スタイルが好評を博し、毎回、多数の受講生がテーマを通して連続受講する人気の講座である。今後もそれぞれの持ち味を生かし、2 大学が地域に関する多様な研究成果を市民へ発信する場としていきたい。

また、受講者アンケートには、歴史・文学などこれまで開講してきた講座の内容に加えて、国際関係学、政治学など幅広いテーマで大阪・京都について学びたいという声があった。多様なテーマをどのようにまとめシリーズとして発表するか、より魅力的な講座となるよう今後も検討を重ねたい。



10/7「緒方洪庵—その教育理念と社会的実践活動—」



12/2「織田作之助—敗戦直後の人気新聞小説作家—」

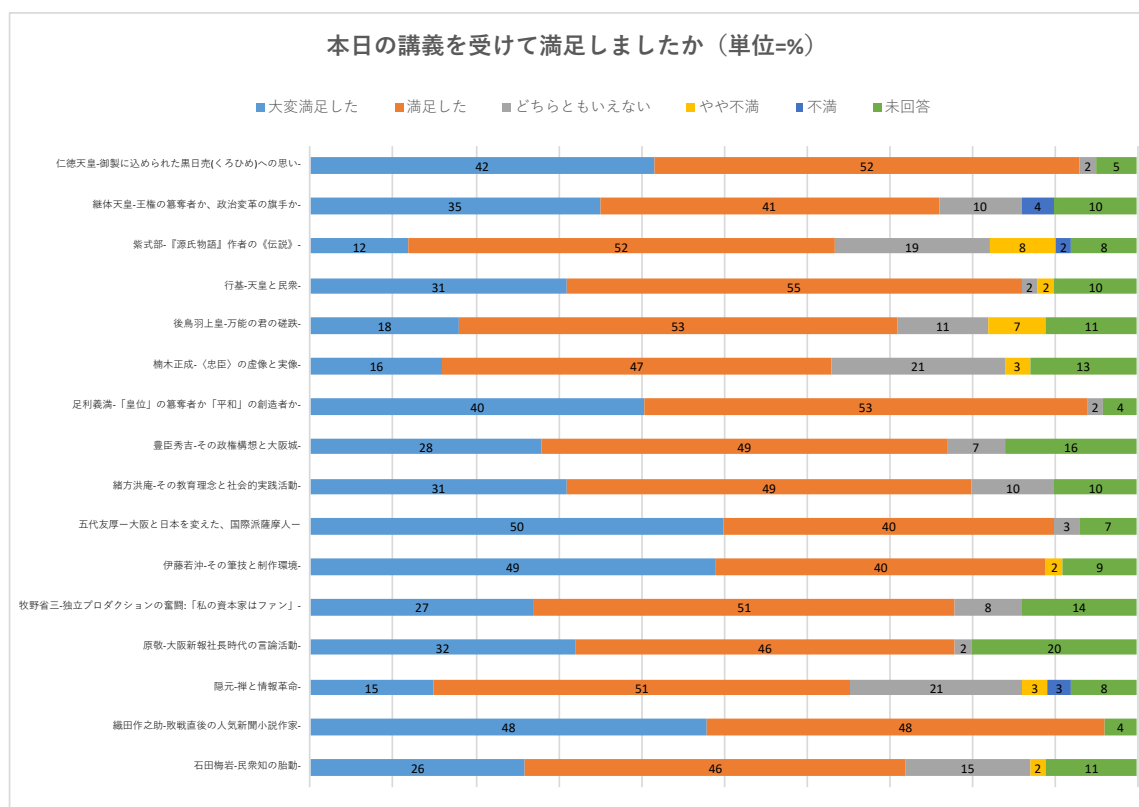
大阪・京都文化講座 2019 年度春期 「大阪・京都＜偉人伝＞—古代・中世編—」 講座一覧

■ 仁徳天皇—御製に込められた黒日売（くろひめ）への思い—	
藤原 享和（立命館大学文学部・教授） 5/13（月）14:00～15:40 受講者数 109 名	仁徳天皇は美しい吉備の黒日売(くろひめ)を難波宮にお迎えになりましたが、日売(ひめ)は皇后の激しい嫉妬で追い返されてしまいました。皇后に「淡路島を見に行く」と偽ってまで吉備へ行幸された天皇は「吉備人と共にし摘めば楽しくもあるか」と黒日売(くろひめ)に詠みかけられます。この御製に込められた天皇のお心を探ってみたいと思います。
■ 継体天皇—王権の篡奪者か、政治改革の旗手か—	
福永 伸哉（大阪大学大学院文学研究科・教授） 5/20（月）14:00～15:40 受講者数 107 名	6世紀初めに登場し、ヤマト政権の土台を固めた継体天皇。しかしその出自は謎に満ちており、地方豪族の勢力をバックにヤマト政権の王位を篡奪したとの見方も有力です。継体天皇の権力基盤や政治戦略を、考古学の成果を手がかりに、東アジアの視点で大胆に読み解きます。
■ 紫式部—『源氏物語』作者の《伝説》—	
川崎 佐知子（立命館大学文学部・教授） 5/27（月）14:00～15:40 受講者数 106 名	滋賀県大津市の石山寺には、紫式部がその地で『源氏物語』を書きおこしたという言い伝えがあります。名高い「源氏の間」は、江戸時代にも、京の公家たちが憧れる観光名所でした。紫式部と『源氏物語』をめぐるさまざまな《伝説》にせまります。
■ 行基—天皇と民衆—	
若井 敏明（関西大学・佛教大学・神戸市外国語大学講師） 6/3（月）14:00～15:40 受講者数 109 名	奈良時代の僧侶のなかで多分一番よく知られているのが行基でしょう。彼が作ったという施設や寺院はいまでも人々に親しまれているものがあります。また東大寺の大仏造営に彼が協力したことも有名です。一方行基は一時時の政府から弾圧されたこともありました。そのような人物がなぜ、国家の事業に関わることとなったのかを、大仏造営を始めた聖武天皇との関係から考えていきます。
■ 後鳥羽天皇—万能の君の蹉跌—	
美川 圭（立命館大学文学部・教授） 6/10（月）14:00～15:40 受講者数 109 名	後鳥羽上皇は、政治、武芸、和歌、連歌、蹴鞠とあらゆることに優れた才能の持ち主でした。上皇のもとで朝廷は安定していました。しかも、頼朝死後の鎌倉幕府は内紛続き。これは倒幕も可能ではないか。上皇の自信過剰が朝廷史上最大の危機をまねきます。
■ 楠木正成—＜忠臣＞の虚像と実像—	
勢田 道生（大阪大学大学院文学研究科・准教授） 6/17（月）14:00～15:40 受講者数 106 名	楠木正成というと、どんな人物を想像するでしょうか。忠臣、天才軍略家、悪党など、イメージは様々でしょう。では、真実の正成はどんな人物だったのでしょうか。本講座では、正成の実像に迫るとともに、忠臣・正成のイメージが定着した経緯について考えます。
■ 足利義満—「皇位」の篡奪者か「平和」の創造者か—	
大田 壮一郎（立命館大学文学部・准教授） 6/24（月）14:00～15:40 受講者数 105 名	現在では意識しにくいですが、足利氏とくに足利義満の評判は江戸時代から「悪役」でした。さらに義満は天皇家を乗っ取ろうとした、という学説も生まれました。一方、最近の研究では、一定の「平和」をもたらした人物として再評価されています。この講座では、義満がどのように安定した政治の枠組みを創造したのか、考えてみたいと思います。
■ 豊臣秀吉—その政権構想と大坂城—	
中村 博司（大阪樟蔭女子大学非常勤講師） 7/1（月）14:00～15:40 受講者数 105 名	豊臣秀吉が如何なる構想をもってその権力を形成していったのかという問題が、中近世移行期の諸問題のうちでも大変重要なものであることは言うまでもありません。この講演では、豊臣政権の形成過程と政権の本拠地たる大坂城との関係性を、その政権構想をヒントにしながら読み解いていきます。

大阪・京都文化講座 2019 年度秋期「大阪・京都＜偉人伝＞—近世・近代編—」講座一覧

■ 緒方洪庵—その教育理念と社会的実践活動—	
村田 路人（大阪大学大学院文学研究科・教授） 10/7（月）14:00～15:40 受講者数 113 名	天保9年（1838）、大坂に適塾を開いた蘭医学者緒方洪庵は、当代一流の医師・学者・教育者でしたが、その活動に一貫して窺えるのは、自らの社会的責務に対する強い自覚でした。この講演では、適塾における教育や、同志とともに取り組んだ牛痘種痘事業を通して、洪庵の人物像に迫ります。
■ 五代友厚—大阪と日本経済を変えた、国際派薩摩人—	
山崎 有恒（立命館大学文学部・教授） 10/21（月）14:00～15:40 受講者数 110 名	本講義では、幕末維新期に活躍した五代友厚を取り上げます。朝の連ドラでも有名になった五代友厚は、日本の辺境薩摩藩に生まれましたが、類まれなる好奇心と向学心を武器に、やがて財界人として大きな活躍することになります。幕末維新の大阪や広岡朝子との関係など、ドラマの裏側に迫ってみたいと思います。
■ 伊藤若冲—その筆技と制作環境—	
門脇 むつみ（大阪大学大学院文学研究科・准教授） 10/28（月）14:00～15:40 受講者数 112 名	現在、古美術界のスーパースターというべき人気を誇る若冲は、京都で生まれ育ち、大坂へも度々赴いた画家です。その筆技・造形的特徴を紹介するとともに、当地の文化人たちとの交流や禅的思想との関わりといった制作環境を踏まえて作品を考察し、改めてその魅力を読み解きます。
■ 牧野省三—独立プロダクションの奮闘：「私の資本家はファン」—	
富田 美香（国立映画アーカイブ主任研究員） 11/11（月）14:00～15:40 受講者数 83 名	“日本映画の父”と称される牧野省三（1878－1929）は、日本映画の黎明期に監督、プロデューサー、独立プロダクションの盟主の3役をこなし、日本映画界の産業と人材の基盤を醸成したパイオニア。牧野省三が自身のプロダクション「マキノ」で展開した様々な革新的試みを考察します。
■ 原敬—大阪新報社長時代の言論活動—	
飯塚 一幸（大阪大学大学院文学研究科・教授） 11/18（月）14:00～15:40 受講者数 87 名	政党政治家原敬と大阪との関係は意外なほど深い。日露戦争前から戦中にかけて大阪新報社の社長を務めた原は、立憲政友会の幹部でありながら自ら健筆を振るい続けました。その言論活動を通して、原の平和論や政治思想、大阪との関わりについて論じます。
■ 隠元—禅と情報革命—	
東島 誠（立命館大学文学部・教授） 11/25（月）14:00～15:40 受講者数 85 名	2010 年末、児童養護施設にランドセルを届ける「タイガーマスク」が現れ社会現象となりました。じつはこれとそっくりな現象が江戸初期に出現しています。はじまりは禅僧・隠元の来日でした。インゲンマメの隠元です。17 世紀後半、禅がどう社会を変えていったのか、に迫ります。
■ 織田作之助—敗戦直後の人気新聞小説作家—	
斎藤 理生（大阪大学大学院文学研究科・准教授） 12/2（月）14:00～15:40 受講者数 100 名	大阪を代表する作家・織田作之助は、敗戦直後のメディアの寵児でもありました。この講座では、作之助が 1946 年に京都と大阪の夕刊紙に連載した新聞小説を取りあげて、この作家がどのように人気を獲得していったのかを探ります。
■ 石田 梅岩—民衆知の胎動—	
桂島 宣弘（立命館大学文学部・特任教授（名誉教授）） 12/9（月）14:00～15:40 受講者数 89 名	石田梅岩は 17 世紀末から 18 世紀前半を生きた町人学者です。京都で平易な庶民哲学を説く講席を開き、大きな反響をよびました。明治維新後に京都で全国初の小学校が開校されたのも、この石田梅岩の学問（石門心学）と深くつながっています。

○大阪・京都文化講座 2019年度 春期・秋期 アンケート結果より（抜粋）



○自由記述より（抜粋）

- ・大変わかりやすく興味深く学ぶことができました。時間が足りないくらいで、もっと聴きたいと思いました。
- ・今後もこのようなお話を伺いたいです。
- ・普段聞けない話題をわかりやすく説明していただきありがとうございました。
- ・参加人数の多さに驚いた。
- ・学問の最先端を論理だてて正確に伝えていただいた。
- ・わかりにくい部分を科学と知識を駆使して解明していく素晴らしさを感じた。
- ・各講師の執筆された本を一覧にしていただけないか。
- ・資料の印刷の向きや文字サイズを統一してほしい。
- ・レジュメの中に参考文献を上げていただき、大変参考になります。
- ・詳しい資料に基づき系統立てて解説されわかり易かった。
- ・講座の開講時間を午前中にしてほしい。
- ・具体的な文献を噛み砕いての解説がありがたかった。

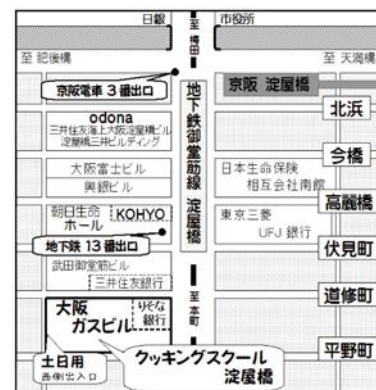
[illegible]

2019 年度春号 立命館アカデミックセンター
おとなの学び舎 に掲載された講座情報

2-7. 大阪大学×大阪ガス「アカデミクッキング」

大阪ガス株式会社、大阪ガスクッキングスクールとの連携により、「専門分野の講義」とそれにちなんだ「料理実習・試食」を通して実践的に教養を深める、新しいタイプの公開講座。講義の後に料理実習・試食をすることで、机の上の勉強が日常とつながり、学問することの面白さを実感してもらう試み。（沢村 有生）

- ・会 場／大阪ガスクッキングスクール淀屋橋
(大阪市中央区平野町 4-1-2 (大阪ガス本社ビル 1F))
- ・定 員／vol.68＝小学 4～6 年生と保護者 12 組
vol.69＝30 名 (15 歳以上)
vol.70＝30 名 (15 歳以上)
(応募者多数の場合は抽選)
- ・受講料／vol. 68＝1,600 円 (税込)
vol. 69＝2,500 円 (税込)
vol. 70＝2,500 円 (税込)
- ・申込／大阪ガスクッキングスクール淀屋橋
- ・主催／大阪大学 21 世紀懐徳堂、大阪ガス株式会社



- ・開催頻度／2010年10月～2015年6月は月1回+夏休み小学生講座を開講。2016年度より不定期開講
- ・開設時期／2010年10月

成果

今年度は 3 講座を開講。夏休み時期には小学生とその保護者対象の特別講座を開講した。他の小学生向け講座と比べ、アカデミクッキングを受講する小学生たちはたいへん行儀がよく、積極的に発言や質問をするなど学びへの意欲が見て取れ、素晴らしいとおほめの言葉を大阪ガスと大阪ガスクッキングスクールよりいただいている。

当事業はこれまで 70 回を開講してきた。「専門分野の講義」とそれにちなんだ「料理実習・試食」を通して実践的に教養を深めるというユニークな構成が評判となり、毎回

抽選によって受講可否を決めねばならないほど人気の講座に育った。大阪大学の公開講座は敷居が高いと敬遠気味であった一般の方でも、気軽に受講できるような裾野を広げる役割を担った。

株式会社大阪ガス、株式会社大阪ガスクッキングスクールという企業との連携は、互いの得手とするとところを持ち寄り、他にはない共創の場を創り出した。

登壇する研究者の側ともアウトリーチの新しい切り口をとともに考える機会が生まれ、21 世紀懐徳堂の企画力を見せた。



8/9 vol.68 「ようこそ！タンパク質ワンダーランド」講義中（左）料理実習中（右）

■ vol.68 「ようこそ！タンパク質ワンダーランド」 ※小学生と保護者対象	
栗栖 源嗣 (大阪大学蛋白質研究所・教授) 8/9 (金) 10:00～13:00、18:30～21:00 受講者数 60 名 (申込者数 77 名から抽選) 【小学生と保護者対象】 課題料理＝ワンダービビンバ、ふわふわ卵のワカメスープ、シュワシュワサイダーゼリー	タンパク質と聞いて、栄養素としてのタンパク質（お肉や卵）を思い浮かべませんでしたか？でも、それだけではありません。血液やだ液、ホルモンや抗体・分解酵素などなど、私たちの体を動かしているもの全てに、タンパク質が深く関係しています。体を作っているのも、主にタンパク質と水です。植物の光合成や色素のカギとなるのだからタンパク質。この身近で不思議なモノ“タンパク質”のはたらきと形について勉強しながら、おいしくタンパク質を食べてみましょう！
■ vol.69 「からだのなかの金属（超微量だけど!!）のはたらき」	
船橋 靖博 (大阪大学大学院理学研究科・教授) 10/10 (木) 18:30～21:00 受講者数 30 名 (申込者数 30 名) 課題料理＝「ミネラルたっぷり、からだをたすけるバランス和食」鶏レバーとカラフル野菜の南蛮漬け、納豆とキムチの磯辺春巻き、きのこたっぷりしじみの味噌汁、桜エビごはん	わたしたちのからだのほとんどは水や有機物でできています。そのほかに「金属が含まれます」と言われてもピンとこないですよ！でもカルシウムはアルカリ土類金属、ナトリウムはアルカリ金属のなかまですし、いかにも金属！な、微量の鉄や亜鉛が不足すると体調不良になってしまうことなど、みなさんも聞いたことがあるでしょう。金属は太古に生命が誕生したときに生物に取り込まれ、それ以来ずっと進化を共にして現在に至っています。金属がからだのなかで担っている大切な役割についてお話ししましょう
■ vol.70 「国際スーパーフード学術機構の理事長がおとどけするスーパーフードの基礎講座！」	
山口 明人 (大阪大学産業科学研究所・招へい教授) 11/26 (火) 18:30～21:00 受講者数 30 名 (申込者数 58 名から抽選) 課題料理＝「美容と健康に！豊能町のスーパーフード「奇跡の芋・ヤーコン」づくし」ヤーコンのひき肉包みココナツオイル揚げ、ヤーコンのかき揚げ、ヤーコンのきんぴら、ヤーコンのツナサラダ、キヌアごはん、スピルリナ・スムージー	ポスト・サプリメントの健康食として注目を集めるスーパーフード。豊富な栄養成分がぎゅっと濃縮されているだけでなく、味を楽しめるのもうれしいところ。でもまだまだ日常の食事に取り入れかねている人が多いのではないのでしょうか？本講義では、スーパーフードの学術的根拠をやさしく楽しく基礎から解説するとともに、身近なスーパーフード・ヤーコンの美味しい調理法を紹介します。

2.公開講座・催しの実施 > 2-7. 大阪大学×大阪ガス「アカデミクッキング」

大阪大学×大阪ガス「アカデミクッキング」 vol.68～70 アンケート結果より（抜粋）

（※vol.68 は保護者の回答のみから抜粋）

■大阪大学の公開講座等への参加経験のない方の受講が多く、本学の研究と初めて出会う場を創出している。

講 師（講義テーマ）	①参加経験あり		②今回が初めて		無回答		計	
	回答者 (人)	割合(%)	回答者 (人)	割合(%)	回答者 (人)	割合 (%)	回答者 (人)	割合 (%)
vol.68 栗栖（分子生物学）	6	21.4	21	75.0	1	3.6	28	100.0
vol.69 船橋（生物無機化学）	9	37.5	10	41.7	5	20.8	24	100.0
vol.70 山口（健康薬学）	11	39.3	17	60.7	0	0	28	100.0
全 体	26	32.5	48	60.0	6	7.5	80	100.0

■講義または、講義と料理実習の組合せに魅力を感じての受講者が多数で、企画の趣旨が理解されている。

講 師（講義テーマ）	①講義を受講 したくて		②料理実習に参 加したくて		③講義と料理実 習の組合せが魅 力で		その他（家族・ 友人のすすめ、 無回答など）		計	
	回答者 (人)	割合 (%)	回答者 (人)	割合 (%)	回答者 (人)	割合 (%)	回答者 (人)	割合 (%)	回答者 (人)	割合 (%)
vol.68 栗栖（分子生物学）	6	21.4	7	25.0	14	50.0	1	3.6	28	100.0
vol.69 船橋（生物無機化学）	9	37.5	1	4.1	13	54.2	1	4.1	24	100.0
vol.70 山口（健康薬学）	4	14.3	2	7.1	16	57.1	6	21.4	28	100.00
全 体	19	23.7	10	12.5	43	53.8	8	1.0	80	100.0

■21 世紀懐徳堂の他講座に比べ、受講者の年齢層が低い。男女比は、女性が大半である。

	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代	無回答
vol.68 栗栖（分子生物学）	0	4	19	5	0	0	0	2
vol.69 船橋（生物無機化学）	0	0	2	4	8	4	1	5
vol.70 山口（健康薬学）	0	2	2	4	13	4	2	1
合計	0	1	5	8	11	11	5	4

	男性	女性	無回答
vol.68 栗栖（分子生物学）	2	26	0
vol.69 船橋（生物無機化学）	2	17	5
vol.70 山口（健康薬学）	2	26	0
合計	6	69	5

■ アンケートの自由記述欄からの抜粋

● vol.68「ようこそ！タンパク質ワンダーランド」

- ・大阪大学と大阪ガスのコラボという貴重な体験が子どもにとってためになった。
- ・身近なところと結びつけて学べるところ。今後の興味のきっかけになると思います。
- ・内容が充実していた。(先生のお話+調理)という企画が面白い。
- ・少し難しいように思ったが専門的な方が大学の先生らしくて子供の興味・刺激になった。とてもやさしいお人柄がのぞき、好印象を持ちました。
- ・実験をすることで、子どもが興味をもつ事が出来ました。
- ・全体的に準備ができていたので、効率よくポイントを押さえて料理を学ぶことができた。子どもが主役になってよかった。
- ・タンパク質の勉強も面白かったです。料理も保護者はほとんど見ているだけでしたので、子どもの様子をじっくり見ることができ、大変良かったです。

● vol.69「からだのなかの金属（超微量だけど！）のはたらき」

- ・難しい内容を大原理から詳しくお話いただけて良かったです。
- ・知りたかった微量元素について詳しく知れたので良かった。
- ・化学や生物をまた勉強しようと思いました。おもしろい講義でした。ありがとうございました。
- ・家庭科の先生といろいろ連携しようと思いました。化学の授業にも生かせそうと思いました。ありがとうございました。
- ・あまり考えたことのないテーマだったので、興味深かったです。
- ・勉強して、その内容が反映された料理が作れる点が良かった。

● vol.70「国際スーパーフード学術機構の理事長がおとどけるスーパーフードの基礎講座！」

- ・山口先生の講義がわかりやすく、スーパーフードに対する理解が深まりました。
- ・いろいろなスーパーフードを紹介していただいて、勉強になりました。普段の食生活の参考にしていきたいと思います！
- ・食べたことがない食材を使った色々な料理を知れた事と体に良い食材をたくさん知れた。
- ・面白い食材だった。レシピもよく考えられていると感心しました。
- ・手に入りにくい食材なので、その場で販売してもらえるとうれしい。



(左) vol.69「からだのなかの金属（超微量だけど！）のはたらき」



(右) 国際スーパーフード学術機構の理事長がおとどけるスーパーフードの基礎講座！」

2-8. 大阪大学×ナレッジキャピタル連携事業

「知的創造・交流の場」を提唱するナレッジキャピタルのプログラム、超学校シリーズの枠組みの中へ、大阪大学のアウトリーチを提供している。社会学共創活動の参加者に占める企業人の割合を増やすべく、オフィスや商業ビルがひしめく梅田の中心地にて開講している。
(沢村 有生)

大阪大学×ナレッジキャピタル「あたりまえをゆさぶる、新しい問を立てよ。」

- ・定員／50名
- ・会場／CAFÉ Lab. (グランフロント大阪北館 ナレッジキャピタル 1F)
- ・参加料／500円 (1ドリンク代)
- ・年間参加者数／103名
- ・開催期間／2019年11月
- ・主催／大阪大学共創機構社会学共創本部 21世紀懐徳堂、
一般社団法人ナレッジキャピタル、株式会社KMO
- ・開設時期／2014年11月



成果

今期は2講座を開講。阪大の教員以外の顔をも持つ二人の研究者がそれぞれ、終末医療と新価値創造の方法論をテーマに話題提供し、既存の「あたりまえ」を疑う哲学や思考について参加者と意見交換をする場となった。

当シリーズはキャンパスや公民館といった公開講座によくある会場を離れ、梅田の中心地、中でも「知的創造活動の拠点」として開業間もないナレッジキャピタルにアウトリーチの拠点をもちたいとの構想からスタートした。中之島や淀屋橋に既に拠点はあるとの意見もあったが、参加者の年代や属性などは必ずしも他会場とは異なる層にリーチで

きるとの思いからトライアルを開始した。初回から狙いは的中し参加者の年齢層が平均でおよそ20歳若いという顕著な特徴が現れた。また、物理学や分子生物学といった他の公開講座では参加人数が見込めない研究分野でも、当シリーズでは定員を上回る申込みがあり、質疑応答も活発に行われるという予測にはなかった副産物も得られた。

阪大他部局や他大学、研究機関のサイエンスカフェが同時期に複数、開講されている中での差別化を常に意識してきた。ナレッジキャピタルと阪大は今後も連携を深めていくがその礎のひとつとなれているなら喜ばしいことである。



11/14「令和の時代の天寿を考える」



11/20「新しい価値を生む方法論としての Foresight Creation」

■ 令和の時代の“天寿”を考える

久坂部 羊

(大阪大学大学院医学系研究科・招へい教授、小説家、医師)

11/14 (木) 19:00～20:30

受講者数 56 名

(事前申込は 61 名まで受け付けた)

「人生 100 年時代」と言われていますが、当然ながら元気なまま 100 歳まで生きる人はごく少数。寝たきり、認知症、胃ろう、導尿、呼吸困難…。恐ろしい長寿を避けるためには、長生きのリアルを知っておく必要があります。平成は「命は長らえさせるべき」という方針で、医療が悲惨な状況を作り出した時代です。令和の医療は、必ず訪れる死をいかに上手に受け入れるかがテーマになるでしょう。みなさん、ご準備はよろしいでしょうか？

■ 新しい価値を生む方法論としての Foresight Creation

松波 晴人

(大阪大学共創機構産学共創・生涯本部・特任教授)

11/20 (水) 19:00～20:30

受講者数 47 名

(事前申込は 53 名まで受け付けた)

イノベーションが求められる中、新価値創造の様々な方法論が提唱されていますが、この分野における理論とメソッドはまだ確立されているとはいえません。大阪ガス行動観察研究所は、これまでの実績を踏まえ、行動観察やクリエイティブシンキングを元に「新価値創造の方法論」の理論とメソッドを構築し、Foresight Creation と名付けました。必要とされる能力を「8 つの玉」になぞらえ、それぞれの「玉」を育成する方法論を開発し、大阪大学で学生対象の Foresight School で実践した結果、1) 新たな価値を生む消しゴムの商品化、2) EDGE コンペで阪大チームが優勝、といった成果が得られました。本講演では、Foresight Creation の方法論とはどういうものなのか、新価値創造において重要な点はどこにあるのかを解説します。

■ 参加者アンケートデータ (参加者 103 名中 86 が回答) から抜粋

●性別 (人)

男 性	48
女 性	34
無回答	4
計	86

●年代 (人)

10 歳未満	0
10 歳代	1
20 歳代	2
30 歳代	6
40 歳代	19
50 歳代	28
60 歳代	15
70 歳以上	13
無回答	2

●職業 (人)

会社員	46
自営業	11
公務員	12
主婦	4
学生	1
その他	0
無職	10
無回答	2

●何で知りましたか？ (人)

ナレッジ HP	24
ナレッジメルマガ	56
友人知人	6
その他	0
無回答	0

■ 参加者アンケートデータ自由記述から抜粋

- ・死に対する意識が良い方向に向くようになり、楽になりました。
- ・日頃聞けない専門家の話が聞けてよかった。
- ・死に向かって今を生きていること。絶対安全はないこと。目からウロコの話で楽しめました。
- ・以前から興味のあるテーマだったのでとても満足です。
- ・本当のこと、表、ウラともに聞けて良かったです。本の紹介もエキサイティングでした。楽しかったです。
- ・“問いを立てる”、“仮説を立てる”ことの重要さが分かりました。(再認識できました。)
- ・「問いをたてる」ワードが響いた。
- ・全く想像できませんでしたが出来て良かったです。
- ・フォーサイトに興味があったから。
- ・数年前から知っていた。講師の話は他では有料で、時間帯・私業のしぼりがあり参加できなかった。今日、1.5h とはいえ聞けて満足。

2-9. 大阪大学 21 世紀懐徳堂×豊中市レクチャーコンサート

「音楽のアラベスク、文学のアラベスク」

大阪大学の研究知を活用した豊中市との共創を通じ、豊中市の新たな魅力を創造し、同市の文化芸術振興に貢献することを目的として、2019 年度とよなか音楽月間の期間中に開催した。研究者×アーティストという異分野の共創により、大学の知を多彩な形で発信する役割をも担った。

(肥後 楽)

「音楽のアラベスク、文学のアラベスク」

- ・日時／2019 年 12 月 1 日（日）14:00 開演
- ・出演／
 - 演奏…吉田 朝子（ピアニスト）
 - レクチャー…田辺 欧（大阪大学大学院言語文化研究科・教授）
 - 進行…肥後 楽（大阪大学 21 世紀懐徳堂・特任研究員）
- ・対象／一般
- ・受講料／無料（事前申込要）
- ・定員／70 名
- ・来場者数／68 名
- ・会場／桜の庄兵衛ギャラリー
- ・主催／大阪大学共創機構社会学共創本部 21 世紀懐徳堂、豊中市



成果

「アラベスク」という共通のキーワードをもとに、それぞれの専門性を活かしながら、音楽と文学という異なる芸術分野の専門家が、演奏・講演・対話によって異分野の芸術の繋がりや共通性について探るという構成により、大学の研究知を多彩な形で発信する 1 事業としての役割を果たした。

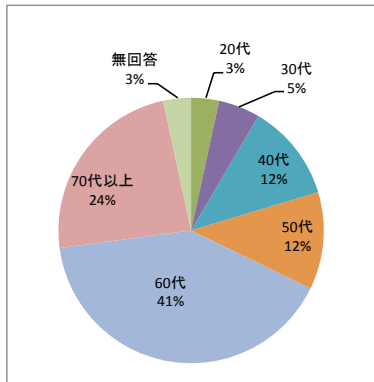
また、豊中市の魅力を市内外に発信し、より豊中らしさを前面に押し出した企画とするため、レクチャーコンサートの会場を通常のコンサートホールではなく、豊中市内の

登録有形文化財である桜の庄兵衛ギャラリーとした。演奏・講演はもちろん、同時に会場の素晴らしさを堪能したという声や、演奏者・登壇者と同じ高さで聴く体験が新鮮だったというこの場所ならではの特別感を楽しんだという感想が多かった。

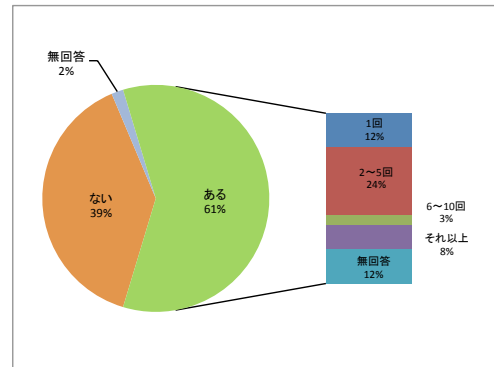
2019 年度から開始した事業で、今後の展開については未定だが、豊中市内にキャンパスを構える本学による地域貢献の 1 事業として発展できればと考える。



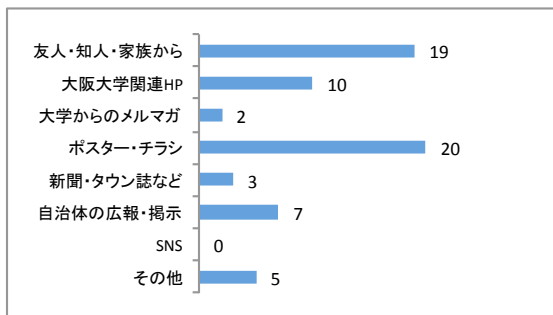
○あなたの年齢は？



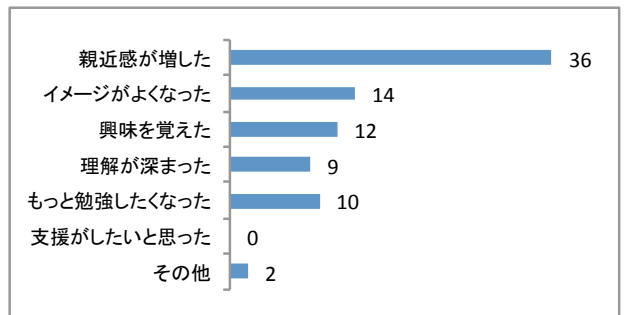
○大阪大学主催イベントに参加したことがありますか？



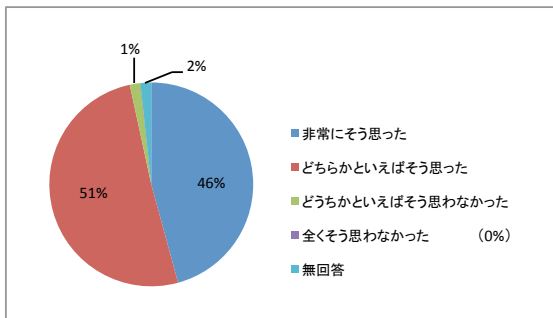
○今回のイベントを知ったきっかけは？



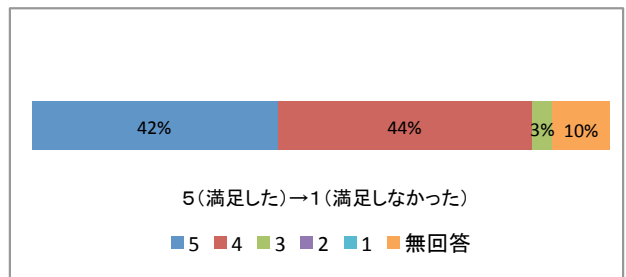
○大阪大学に対する印象の変化がありましたか？



○本日の内容や感想を誰かに伝えたいと思いましたか？



○本日の満足度は？



○自由記述より (抜粋)

- ・このような音楽とレクチャーのあることを初めて知りました。
- ・良い会場で良い音楽が聴けてよかった。
- ・いつもは見上げるか見下ろす形でピアノを聴きますが、平面で聴くのがとても新鮮でした。
- ・マイクがなくて、話が聞こえにくかった。
- ・アンデルセンの人生に触れ、アンデルセンの著作物をもっと読みたいと思いました。
- ・音楽と文学というコラボは面白い取り組みだと思います。
- ・阪大はもともと理系の総合大学という印象が強かったが、そのイメージも過去の先入観となった感がある。
- ・昔の大学と違って市民に親しみを感じるようになった。
- ・会場が素晴らしいと思いました。

2-10. 豊中魅力アップ助成金採択事業

豊中市による平成31年度豊中魅力アップ助成金の交付を受け、実施した事業。大阪大学豊中キャンパスの位置する豊中市待兼山の自然史的・歴史的・文化的・知的魅力に改めて光を当て、その魅力を積極的にかつ多彩に発信すること、事業を通じて大学と市民の交流の場を生み出し、新しい魅力をも待兼山に創出することによって、豊中市の文化的魅力の向上・新たなランドマークの創造に貢献することを目的とする。（沢村 有生、肥後 楽）

【フリーペーパー「待兼山 PRESS」】

- ・発行日／2020年2月1日
- ・発行部数／2万部
- ・発行者／大阪大学 21世紀懐徳堂



成果

大阪大学の研究成果を発信し、地域の魅力を様々なステークホルダーと共に創造する新しい取り組みとして、2017年度からフリーペーパー「待兼山 PRESS」の発行を実施し、豊中市の魅力創造に参画してきた。

今年度は「つながるまなびば 大阪大学×豊中市」と題して、主に豊中市内で展開されている様々な研究者の活動について取り上げ紹介した。その内容は展覧会、レクチャーコンサート、サイエンスカフェなど多岐にわたり、掲載

された研究分野や連携先も多様で、「地域に生き世界に伸びる」をモットーとする大阪大学の活動の多彩さを集約した内容となった。

今年度のフリーペーパーは2万部作成し、豊中市内を中心とした公共施設への配布の他、大阪大学各学部のオープンキャンパスでの配布を予定している。今後も、PDF版を21世紀懐徳堂ホームページへ掲載するなど、より広範囲に取組を発信する工夫を重ねたい。



大阪大学 21世紀懐徳堂×豊中市レクチャーコンサート
「音楽のアラベスク、文学のアラベスク」



大阪大学大学院文学研究科 アート・ブラクシス
人材育成プログラム「ちんどん音楽と広告宣伝」

○フリーペーパー「待兼山 PRESS」

・目次／

特集 つながるまなびば 大阪大学×豊中市！

- ・大阪大学 21 世紀懐徳堂×豊中市 レクチャーコンサート「音楽のアラベスク、文学のアラベスク」
- ・大阪大学総合学術博物館 第22回企画展「四國五郎展～シベリアからヒロシマへ～」
- ・とよなかりレーションハウスプロジェクト
- ・植物探検隊@豊中市立蛍池公民館
- ・大阪大学大学院文学研究科 アート・プラクシス人材育成プログラム「ちんどん音楽と広告宣伝」
- ・サイエンスカフェ@千里公民館「再生医療とミライの生き方」
- ・阪大タケの会コラボ
- ・ご存知ですか？大阪大学豊中キャンパスで期日前投票ができます！
- ・待兼山 MAP

○待兼山 PRESS 紙面より



2-11.EXPOCITY との共創事業

大阪大学と三井不動産株式会社は、三井不動産が運営する大型複合施設 EXPOCITY において、大阪大学研究者が、教育、研究、共創事業等を行うことで、EXPOCITY に『学ぶ』楽しさを感じられる空間を創出し、地域社会に貢献することを目的とした連携協定を、2018 年 3 月 16 日に締結した。この三井不動産との連携に協定に基づき、大阪大学と三井不動産との EXPOCITY における共創事業として、「はんだいラボ@EXPOCITY Lab」等を企画・実施し、大学や研究を身近に感じてもらえるような取組みを続けている。

11 月 30 日（土）には、「大阪大学共創 DAY@EXPOCITY」を開催し、約 5000 人の来場者を迎えて、盛況のなか閉幕した。大阪大学共創機構が発足したのを機に昨年始めたイベントで、今回が 2 度目の開催になった。学内の研究科など 16 ブースが、それぞれの研究成果などを分かりやすく紹介しながら、参加者の方々に研究内容を体験いただいた。（花岡 宏亮）

■ はんだいラボ@EXPOCITY Lab

2018 年 10 月、EXPOCITY3 階フードコート横に、多目的イベントスペース「EXPOCITY Lab」が設置された。共創機構社会学共創本部は、大学で学ぶことや研究を身近に感じていただけるように、子育て世帯を主な対象に「はんだいラボ@EXPOCITY Lab」を開始した。家族で EXPOCITY に買い物に来たお客さんが、大阪大学の教員たちのお話も聞いて帰る、そんな新しいライフスタイルを提供することを目指している。

●第 6 回 ねえねえはかせ、「アフリカってどんなところなの？」

日時：2019 年 4 月 13 日（土）14:00～/16:00～（各 50 分）

講師：米田 信子（大阪大学外国語学部教授）

対象：小学生以上

定員：各回 15 組 30 名

内容：アフリカについての素朴な疑問、アフリカと日本の文化や習慣の違い、共通点について分かりやすく解説した。



●第 7 回 ねえねえはかせ、「どうしてホタルは光るの？」

日時：2019 年 6 月 8 日（土）13:00～/16:00～

（各回 30 分程度）

展示：13:30-16:00（常時入場可能）

講師：神吉 輝夫（大阪大学産業科学研究所准教授）

定員：15 組 30 名

対象年齢：どなたでも

内容：人工ホタルで遊びながら、自然の中で明滅するホタルの光はなぜ心地よいのかを一緒に学んだ。



【中止】

●第 8 回（6/16）は、吹田市にて危険な事件が発生したことから、急きょ開催を中止し、第 11 回に延期した。

●第 9 回 ねえねえはかせ、「家族はどうして大切なのか？」

日時：2019 年 7 月 20 日（土）14:00～/16:00～（各回 30 分程度）

講師：山崎 あけみ（大阪大学大学院医学系研究科教授）

定員：各回 15 組 30 名

対象年齢：学童以上（乳幼児はご遠慮ください）

内容：箱庭フィギュアを用いて 家族が大切にしていることを言葉にするワークショップ。子どもの成長に欠かせない食事の時間の過ごし方を通じて一緒に考える機会とした。

●第 10 回 ねえねえはかせ、「古墳には何が埋まっているの？」

日時：2019 年 8 月 19 日（月）13:00～17:00 のいつでも

（1 時間に 1 回各 20 分の解説あり）

講師：上田 直弥(大阪大学大学院文学研究科助教)

解説定員：各回 15 組 30 名

内容：今年の 7 月に、「百舌鳥・古市古墳群」が世界文化遺産に登録されたが、そもそも古墳とは何か？どんなものが埋まっているのかなどを分かりやすく解説した。



●第 11 回 ねえねえはかせ、「食べ物の好き嫌いは、どうしてだめなの？」

日時：2019 年 8 月 20 日（火）14:00～(30 分程度)

講師：渡邊 浩子(大阪大学大学院医学系研究科教授)

定員：15 組 30 名

内容：不足すると味覚が鈍くなり、健康に悪い影響が出る亜鉛に関連して、味覚の測定や、亜鉛が含まれる簡単なレシピの共有を行った。



●第 12 回 ねえねえはかせ、「アートはどうやって楽しむの？」

日時：2019 年 8 月 21 日（水）16:00～ (30 分程度)

講師：磯谷 有亮(大阪大学大学院文学研究科助教)

定員：15 組 30 名

内容：アート作品の「言いたいこと」を理解する以外にも描かれたものを見る方法はたくさんある。アートの中の人や物の配置。作品を「かたち」の集まりとして見る方法を学んで、アートを少し違う角度から楽しむ方法を学んだ。



【開催見送り】

- 新型コロナウイルスの感染拡大が懸念されている状況を踏まえ、2020 年 3 月に開催を予定していた「はんだいラボ@EXPOCITY Lab 第 13 回 (3 月 15 日 (日))、第 14 回 (3 月 27 日 (金))、第 15 回 (3 月 29 日 (日))」については開催を見送ることとなった。

2019 大阪大学共創 DAY@EXPOCITY

「大阪大学共創 DAY@EXPOCITY」を11月30日（土）、ららぽーとEXPOCITYで開催し、約5000人の来場者を迎えて、盛況のなか閉幕した。

大阪大学共創機構が発足したのを機に昨年始めたイベントで、今回が2度目の開催になった。学内の研究科など16ブースが、それぞれの研究成果などを分かりやすく紹介しながら、参加者の方々に研究内容を体験いただいた。

1階「光の広場」では、大学公認サークル「Robohan」の学生たちが、ロボットアームを子どもたちが操作してペットボトルを移動させる作業などをサポートした。SSI(社会ソリューションイニシアティブ)・人間科学研究科のブースでは、参加者の方々が新聞記者になって将来の夢を新聞記事にする体験をしてもらった。

3階では、ARグラスやバーチャルスライドシステムを活用する体験コーナーなどを設置した。熱心に科学を楽しむ小中高生たちの姿が目立ち、長い行列ができた。

各ブースを面白く回ってもらうため、今年は情報科学研究科の学生などが開発したスマートフォンを使用する「QRコードラリー」を実施した。ラリー達成者の方には、阪大マスコットキャラクター「ワニ博士」を描いた特製の缶バッジ・トートバックの景品、希望者には、大阪大学書道部の学生による名前入りの学位証も贈呈した。

今回は、生徒・保護者を対象に、大学・入試概要説明会も1階「光の広場」ステージにおいて、同時開催した。近くに設けた「入試相談」ブースでも、個別の疑問などに応えてもらいながら、阪大受験を熱心に相談する姿が見受けられた。

昨年同様、今年も阪大公式マスコットキャラクター「ワニ博士」が登場し、子供たちにも大人気だった。

(16ブースの内訳)

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| ①MR×AI を用いたショッピング体験 | ⑨化粧品のサイエンス |
| ②あなたも研究者：病変を見つけよう！ | ⑩IFReC めんえき Lab. |
| ③ドキドキ！ 秋の科学相談室 | ⑪海外生活何でも聞いちゃおう！ |
| ④光×医療 | ⑫歯／口から社会へ |
| ⑤Robohan | ⑬新聞記者になって自分の社会と未来を描こう |
| ⑥放射線のできるこ | ⑭タンパク質のかたちをみよう |
| ⑦ステンドグラスで接合体験 | ⑮本で学ぼう！ 阪大本が大集合 |
| ⑧世界のことばと文化を知ろう | ⑯大学・入試 概要説明会 |



■EXPOCITY を活用した実証実験等の活動

学内研究者が EXPOCITY を研究対象、実証実験、研究発表の場等として活用した。以下は主な取組内容。

● EXPOCITY をメインプラットフォームにしたロボットによる対話サービスの実証実験を開始 (大学院基礎工学研究科)

大学院基礎工学研究科の石黒浩教授が、代表者を務める研究プロジェクト「人間機械共生社会を目指した対話知能システム学」を活用し、人間に酷似したアンドロイドや小型の人間型ロボットによる対話サービス実現を目指した実証実験に取り組む。実証実験は 2019 年 12 月より順次開始し、期間は 5 年間。

●通信機器を活用した人流解析に関する研究 (大学院情報科学研究科)

EXPOCITY 来場者の誘導等を円滑に行うための、通信機器を活用した人流解析に関する実証実験を行った。

●「事故にあわせない子育てと秋に役立つ医療知識」 (大学院人間科学研究科)

8 月 22(木)に、大学院人間科学研究科の岡真裕美特任研究員が SNS フォロワー数 5 万人超の小児科医「ばばじょー先生」とコラボをして、光の広場でセミナーイベントを開催した子供の事故予防・子供の夏の病気やケガの正しい知識について講演形式で実施した。60 席ほど用意したが、ほぼ満席の盛況であった。

●「My Country & My University」 (国際教育交流センター)

11 月 5 日 (火) に、国際教育交流センター短期プログラム開発研究チームが主催して、大阪大学短期留学特別プログラム (OUSSEP) の学生 63 名が、光の広場で、自身の出身国/地域紹介及び在籍校をプレゼン形式で紹介するイベントを開催した。

●「ハザイソン in EXPOCITY Lab」 (共創機構産学共創・渉外本部)

11 月 24 日 (日) に、産学共創・渉外本部 Innovators' Club 主催の学生イベント「ハザイソン」の作品展示と学生による実演が行われた。端財アップサイクル、中小企業からの端材・不良品をいただき、クリエイターさんと共に商品化を目指す企画で、約 90 名の参加者があった。

●EXPOCITY3 階フードパビリオン前ガラスショーケース展示

EXPOCITY3 階フードパビリオン前ガラスショーケースを大阪大学の展示スペースとして利用できることとなり、試行的に以下の展示を行った。

- ・総合学術博物館 マチカネワニのレプリカ展示
- ・共創機構 大阪大学共創 DAY@EPOCITY の告知展示
- ・総合学術博物館 第 13 回特別展の告知展示
- ・アーカイブズ パネル展示
- ・微生物病研究所 顕微鏡写真展示



アーカイブズのパネル展示
「大阪と北摂の過去と現在をつなぐ記録と記憶」

成果

社学共創本部主催のイベント「はんだいラボ@EXPOCITY Lab」を定期的に開催することができたのは成果と考える。また、ガラスショーケース展示についても、試行的な取組みではあるが、一定の計画をもって運用することができた。実証実験等についても、ららぽーと EXPOCITY と本学担当

者間のコミュニケーションも円滑となり、昨年度よりも、利用手続きは形式化しつつある。

今後は、利用手続きプロセスが構築されつつあるので、研究開発エコシステムの一環として、利用希望があった場合、少ない負担感での利用プロセスの確立を考えている。

2-12.大阪大学シンポジウム [開催延期]

「大阪大学 21 世紀懐徳堂シンポジウム」として始まった大阪大学シンポジウム事業は、今年度、E L S I センター（2020 年 4 月）、並びにオープンイノベーション機構の発足（2019 年 10 月）を記念し、企業等をはじめ、各種団体、地域社会などに広く活動を知ってもらい、今後に向けた関係を築く契機とすることを目的に企画された。2019 年末ごろからの新型コロナウイルス感染症の拡大状況を受け、3 月中の開催を見送ることとなったが、新たな日程での開催に向けて検討を行っているところである。

(田中 綾)

・事業名／大阪大学シンポジウム

①<E L S I センター>設立記念シンポジウム

ー A I ネットワーク社会の共創に向けた倫理・法・社会ー

②大阪大学オープンイノベーション機構発足記念シンポジウム

・日時／①2020 年 3 月 9 日（月）14:00～17:30

②2020 年 3 月 10 日（火）13:00～18:00

・対象／①・②企業、自治体、各種団体、地域社会、一般市民

・会場／①・②ナレッジキャピタル コングレコンベンションセンター
(グランフロント大阪北館 B2F)

・定員／①・②300 名

・参加費／①無料（要申込）

②無料（要申込、情報交換会 3,000 円）

・主催／①・②大阪大学

・後援／①国立研究開発法人科学技術振興機構

・企画／②大阪大学オープンイノベーション機構



成果

今年度のお大阪大学シンポジウムは、2020 年 4 月に発足予定の E L S I センター、並びに 2019 年 10 月に設立のオープンイノベーション機構のキックオフイベントとして企画した。

大変残念ながら、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を受け、3 月中の開催を見送ることとなった。

各シンポジウムへは内外から多数の参加申し込みがあり、開催への期待が窺われた。

新しい日程は、社会的な状況を鑑みながら検討しており、決まり次第、案内する予定である。内容についても同様であ

るが、当初の開催に匹敵あるいは劣らないほどの充実した内容になるよう進めていきたい。

なお来年度からの「大阪大学シンポジウム」は共創機構の事業となるので、その方向性も織り込みながら、新たな「大阪大学シンポジウム」によって大学と社会とのコミュニケーションが一層深まり、研究現場にも繋がる場となることをめざしたい。

＜E L S I センター＞設立記念シンポジウムーA I ネットワーク社会の共創に向けた倫理・法・社会ー」概要

■プログラム

＜挨拶＞開会挨拶 西尾 章治郎（大阪大学総長）

来賓挨拶 真先 正人（文部科学省大臣官房文部科学戦略官）

＜第一部：基調講演＞

基調講演 「社会の中の科学、社会のための科学：ブダペスト宣言から 20 年」

小林 傳司（大阪大学C O デザインセンター教授）

基調講演「アカデミアにおける「市民」、「公正」と「互恵性」：第6期科学技術基本計画によせて」

上山 隆大（総合科学技術・イノベーション会議常勤議員）

＜第二部：パネルディスカッション＞「A I ネットワーク社会の共創に向けた倫理・法・社会」

（パネリスト） 上山 隆大（総合科学技術・イノベーション会議常勤議員）

大田 佳宏（Arithmer 株式会社代表取締役社長兼C E O）

久木田 水生（名古屋大学大学院情報学研究科教授）

中山 竜一（大阪大学大学院法学研究科長）

堂目 卓生（大阪大学社会ソリューションイニシアティブ長）

（モデレータ） 小林 傳司（大阪大学C O デザインセンター教授）

＜挨拶＞閉会挨拶 三成 賢次（大阪大学理事・副学長）

大阪大学オープンイノベーション機構発足記念シンポジウム概要

■プログラム

開会挨拶 大阪大学総長 西尾 章治郎

来賓挨拶 文部科学省

基調講演

株式会社小松製作所 特別顧問 野路 國夫氏

大阪大学オープンイノベーション機構長 大阪大学 統括理事・副学長 金田 安史

「大阪大学の飛躍する産学共創とは」

大阪大学オープンイノベーション機構 統括クリエイティブ・マネージャー 森 正治

「大阪大学オープンイノベーション機構が目指すもの」

大阪大学オープンイノベーション機構研究開発プロジェクト紹介

「二酸化塩素を用いた光酸化反応-対象は低分子から高分子まで多種多様-」

大阪大学高等共創研究院 教授 大久保 敬

「がん細胞型アミノ酸トランスポーターLAT1 を標的としたがん診断・治療技術の研究開発」

大阪大学大学院医学系研究科 教授 金井 好克

「Healthy Active Life の提案：新規関節治療とスマート・スポーツ医学」

大阪大学大学院医学系研究科 教授 中田 研

パネルディスカッション 「地域に生き世界に伸びるオープンイノベーションの課題と未来」

＜パネリスト＞ オランダ王国 ビーコン社 共同創業者パートナー ロナルド・ヒルホースト氏

一般財団法人バイオインダストリー協会 業務執行理事 専務理事 塚本 芳昭 氏

株式会社東京大学T L O 代表取締役社長 山本 貴史 氏

株式会社東京大学エッジキャピタル パートナー 宇佐美 篤 氏

Beyond Next Ventures 株式会社 マネージャー 金丸 将宏 氏

塩野義製薬株式会社 シニアフェロー 坂田 恒昭 氏

＜モデレータ＞ 大阪大学オープンイノベーション機構 統括クリエイティブ・マネージャー 森 正治

情報交換会

2-13. アートエリア B1、クリエイティブアイランド中之島

「アートエリア B1」は、大阪大学、京阪ホールディングス株式会社、NPO 法人ダンスボックスが、2006 年の中之島線建設期間中から事業を実施。2008 年になにわ橋駅の地下 1 階コンコースにコミュニティスペースを開設。以後、三者共同による企画展などを通じて社会学共創拠点を運営。2018 年度の 10 周年を機に中之島文化ネットワークの HUB を目指し、中之島の十数組織からなる実行委員会を形成し「クリエイティブ・アイランド・ラボ中之島」に着手。三者共同拠点から中之島全体の活性化に寄与している。（木ノ下智恵子）

■主催事業

- (1) 鉄道芸術祭 vol.9「都市の身体 ～外から眺める私たちの輪郭、遠くから聞こえてくる私の声～」
2019 年 10 月 26 日（土）—12 月 29 日（日）《59 日間》4,702 名
2018 年度「都市計画」を継承・発展させた「都市と身体」をテーマに開催。国内外 3 組のアーティストが独自の視点で主題を掘り下げ作品を創作し、展覧会や各種プログラムを実施した。
- (2) サーチプロジェクト vol.7
「クリエイティブアイランド・ラボ 中之島 ～『文化の実験島』としての中之島発信プロジェクト～」
2020 年 1 月 24 日（金）—3 月 22 日（日）《51 日間》555 名(2019/3/13 時点)※
2018 年度事業の「クリエイティブ・アイランド・ラボ 中之島」を継承し、前年度構築した中之島周辺の 19 の文化施設等との共同企画やアーティストや研究者によるリサーチ等の 3 つのプロジェクトを実施した。
- (3) レクチャー&対話プログラム「ラボカフェ」月 3～8 本開催プログラム本数 50 本(※)《50 日間》2,334 名※
大阪大学が様々な組織や個人とのコラボレーションを通じて主題に応じた対話を繰り広げる社会学共創事業。学内公募による研究機関による企画のほか、アートエリア B1 企画や他の事業とのカップリング企画を実施。
- (4) ダンスパフォーマンス「ブリッジシアター」展示プログラム「recorded before forgotten vol.01」
2019 年 7 月 12 日（金）—7 月 28 日（日）《16 日間》360 名
舞台公演のアーカイブとその可能性を探索プロジェクトの第二弾として、ダンス作品などの上演芸術における「記録映像」に焦点をあてた展覧会とトークプログラムを開催した。

■共催事業

- (1) 歴史講座 アートエリア B1 カルチャーカフェ〈全 7 回〉（主催：京阪ホールディングス株式会社）
- (2) 「ステーションミュージックフェスタ」（主催：京阪ホールディングス株式会社）
- (3) 「大阪クラシック ～街にあふれる音楽～」（主催：大阪クラシック実行委員会）
- (4) 大阪中之島美術館開館イベント「新収蔵品：サラ・モリス《サクラ》展」（主催：大阪中之島美術館準備室）

- ・主催／アートエリア B1（大阪大学＋NPO 法人ダンスボックス＋京阪ホールディングス株式会社）
- ・企画制作／大阪大学 21 世紀懐徳堂、NPO 法人ダンスボックス ※各事業に共催、助成、協力機関あり

■年間開館日数《296 日》13,381 名（2019/3/13 現在）※新型コロナウイルス感染拡大防止のため合計 11 企画を延期／中止

成果

昨年度から三者運営の実績をもとにして中之島全体のネットワーク構築を目指した事業に着手し、今年度は中之島の複数組織で構成される「クリエイティブアイランド中之島」実行委員会を本学西尾総長を組織長に設立し、大阪万博等の時勢を想定した展開を目指す基盤整備に着手した。

「クリエイティブアイランド中之島」実行委員会の構築によって、アートエリア B1 の中之島のクリエイティブ HUB としての役割と重要性は明らかとなった。その継続のための予算拡充や体制強化にむけたますますの三者共創の関係構築が不可欠である。

アートエリアB1 2019年度集計（2020/3/5時点）

【館運営総合計】

開館日数合計：296日 年間来場者数：13,381名 イベント本数：72（延期中止13本含まず）

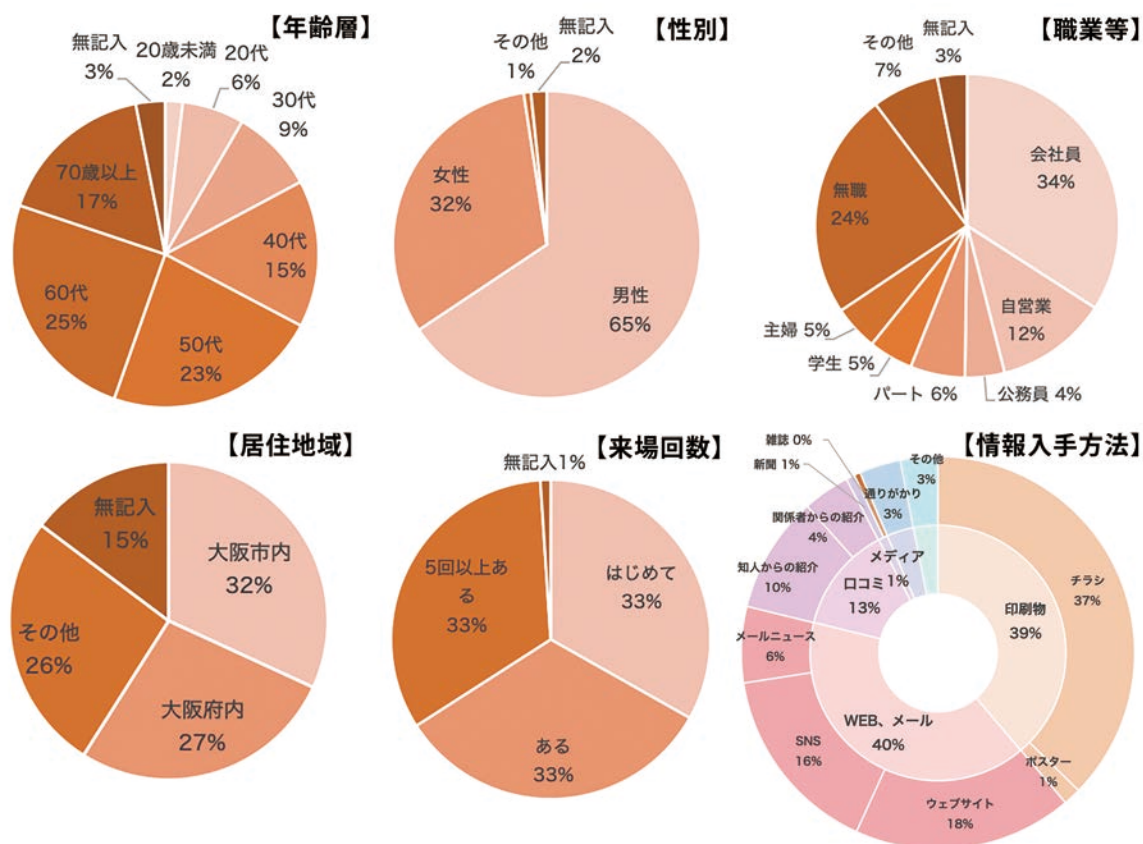
【主催事業別 開催本数と参加者数】

- 1) ラボカフェ 開催日数：50日 開催本数：50（延期中止11本含まず） 参加者数：2,334名
- 2) 鉄道芸術祭vol.9 開催日数：59日 開催本数：17（展示 1、イベント 16） 参加者数：4,702名
- 3) サーチプロジェクトvol.7 開催日数：58日 開催本数：5（延期中止9本含まず） 参加者数：555名
- 4) ブリッジシアター 開催日数：16日 開催本数：3（展示 1、イベント 2） 参加者数：360名

【共催事業別 開催本数と参加者数】

開催日数：68日 開催本数：12 参加者数：4,351名

【アンケート集計】



- ・上記以外に満足度の回答では、全ての事業で「満足」の回答が約6割を占め、「やや満足」と合わせると、全体で約9割の参加者が満足いただいている。感想では内容の充実度への評価が多く、「専門性の高い内容をわかりやすく解説していただけた」「今まで知らなかったことを知れてよかった」という感想が多かった。
- ・年齢層の事業全体では40代～70代の方が多く参加。事業別比較では鉄道芸術祭は20～30代が多く、サーチプロジェクト50代、ラボカフェ40代～60代がほぼ満遍なく参加している。
- ・居住地域は大阪市内、府内、他府県がほぼ同じ割合で、平日夜開催が主なラボカフェでは大阪市内の人が最も多く、鉄道芸術祭やサーチプロジェクトでは、より広域的に市内と他府県の参加者がほぼ同等にあった。
- ・情報収集はチラシからが多く、月刊チラシの駅置きや全国発送の成果と考えられる。SNSは年々新しいアプリや機能が登場しており、10代～30代はウェブからの情報取得が多いと考えられ、今後の観客層の拡大において、タイムリーな情報発信の検証を要する。

「クリエイティブアイランド中之島」実行委員会の設立

昨年 2018 年度のアートエリア B1 開館/京阪中之島開業 10 周年を機にスタートした事業「クリエイティブアイランド・ラボ 中之島」は、三者共同拠点から中之島全体の活性化に寄与する展開へと発展。アートエリア B1 の運営組織三者の代表者である、大阪大学の西尾章治郎総長が実行委員会会長、京阪ホールディングスの加藤好文会長と DANCE BOX の大谷燠理事長が副会長を務め、中之島に拠点等のある文化施設等 12 組織で構成される実行委員会を立ち上げた。異なる組織における社会学共創事業の実装をさらに発展させ、SDGs の目標 11「住み続けられるまちづくりを：都市と人間の居住地を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする」等に資する事業展開を持続可能なエコシステムモデルによって実現を目指す。

■実行委員会構成団体

大阪大学、京阪ホールディングス、ダンスボックス、大阪市立科学館、大阪市立東洋陶磁美術館、大阪中之島美術館準備室、大阪府立国際会議場、国立国際美術館、中之島香雪美術館、中之島まちみらい協議会、フェスティバルホール、graf studio

■実行委員長 西尾 章治郎（国立大学法人大阪大学 総長）

【委員会設立の第一回実行委員会開催の様子】



「クリエイティブアイランド中之島」概要 ※以下、実行委員会資料から抜粋掲載）

■趣旨・目的

重層的な歴史文化を有しながら都市の機能が集積する“中之島”は、パリのシテ島、ベルリンのムゼウムス・インゼルなど、世界に類する都心の中州（島）の可能性に満ちています。

この中之島エリアを拠点とする16の文化施設は、国内有数の文化資源を持ちそれぞれが独自の活動を行っています。それらの既存資産を活用し、中之島全体を「創造的な研究所（クリエイティブ・ラボ）」として見立てた多様な事業を通じて、国全体の成長を牽引する都市・大阪の発展に寄与することを目指します。

◆ キーワード ◆

- ・中之島の既存の文化資源を活用した持続可能な共創のエコシステム（新しいタイプの芸術祭の提案）
- ・多様なステークホルダーが当事者として継続的に関わる仕組みづくり
- ・「Society 5.0」や人生100年時代に向けた創造的生き方、リカレント教育の実践モデル
- ・中之島アゴラ構想・大阪万博およびその後のレガシーに向けた中之島ネットワーク構築

■事業概要（案）

1) 既存の資源を活用した持続可能なフェスティバル「中之島学術芸術祭（仮）」

現行のビエンナーレやトリエンナーレなどの単発型の芸術祭ではなく、新たなフェスティバルの形式として中之島の既存の資源（人・コレクション・歴史・取り組み）を活用した“持続可能な共創のエコシステム”を目指します。具体的には、中之島の16の文化拠点を「文化パビリオン」に見立て、共通テーマをもとに各館の趣旨に呼応した企画（展覧会、映像上映、レクチャー、演劇公演等）を展示室やホール、企業のロビー空間等を会場に毎年実施。

2) 各拠点をつなぐツアー実施と広報ツールの開発

それぞれの文化拠点をつなぎ、来場者を回遊させるためのツアープログラムと、中之島を一体的な文化ゾーンとして発信するための広報ツールの開発と情報発信を展開します。

ツアープログラムは、美術館や科学館、ホール、会議場、図書館など多種多様な場のみならず、中之島の歴史文化と水辺環境を活かした企画を行います。

広報ツール例：中之島MAPやイベントポータルサイト

ツアープログラム例：中之島の科学史をめぐるツアー、建築クルーズ、音響学からみるホールツアー

【先行実施事例の様子】



鉄道芸術祭 vol.9

「都市の身体～外から眺める私たちの輪郭、遠くから聞こえてくる私の声」

鉄道芸術祭 vol.9 では、都市と身体の関係性に着目。近代都市計画の要であった鉄道の普及によって、私たちの日常生活や移動環境は大きく向上した一方で、時間厳守やマナーといった行動規範の規定規制ともなり、鉄道は、都市の骨格形成とともに、私たちの身体感覚にも深く関与してきたといえる。本展では、国内外の3組のアーティストが、今日の都市の状況と都市生活者のさまざまなふるまい、それを生み出す身体を独自の視点で捉え直し作品を創作。インドネシアのジョンペット・クスウィダナントは、自国の複雑な成り立ちと歴史文化や現代社会への洞察をもとに、群衆と個、姿なき声やメッセージなどに関するインスタレーションを発表。小沢裕子は、大阪の在留外国人が多く住むエリアや、文楽・浪曲といった語りにまつわるリサーチをもとに、日本人と外国人双方の言葉によるコミュニケーションについて考察した新作映像作品を発表。武田晋一は、鉄道の近代化と同時に派生した外来植物（雑草）の存在に着目し、フランス留学を経て移り住んだ奈良東吉野村と会場がある大阪中之島の道行、都市と地方の移動や運搬といった要素をふまえて作品を構成。"都市の身体"にまつわる世界の内と外からの考察に基づいた三者三様の表現や会期中の様々なプログラムを通じて、姿なき都市の輪郭をイメージし、他者や自らの声に耳をすませることで、この国や異国の地、都市部や地方を行き交う人間の身体知について感じ、考える機会を創出した。

アートエリアB1とは
京阪電車中之島線建設中の2006年から、企業・大学・NPO法人が協同で、都市空間における駅の新なる可能性を模索する「中之島コミュニケーションカフェ」を実施。これを継承して2008年10月の中之島線開業を機に、なにわ駅の地下1階コンコースに「アートエリアB1」を開設しました。ここでは様々なプログラムを実施し、「文化・芸術・知の創造と交流の場」となることを目指しています。

RAILWAY ART FESTIVAL VOL.9
Tuko Ozawa | Jompet Kuswidananto | Shinichi Takada
URBAN BODIES: Our Contours Seen from the Outside, Your Voice Heard from a Distance
2019.10.26(土)~12.29(日)
12:00-19:00 PM / Closed Mon.
12:00-21:00 PM from Saturday
December 14 to Wednesday, December 25

会場 B1 Floor, Naniwabashi Station of Keihan Railway, 1-1-1 Nakanoshima, Kita-ku, 530-0005 Osaka, Japan

アートエリアB1
2019.10.26(土)~12.29(日)
12:00-19:00 PM / Closed Mon.
12:00-21:00 PM from Saturday
December 14 to Wednesday, December 25

都市の身体
外から眺める私たちの輪郭、
遠くから聞こえてくる私の声

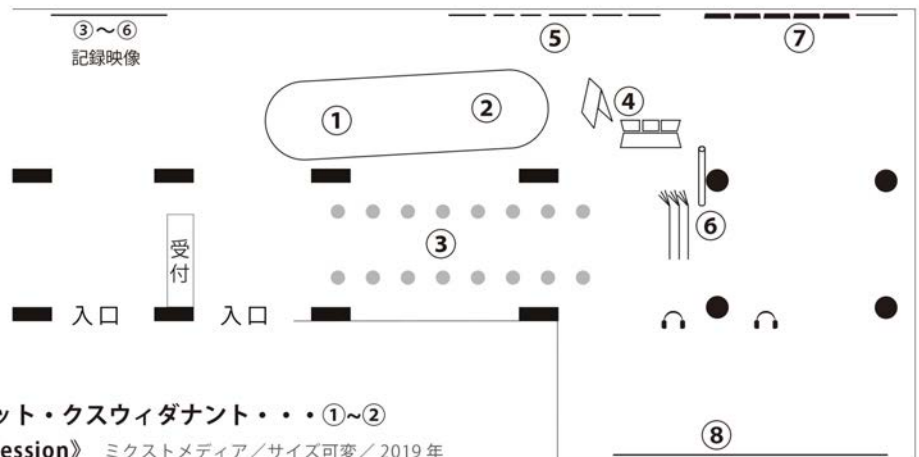
小沢裕子
ジョンペット・
クスウィダナント
武田晋一

URBAN BODIES
Our Contours Seen from the Outside, Your Voice Heard from a Distance
2019.10.26(土)~12.29(日)
アートエリアB1
12:00-19:00 PM / Closed Mon.
12:00-21:00 PM from Saturday
December 14 to Wednesday, December 25

URBAN BODIES
Our Contours Seen from the Outside, Your Voice Heard from a Distance
VENUE: ART AREA B1
ADMISSION FREE
ART AREA B1 WEBSITE: <http://artarea-b1.jp>

メインアーティスト：小沢裕子（日本/映像）、Jompet Kuswidananto（インドネシア/インスタレーション）、武田晋一（日本/彫刻、インスタレーション）
ゲスト：〈電車公演〉岡田利規（演劇作家/小説家/チェルフィッチュ主宰）、青柳いづみ（女優）、
七尾旅人（シンガーソングライター）、YPY（ミュージシャン/ a.k.a. 日野浩志郎）
〈トーク〉輪島裕介（大阪大学大学院文学研究科准教授）、佐伯康考（大阪大学共創機構社会学部創部助教）
富永 達（京都大学雑草学教授）、吉見俊哉（東京大学大学院情報学環教授）、いとうせいこう（作家/クリエイター）
〈関連企画〉石野裕子（国士舘大学文学部史学地理学科准教授）、宮川智美（大阪市立東洋陶磁美術館学芸員）、橋本 梓（国立国際美術館主任研究員）
会期：2019年10月26日（土）～2019年12月29日（日）12:00～19:00 *12/14（土）～25（水）21:00 参加無料（一部イベント有料）
会場：アートエリア B1（作品展示・メイン会場）、京阪電車内（貸切電車公演）、光善寺駅構内（関連企画）
助成：公益財団法人 朝日新聞文化財団、芸術文化振興基金 協力：NANZUKA、京阪電気鉄道株式会社

会場図



展示作品 ジョンペット・クスウィダナント・・・①～②

- ① 《Procession》 ミクストメディア／サイズ可変／2019年
- ② 《The Contingent #5》 ミクストメディア／サイズ可変／2012年

武田晋一・・・③～⑥

- ③ 《running》 ケナシヒメムカシヨモギ、粘土、時計のムーブメント／60セット／サイズ可変／2019年
- ④ 《quiescency》 木材、ロープ／2セット／サイズ可変／2019年
- ⑤ 《saying》 雑草で漉いた紙／サイズ可変／2019年
- ⑥ 《standing》 ススキ、モバイルバッテリー／サイズ可変／2019年

小沢裕子・・・⑦～⑧

- ⑦ 《石松三十石船道中》 5モニター／各1分51秒／2019年
- ⑧ 《SPEAKERS 日本語学校の先生と生徒》 映像インスタレーション／3面プロジェクション／31分39秒／2019年

※小沢作品 協力：大阪大学工学研究科国際交流推進センター、NPO 法人クロスベイズ



展示内容 ジョンペット・クスウィダナント

Jompet Kuswidananto

現在最も国際的に活躍するインドネシア人アーティストのひとりであるジョンペット・クスウィダナントは、音楽家、パフォーマーとして舞台芸術の分野で活躍した後、インスタレーションや映像作品などを手がけ、国内外の展覧会や国際展で発表してきました。

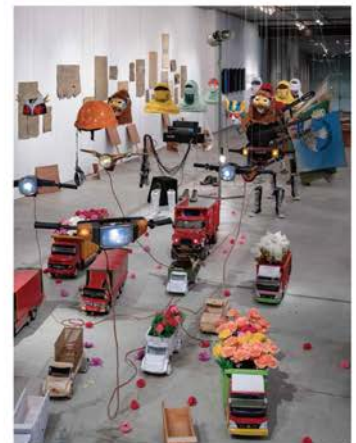
彼のまなざしは、多様な宗教、人種、思想が複雑に絡みあうインドネシアの歴史と現代社会へと向けられており、その作品はとりわけ、植民地主義やポスト・スハルト期の政治、社会、文化状況に焦点を当てたものが多くあります。本展のためにクスウィダナントは、《The Contingent #5》(2012 年) に新作《Procession》を加えて、ひとつのインスタレーションとして提示しました。

① 《Procession》 ミクストメディア／サイズ可変／2019 年

② 《The Contingent #5》 ミクストメディア／サイズ可変／2012 年

2つの作品で構成されるインスタレーションの前方《Procession》は、本展のために制作された木製トラックと今回の日本滞在で買い集めた品々による新作です。「procession」とは儀式としての行進の意味を含み、バイクに先導されたミニチュアトラックの隊列がどこか懐かしい品々を運び、かつて軍事政権下で統制されていたPOPミュージックが流れたりします。若き作家自身の記憶と結びついた本作には、内省的に自国の過去をふり返るまなざしがあります。

それに続く隊列の後方《The Contingent #5》では、Tシャツで形作られたマスクで武装する等身大の人形が、インドネシアで頻繁に開催されるデモや音楽パレードの特徴的な道具や楽器などを持ち、音も発せず実体がないにもかかわらず路上の喧噪や集団の熱気を彷彿させます。インドネシアでは1998年の独裁政権崩壊後、それまで厳しく制限されていた市民団体活動が、民主化の波とともに勃興しました。人々はデモやパレードという形態で、政治に限らず、コミュニティや趣味、思想、文化などあらゆる分野で主張や抗議活動を展開するようになります。そうした多種多様な声は、ひとつ間違えば容易に衝突や暴力的闘争へと発展します。本作は、隊列や行進というインドネシアの民衆にとって重要な振る舞いが、自国の民主主義における紙一重の祝祭性と暴力性を浮かび上がらせるとともに、過去や内面を振り返る内省的イメージと未来や外部を志向する外交的イメージを対比させています。



展示内容 武田晋一

Shinichi Takeda

武田晋一は、作品の要素となる、さまざまな日用品とその時々に関心事項にまつわる素材を、緻密に組み合わせ空間構成によるインスタレーションを発表しています。それら作品素材は、武田自身の手で綿密に考案された設計・デザインによってコンパクトに梱包され、自宅から会場へと運搬されます。作品は保管時、移動時、展示時すべての時間にわたって作品として存在するという考えのもと、その時々と場所に応じた形式の変化も含まれています。

本展において武田は、ヒメムカシヨモギという「鉄道草」と呼ばれる雑草の存在を知ります。このヒメムカシヨモギは、明治初頭に海外貨物などにまぎれて日本に持ち込まれ、鉄道網の発展とともに全国に広がった外来植物です。武田は、鉄道と雑草の関係性から派生した、4つの新作によるインスタレーションと、展示以前の作品素材の梱包物と運搬の道行の記録映像によって構成しました。

③ 《running》

ケナシヒメムカシヨモギ、粘土、時計のムーブメント／60セット／サイズ可変／2019年

ケナシヒメムカシヨモギが円形の粘土板の上で時計のムーブメントの動きを利用してゆっくりと回転しながら、まるで線路のように整列しています。時間という概念と時計の普及は、鉄道網の発達とともに世界に広がり、速度や効率性を重視する人々の生活に影響を及ぼしました。武田は、その時計から時間を示す機能を外した動きのみによって雑草を回すことで、速さや効率化とは真逆の状況を提示します。



④ 《quiescency》

木材、ロープ／2セット／サイズ可変／2019年

《quiescency》は、鉄道駅のホームベンチをモチーフとしています。タイトルの「休眠」とは、人がベンチで休むことはもとより、雑草の習性で種が地中で発芽するタイミングを待つ状態も示しています。また、ベンチを構成する部品は解体・組み替えることで大小のプラカードに変容することができます。デモ行動の象徴的道具であるプラカードは、クスウィダナント作品への応答であり、ベンチから生まれ変わる時に言葉を持ち目覚めるというイメージも重ねられています。



展示内容 武田晋一

Shinichi Takeda

⑤ 《saying》

雑草で漉いた紙／サイズ可変／2019 年

《saying》は、ベンチからプラカードになった《quiescency》に誘われ、武田自身が雑草で漉いた紙で模倣したポスターやビラが貼られた壁面へと繋がります。Saying は言い草や発言という意味がありますが、日本語においても草と紙と言葉は深く多様な関わりを持ちます。また、公共空間である駅の掲示物を彷彿させる本作では、小沢とクスウィダナントと武田の各作品にまつわる3つの単語

【intonation : 声の抑揚、multitude : 多数 / 群衆、mobility: 移動性 / 可動性】と、3名分のキーワードから3人で考案したアナグラムの5単語【deity : 神格 / 神、nation : 国民 / 国家、tumult : 騒動 / 騒ぎ / 激情、moil: 骨折り / 泥、biotin : ビオチン（ビタミンB複合体）】によるメッセージの共作が掲示されています。



⑥ 《standing》

ススキ、モバイルバッテリー／サイズ可変／2019 年

《standing》は、一方は昨年、他方は今年採取した武田の自宅の前庭に生えたススキで構成しています。絶妙のバランスで起立している立ち姿は、生花の原点といわれる手折った植物を立てる行為と人が立つことの意味の根源性を象徴的に示しています。



③～⑥ 運搬の道行の記録映像（スライドショー）



展示内容 小沢裕子

Yuko Ozawa

小沢裕子は、映像と字幕、文字と意味、あるいは言葉と声などの間に、意識的または無意識的にズレを生じさせる仕組みを用いて、映像作品やインスタレーションを制作しています。いずれの作品も、自分という認識に違和感を生じさせ、鑑賞者の意識の焦点を揺り動かす装置として機能し、自明とされている意識のありようを問いかけます。

本展のために小沢は、大阪の在留外国人が多く住むエリアや、文楽・浪曲といった語りにまつわるリサーチを行い、日本人と外国人双方の言葉によるコミュニケーションのあり方などについて考察した2つの新作映像作品を発表しました。

⑦ 《石松三十石船道中》 5モニター／各1分51秒／2019年

小沢は、大阪発祥の語りの芸能である「浪曲」に初めて接し、感情を声の起伏と強弱で表現する独特の節回しに着想を得て、本作に取り組みました。浪曲の一節を5カ国5名の人々が、聞こえたままの言葉と感じとられた感情をノートに書き起こし、伝言ゲームのように歌い継いでいきます。トーゴのシナンジャさんは、幸せや神々しい情景を、スリランカのニルミニさんは子守唄や農業のまじないの歌を、日本の倉田さんは初めて知った浪曲に感情ではなく自然の風景を見出し、トルコのメリスさんは1日の時間の流れを捉え、フィンランドのタピオさんはネイティブ・アメリカンの折りのようだと話しました。日本では感情の代名詞のような浪曲が、国や文化、個人の生活環境などの背景によって全く異なる受け取り方がされ、さらに言葉の意味が抜け落ちた節回しには、それぞれの感知や記憶が投影され独自の唄いとなっています。



出演：(氏名／国籍／母国語)
Sinandja Dakonyeme / トーゴ / マバ語、Nilmini Renuka / スリランカ / シンハラ語、倉田星哉 / 日本 / 日本語、Melis Arslan / トルコ / トルコ語、Tapio Veli Juhani Tarvainen / フィンランド / フィンランド語
撮影：岩本順平
協力：大阪大学工学研究科国際交流推進センター
NPO 法人クロスベイズ

⑧ 《SPEAKERS 日本語学校の先生と生徒》 映像インスタレーション／3面プロジェクション／31分39秒／2019年

「SPEAKERS」シリーズは、他者の身体を介して会話を行う試みで、小沢はこれまでトークやワークショップなどを行ってきました。今回は、初めて日本語以外の言語を取り入れ、日本語教師と日本語初級クラスで学ぶ中国人の各々にご参加をいただき、他者を通じた声を手がかりに日本語と中国語による発話を試みています。本作による試みによって小沢は、意味を分かって発話する人がより機械的に見えたのに対し、意味が分からず発話する人が逆にいきいきして、そこに別のコミュニケーションが生まれているように見えたといいます。また、会話という構造を用いて、先生／生徒という立場や、言語、身体などによるコミュニケーションをめぐるさまざまな現象や認識について問いかけています。



出演：川村由紀子 (日本)、後藤いずみ (日本)
傅貴鵬 (中国)、姜博文 (中国)
撮影：岩本順平
協力：亀田美保、平野美樹、大阪大学工学研究科国際交流推進センター、大阪YMC A国際専門学校日本語学科

2.公開講座・催しの実施 > 2-13. アートエリア B1、クリエイティブアイランド中之島

【関連企画一覧】

1) オープニング・トーク

「都市の身体—世界の内と外からの考察」

日時：10月26日（土）15:00～17:00

ゲスト：小沢裕子、ジョンパット・クスウィダナント、
武田晋一（鉄道芸術祭 vol.9 参加アーティスト）

進行：木ノ下智恵子、久保田テツ、塚原悠也
（アートエリア B1 運営委員）



2) アーティストプログラム 小沢裕子

「言葉の乗り物たちの集会」

日時：11月23日（土・祝）14:00～16:00

ゲスト：小沢裕子（鉄道芸術祭 vol.9 参加アーティスト）

展示作品出演の日本語教師、外国人の方々

進行：木ノ下智恵子、久保田テツ、塚原悠也
（アートエリア B1 運営委員）



3) アーティストプログラム 武田晋一

「アーティストと雑草学者のみちくさ談義」

日時：12月7日（土）15:00～17:00

ゲスト：武田晋一（鉄道芸術祭 vol.9 参加アーティスト）
富永達（京都大学雑草学研究室 教授）

進行：木ノ下智恵子（大阪大学、アートエリア B1 運営委員）



4) 電車公演「texts in the train」

日時：12月1日（日）15:15 発～17:00 着

テキスト選出：岡田利規（演劇作家／小説家／チルフィッシュ主宰）

出演：青柳いづみ（女優）、七尾旅人（シンガーソングライター）、
YPY（ミュージシャン／a.k.a. 日野浩志郎）

会場：京阪電車貸切電車内 [車内パフォーマンス]



5) 「光善寺駅カメラオブスキュラ」ツアー

日時：10月26日（土）13:00～14:30

11月23日（土・祝）10:30～12:00

12月7日（土）、22日（日）13:00～14:30

受付場所：京阪電車「光善寺駅」改札口外

参加費：1,000円（光善寺駅～なにわ橋駅までの片道運賃含）

定員：各回 10 名程度（要事前申込・先着順）

6) ラボカフェスペシャル「カタコト、空耳、デ タラメの歌謡史：聞こえることと歌うこと」

日時：11月13日（水）19:00～20:30

ゲスト：輪島裕介（大阪大学大学院文学研究科准教授）

進行：肥後楽（大阪大学21世紀懐徳堂 特任研究員）

7) ラボカフェスペシャル

「外国人と日本人がともに輝ける社会のために ～多文化共創による持続可能な社会開発」

日時：11月27日（水）19:00～20:30

ゲスト：佐伯康考（大阪大学共創機構社会学共創本部 助教）

進行：沢村有生（大阪大学21世紀懐徳堂特任研究員）

8) ラボカフェスペシャル

「“都市の身体”を形成する交通インフラ」

日時：12月20日（金）18:30～20:30

ゲスト：吉見俊哉（社会学者／東京大学大学院情報学環教授）

進行：木ノ下智恵子、久保田テツ

9) クロージング・トークセッション

「いとうせいこうとめぐる都市の身体」

日時：12月22日（日）15:00～17:00

ゲスト：いとうせいこう（作家／クリエイター）

小沢裕子、武田晋一（鉄道芸術祭 vol.9 参加アーティスト）

進行：木ノ下智恵子、久保田テツ、塚原悠也

（アートエリア B1 運営委員）

【中之島連携企画】

10) 東洋陶磁美術館×アートエリアB1

ラボカフェスペシャルfeaturing 鉄道芸術祭&クリ エイティブ・アイランドラボ 中之島

「社会と表現の相互作用—フィンランド近現代史と陶芸」

日時：9月16日（月・祝）14:00～16:00

ゲスト：石野裕子（国士舘大学文学部史学地理学科准教授）

宮川智美（大阪市立東洋陶磁美術館学芸員）

進行：當野能之（大阪大学大学院言語文化研究科講師）、

肥後楽（大阪大学21世紀懐徳堂特任研究員）

11) 中之島夜会@国立国際美術館×アートエリアB1

「コレクション特集展示 ジャコメッティと II」と

「鉄道芸術祭 vol.9 都市の身体」を巡る夜

日時：11月1日（金）18:00～20:30

ツアーゲスト：橋本 梓（国立国際美術館主任研究員）

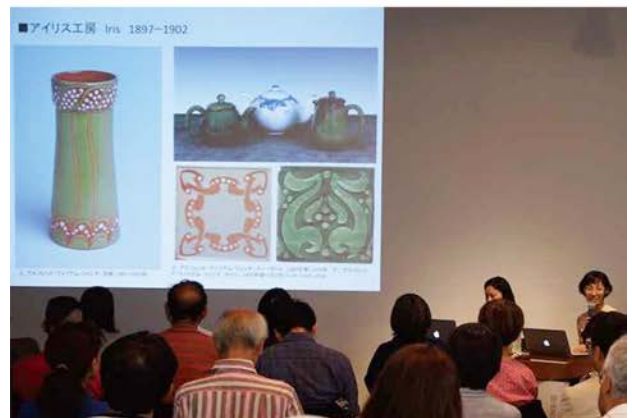
コース：国立国際美術館 → アートエリアB1

ツアーナビゲーター：木ノ下智恵子（アートエリアB1 運営委員）

定員：20名（要事前申込・先着順）

共催：中之島まちみらい協議会

共同企画：国立国際美術館



サーチプロジェクト vol.7 クリエイティブアイランド・ラボ 中之島 ～「文化の実験島」としての中之島発信プロジェクト～

「サーチプロジェクト」とは、アートエリアB1を活用して、アートや知の可能性を探索（=search）する事業として2011年に始動した企画展。今年度からは、「クリエイティブアイランド・ラボ 中之島～「文化の実験島」としての中之島発信プロジェクト～」をテーマに事業を展開。世界に誇る歴史と文化の集積地である大阪の中之島エリアは、パリのシテ島、ベルリンのムゼウムス・インゼルなど、世界に類する都心の中州（島）の可能性に満ちている。本事業は、中之島エリアを「創造的な研究所（クリエイティブ・ラボ）」として見立て、中之島に点在する文化施設や団体との連携、アーティストや研究者によるリサーチなど、3つのプロジェクトを通じて、中之島の創造的な活用法を探る。

【3つのプロジェクト】 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため合計11企画を延期／中止

- 1) 中之島ポスタープロジェクト
- 2) 展示企画「ビルダーズ：工事記録にみる都市再考」
- 3) 中之島文化ネットワーク

主催 アートエリアB1（大阪大学、NPO法人ダンスボックス、京阪ホールディングス（株））

共催 クリエイティブアイランド中之島実行委員会 助成 大阪市

1) 中之島ポスタープロジェクト

被写体との独特の距離感をもった写真作品で知られる写真家・野口里佳が、春夏秋冬の中之島を巡り、独自の視点で捉えた写真をもとに、中之島をプロモーションするイメージポスターを制作。大阪京都の駅、街中に展開。

展示期間 2020年1月～3月 場所 アートエリアB1、京阪本線および中之島線の駅、ほか



2) 展示企画「ビルダーズ：工事記録にみる都市再考」

本展は、企業等が保有する大阪の都市形成に深く関わる地下鉄や巨大ビルディングの工事記録映像などを上映。大大阪時代の1930年代と戦後復興の1960年代の工事記録映像には当時の風景はもとより、職人の土木技術と身体性、街ゆく人々の振舞い、そして大事業を成し遂げる人々の労苦や歓喜をも映し出し、蓄積された都市の記憶が刻まれている。これらの工事記録映像とともに、現代の中之島を川から捉えた映像をあわせて展示し、過去から脈打つ都市の様相を俯瞰する。会期中、建築家、アーキビスト、視覚文化研究者、工学研究者など、様々な専門家の視点から読み解くトークシリーズを並走させることで、都市の成り立ちを後世に示す文化資産としての映像アーカイブの可能性について多角的に探る。

- ・会期 2020年1月24日（金）—3月22日（日）
- ・会場 アートエリアB1
- ・展示協力 大阪市高速電気軌道株式会社、株式会社大林組、株式会社竹中工務店、京阪電気鉄道株式会社

1 | 大阪瓦斯ビルディング 建設の記録

(1933年／40分／株式会社大林組所蔵)

御堂筋に面し、現在は国の登録有形文化財にも指定されている大阪ガス本社ビルの工事記録映像。設計は安井武雄、施工は大林組。冷暖房完備など当時最先端の設備を備え、食堂やガス料理講習室、講演場が設けられたハイカラな施設として一般にも親しまれた通称「ガスビル」は、約3年で延べ18万人近くを動員する一大事業でした。鉄骨を組み上げていく高職人、高熱のリベットを遠くから投げて空中で受け取る鉄筋工など、当時の高度な職人のふるまいに目を見張ります。

※上映資料は、1993年に原稿の35ミリフィルム全8巻を再編集し音声が増えられたものです。

2 | 新朝日ビル誕生

(1958年／30分／株式会社竹中工務店所蔵)

中之島にあった朝日ビルディングのオフィスビルの工事記録。設計、施工は竹中工務店。当時国内最高の高さ45メートル、37トンもの外装アルミパネルの外観、ホテルと国内最大級のホールであるフェスティバルホールを備えた建造物は、中之島でもひととき目立つ存在でした。高度で大胆かつ繊細な職人の技能で当時最大規模のマンモスビルの鉄骨が複雑に組み上がる様は壮観であり、建設前後で比べると中之島の景観が大きく変わる様子が見て取れます。

3 | 淀屋橋延長線工事 1960-1963 鉄路と汗

(1963年／49分／京阪電気鉄道株式会社所蔵)

3年にわたる京阪電気鉄道地下延長線（淀屋橋駅—淀屋橋駅間）工事の記録。交通量の多い天神橋への影響を最小限に抑えるトンネル工事、スコップで土を掘り出す作業員の様子、地下線での試運転などが、工法の詳細な説明とともに記録されています。私鉄の大阪都心乗り入れ第一号という京阪の悲願達成にあたっての熱のこもった劇的な演出は、映像作品としても興味深く、淀屋橋周辺のオフィス街や人々の様子など当時の風景や世相が刻まれています。

4 | 大大阪観光

(1937年／29分／大阪市所蔵)

大阪市電気局と産業部が市営交通機関の普及と観光宣伝を目的に制作した映像資料。1933年に開業した大阪市営地下鉄や、バスを乗り継ぎ、通天閣、住吉大社、大阪城、電気科学館などのランドマークを巡り、観光艇で大阪市中央公会堂を臨みながら中之島などを周遊します。工事記録とは異なりますが、建物内部の紹介や浪花踊り、水上生活者の暮らしの様子なども交え、経済・文化において栄華を極めた「大大阪」時代の都市景観や産業、風俗を多面的に伝えています。

BUILDERS: RECONSIDERING THE CITY

SEARCH PROJECT VOL.7

サーチプロジェクト vol.7
クリエイティブアイランド・ラボ 中之島

ビルダーズ

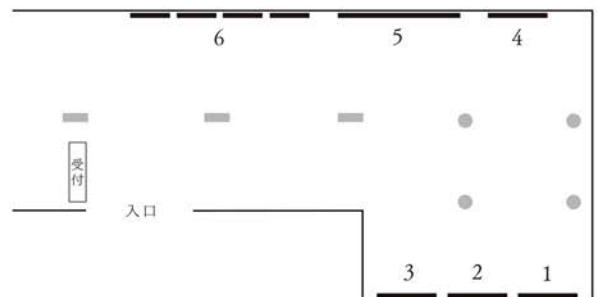
工事記録にみる都市再考

2020.1.24(金) 3.22(日)

12:00-19:00 入場無料

SDRO3ER

BASED ON CONSTRUCTION RECORDS



5 | 船から見た中之島の現在

(2019年／60分／撮影編集：松見拓也／撮影協力：一本松海運株式会社)

中之島は、堂島川と土佐堀川に挟まれた東西3.3kmの1丁目から6丁目に区画された島(中州)です。その中之島を船で6丁目にある西の端から時計回りに進み、1丁目の東端で折り返して一周することで、現在の中島の姿を捉えたものです。船の正面から撮影した映像と中之島側にカメラを向けた映像とを30分ずつ交互に上映します。ふだんの中之島とは異なる水辺からの景色をお楽しみ下さい。

6 | 中之島ポスタープロジェクト／野口里佳

(2020年／B0、B2、B3ポスター／© 野口里佳 デザイン：倉澤洋輝)

被写体との独特の距離感をもった写真作品で知られる写真家・野口里佳が、2018年より春夏秋冬の中之島を巡り独自の視点で捉えた写真をもとに、中之島をプロモーションするイメージポスターを制作しました。もう一つの中之島の姿を、大阪や京都の駅、街のなかに展開します。

ポスター掲示期間：2020年1月～3月

掲示場所：アートエリアB1、京阪全線の駅、ほか

2.公開講座・催しの実施 > 2-13. アートエリア B1、クリエイティブアイランド中之島

【「ビルダーズ：工事記録にみる都市再考」展示会場風景】



3) 中之島文化ネットワーク ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多数プログラムを延期／中止

中之島周辺には、美術館やホール、科学館、図書館など16以上の文化拠点が集積している。これら文化施設や機関と連携して、各拠点が有する固有の資源（人・コレクション・歴史・取組み）を活かしたトークやツアーなどを展開。連携企画の積み重ねを通じて、施設固有の客層の拡張や観客の回遊性を誘引するとともに、中之島の文化ネットワークの構築と組織体制づくりに繋げる。

- ・会期 2020年1月24日（金）—3月22日（日）※月曜休館（祝日の場合は翌日）
- ・会場 アートエリア B1、中之島文化施設等各所

オープニングトーク 「都市の記憶 建築アーカイブをめぐって」

日時：2020 年1 月24 日（金）19:00—21:00

ゲスト：高岡伸一（近畿大学建築学部准教授／大阪市立大学都市研究プラザ特別研究員）、齋藤歩（京都大学総合博物館特定助教）、秋山卓也（大阪大学知的基盤総合センター准教授）、佐藤守弘（京都精華大学デザイン学部教授）、松隈章（株式会社竹中工務店設計本部企画担当）

カフェマスター：植木啓子（大阪中之島美術館準備室研究副主幹）、木ノ下智恵子（アートエリアB1 運営委員）、南谷雅和（京阪ホールディングス株式会社経営統括室事業推進担当部長）

共同主催：大阪中之島美術館準備室／助成：一般財団法人地域創造、公益財団法人ユニオン造形文化財団

近代以降の大阪の建築史・都市史研究を俯瞰すると、一般に近代建築と呼ばれる戦前の歴史的建築物には多くの注目が集まっている一方で、戦後から高度成長期にかけてのビル建築物や都市整備に関しては、残念ながらまとまった成果を認めることができない。昨今の再開発の波にあつて戦後の建築物が解体され、建設時の資料も散逸・処分されるなか、戦前と現在を結ぶ戦後昭和の建築都市文化は、歴史からまるごと抜け落ち、やがて記憶からも消滅していく危機にさらされているといえます。今回は、建設事業者、建築家、アーキビスト、知的財産法研究者、視覚文化研究者を招き、建築アーカイブをめぐる保存状況や保存・公開における課題、歴史文化的価値などを紐解きながら、その活用可能性を探る。本トークは、大阪中之島美術館準備室との共同主催により開催し、同準備室が大阪市立大学と資料保存・研究を進めている大阪・関西における建築アーカイブに焦点を当てた。



鉄道カフェ「鉄道アーカイブの保存活用とその魅力」

日時：2020 年 1 月 30 日（木）19:00－21:00

ゲスト：中西一浩（京阪電気鉄道株式会社広報部係長） カフェマスター：久保田テツ（アートエリア B1 運営委員）、木村博哉（京阪ホールディングス株式会社経営統括室事業推進担当主幹）、川上卓男（京阪ホールディングス株式会社経営統括室事業推進担当）

「文化と経済の両輪～企業メセナからみる都市創造～」

日時：2020 年 2 月 14 日（金）19:00－21:00

ゲスト：石井康友（株式会社竹中工務店CSR推進部）、南谷雅和（京阪ホールディングス株式会社経営統括室事業推進担当部長）
カフェマスター：木ノ下智恵子（アートエリア B1 運営委員）

以下は新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期／中止

2月21（金）大阪中之島美術館準備室との連携プログラム「地域 Å 企業 デザインアーカイブをめぐる」

2月28日（金）接合カフェ〈特別編〉「溶接技術者に聞く橋梁と建築鉄骨のひみつ」

2月29日（土）「野口里佳（写真家）× 服部滋樹（graf）中之島ポスタープロジェクトを語る」

3月1日（日）国立国際美術館との連携プログラム 建築ワークショップ「Landing City」

3月5日（木）ラボカフェスペシャル「"経験"と"勘"のサイエンス～土木工学の新たな試み～」

3月10日（火）こども本の森 中之島との連携プログラム「こどもと本 ～「こども本の森 中之島」開館記念トーク～」

3月14日（土）大阪市立科学館との連携プログラム「プラネタリウムと音楽 ～DJ土井コマキ選～」

3月17日（火）フェスティバルホールとの連携プログラ「フェスティバルホール音響体験スペシャルツアー vol.2」

3月18日（水）大阪府立中之島図書館との連携プログラム トーク「中之島の古写真と映像を探して見る会」

2.公開講座・催しの実施 > 2-13. アートエリア B1、ラボカフェ

■ラボカフェ

「アートエリア B1」が主催し、大阪大学が主体となり、21 世紀懐徳堂が企画制作する対話プログラム。2008 年 10 月に開始し、哲学、アート、サイエンス、臨床医療、最先端研究など、毎月多様なテーマで行い、シリーズ化する人気企画も多数ある。本学教職員の持ち込み企画（学内公募プログラム）も実施し、学外のアウトリーチ拠点の一つとして機能している。

- ・対象／一般 ・定員／回によって異なる ・受講料・事前申込／無料（一部有料あり）・原則不要
 - ・開催頻度／毎月不定期に複数回開催〔今年度は計 50 回（うち学内公募 14 回）開催、参加者数 2,334 名〕
- ※一部の企画は新型コロナウイルス感染症の拡大状況を受け、延期または中止となりました(11 回分)。

＝学内公募プログラムについて＝

各教職員等が実施希望日の 3 カ月前の末日までに「ラボカフェプログラム学内公募」窓口に申し込み、「アートエリア B1 運営委員会」での選考・採用後、実施する。公募の詳細は 21 世紀懐徳堂 HP「ラボカフェプログラム学内公募のお知らせ」参照。

<企画紹介>

○大阪大学 21 世紀懐徳堂カフェ「デザインに生きる心理学」（11 月 17 日）



これは 21 世紀懐徳堂学生スタッフの桑江が、学生スタッフとしての取り組む中で自らイベントの企画運営を行い、特に自身の専門分野である、カウンセリング以外の心理学の面白さを一般の方々に紹介したいと考え、企画から当日まで半年間にわたって活動を行いました。

ラボカフェとして企画し、テーマを普段心理学に関心のない方にも興味を持っていただけるよう「デザイン」におき、物の使いやすさについて人間と機械が情報をやり取りする手段に焦点を当てたヒューマン・マシン・インタフェースや、認知心理学の研究を行っている大阪大学

大学院人間科学研究科の北村昭彦助教にゲストをお願いしました。それから具体的な内容についてのゲストとの調整や参加者にテーマを身近に感じてもらうための実習の検討、チラシ作成などを行いました。

当日はまず、参加者が使いにくいデザインを体験する模擬的なフォームに記入した後、その使いにくさや感じたストレスについてディスカッションしました。そして北村先生から、そもそもデザインの専門家ではない心理学者がなぜデザインの話をするのか？というところから、人間の「目」がいかに優れているのか？そしてその見え方は人によってここまで違いがあり、多くの人の人にとって使いやすくなるためにときには冗長性が必要であることをお話いただき、参加者からも積極的に質問されました。

終了後、「デザインに心理学的な要素が関係しているとは今まで知らなかった」という感想も寄せられ、概ね満足・理解いただけたと思われます。

今回の企画を通じて、一般の方に学問とその面白さを同時に伝える方法の一端をはじめ、多く学ぶことができました。最後に今回ゲストを引き受けていただいた北村助教、ご参加の皆様に感謝申し上げます。

（21 世紀懐徳堂学生スタッフ 桑江 良周）



○サイエンスカフェ・オンザエッジ@ラボカフェ

「おなかの中の妙なる調和 ―腸内細菌と免疫細胞のクロストーク―」(10月16日)

腸の中には、ヒトの全細胞数よりも多い腸内細菌が住んでいると言われています。腸内細菌はもともと人間から見て異物であるにもかかわらず、人間の免疫系から排除されないばかりではなく、人間と共生関係を結んで、私たちの身体にさまざまな栄養素を与えたり、免疫を強化したりすることがわかっています。実際、腸内細菌叢の乱れはさまざまな病気と関係することも明らかになってきました。今回のカフェでは、腸内細菌が私たちの身体、特に免疫系に与える影響について紹介し、ビジネスマンや学校帰りの生徒・学生など、定員を超える来場者とともに活発な議論となりました。



梅本英司（医学博士、大阪大学大学院医学系研究科准教授、免疫学フロンティア研究センター准教授兼任）

2019年度 学内公募プログラム一覧

学内公募プログラム名 カフェ名称	テーマ・タイトル	日時	カフェマスター/ 企画
縄文 触れる 震える project	アイヌ、神楽、記憶の声をたどる	4/28(日) 13:00-14:30	山崎 達哉（文学研究科）
	アイヌ紋様の刺繍体験	4/28(日) 15:00-18:00	
あぐり展	円空さんと釜ヶ崎夏まつり	8/3(土) 14:00-16:00	宮本 友介（CO デザインセンター）
	こだまの響き（現代アニミズムアート展）	8/25(日) 13:00-18:00 ～9/1(日)	
	縄文 触れる 震える project 「ダイダラボッチが残したもの」	8/25(日) 14:00-16:00	
	縄文 触れる 震える project 「木霊・おとたゝま・朗読」	8/31(土) 14:00-16:00	
	縄文 触れる 震える project 「縄文鼓とアニミズムの舞」	9/1(日) 15:00-16:00	
大阪大学リサーチクラウドカフェ	ナノ構造で変わり者電子を操る	9/4(水) 19:00-20:00	中川 敦史（学術研究機構 会議、蛋白質研究所）
	遺伝子・ゲノム・蛋白質と出産、老化、 ガンとの関わり	10/2(水) 19:00-20:00	
	世界を駆けめぐる耐性菌	11/6(水) 19:00-20:00	
	中国経済のグローバル化の影響 ―WTO 加盟の20年を振り返る―	12/4(水) 19:00-20:00	
参加者・作家・講師による即興創作実演ライブ！カクカタル	情報が物語を生む	9/27(金) 19:00-21:00	岡 真裕美（人間科学研究科）
サイエンスカフェ・オンザエッジ@ ラボカフェ	おなかの中の妙なる調和 -腸内細菌と免疫細胞のクロストーク-	10/16(水) 19:00-20:00	渡部 祐司（免疫学フロンティア研究センター）
大阪大学 21 世紀懐徳堂カフェ	デザインに生きる心理学	11/17(日) 14:00-15:30	桑江 良周（21 世紀懐徳堂）
接合科学カフェ	60 分のミステリーツアー - 割れ -	11/28(木) 19:00-20:00	鴫田 駿（接合科学研究所）
	60 分のミステリーツアー - すき間 -	1/16(木) 19:00-20:00	梅田 純子（接合科学研究所）
	60 分のミステリーツアー - 粒（つぶ） - [開催延期]"	3/31(火) 19:00-20:00	鴫田 駿（大阪大学接合科学研究所）
マンガカフェ 28	今年のマンガ界をふり返るぞ！ 2019	12/15(日) 18:30-20:30	金水 敏（文学研究科）

2-14. 大阪大学社会学共創連続セミナー

複雑化する社会課題の解決に向け、大学と社会による対話を深めるとともに、今後の共創に向けた関係構築を行うべく、2018年度から社会学共創連続セミナーを開催している（2018年度は4回開催）。2019年度は子どもの貧困、地域と大学の持続可能な関係構築、女性のリーダーシップなどをテーマに合計6回のセミナーを開催した。（佐伯 康考）

- ・対象／一般
- ・会場／大阪大学会館、大阪大学中之島センターなど
- ・参加費／無料
- ・参加者数／各回30名程度
- ・開催期間／2019年6月～2020年1月



第5回セミナー「Universities and Cities」
登壇者：島本健太氏
(独立行政法人 都市再生機構 西日本支社 都市再生業務部うめきた都市再生事務所長)

成果

複雑化する社会課題の解決に向けて、大学と社会の共創による持続可能な解決策を模索するべく、独立行政法人やNPO等で活躍する専門家を中心に講師を招へいし、市民や企業関係者など多様な参加者とともに議論を行った。新しい価値創造に向けた議論を行った(下記写真は若手社会起業家として注目を集める神戸アジアパル SALA 代表の黒田尚子氏と関西学院大学人間福祉学部社会起業学科の武田丈教授)。



複雑化する社会課題の解決に向け、大学がハブとなり、市民社会の多様な人々が議論を深める場を提供することに大きな意義がある一方、持続可能性を高めるうえでは研究開発エコシステムに貢献するかたちでの活動の再検討が必要とされている。同様の問題意識を抱えている大学や企業は少なくないことから、社会・大学の社会貢献（CSR/USR）の持続可能性を高めるための多様なアクターとの共創活動が重要な課題である（下記写真は第9回セミナー冒頭）。



大阪大学社会学共創連続セミナー 開催一覧

■ 第5回 「Universities and Cities」

講師：

島本 健太(UR都市機構うめきた再生事務所・所長)
1965年兵庫県神戸市生。1990年民間企業(建設会社)に入社し、設計部門に所属。1993年から1996年までハーバード大学デザイン大学院留学。1999年より京都造形芸術大学非常勤講師。2002年UR都市機構に入社、都市再生部門にてうめきた地区を担当。関西経済連合会出向や、新規事業企画担当の後、2014年よりまちづくり支援課課長として、姫路、和歌山、広島、鳥取など地方都市の再生に携わった。2018年4月よりうめきた都市再生事務所所長。

研究報告：

佐伯 康考(大阪大学共創機構社会学共創本部特任助教)

司会：永田 靖 (大阪大学副学長・共創機構社会学共創本部長)

日時：6/12(水) 18:30~20:00

会場：大阪大学中之島センター講義室201

受講者数：55名

開催趣旨：

都市と大学の理想的な関係とは、どのようなものか。どのようなアプローチが理想的な関係性の構築には有効なのか。そして、都市の発展に大学はどのように貢献できるのか。

こうした問いへの答えを探求するべく、ハーバード大学大学院デザインスクールで学ばれ、都市開発の最前線でご活躍される島本健太先生(独立行政法人都市再生機構西日本支社うめきた都市再生事務所所長)をお招きするとともに、海外大学を中心とした研究報告を行い、参加者の皆様と議論を深めて参ります。



■ 第6回 「ソーシャルビジネスと大学」

講師：

黒田 尚子(神戸アジア食堂バル SALA 代表)

1990年生まれ。兵庫県出身。関西学院大学在学中から在日外国人女性達と料理を通じてのフィールドワークに尽力。2016年7月「神戸アジア食堂バル SALA」を開業。2019年に実施したクラウドファンディングで227万円を集めた「多国籍チャルメラ屋台」で外国人女性の雇用をさらに増やすべく活動中。

武田 丈(関西学院大学人間福祉学部社会起業学科教授)

1996年テネシー大学ソーシャルワーク研究科博士号取得。日本の社会福祉の実践や研究アプローチではなく、参加型アプローチ(参加型アクションリサーチ, CBPR = community-based participatory research)、フェアトレード、社会的企業、NPO/NGO活動、セルフサポートといったオルタナティブな実践や研究アプローチに近年関心を持っている。黒田尚子氏らのプロジェクト SALA を在学中からサポート。

開催挨拶：

永田 靖 (大阪大学副学長・共創機構社会学共創本部長)

日時：7/2(火) 19:00~20:30

会場：大阪大学中之島センター

受講者数：28名

開催趣旨：

外国人女性の就労支援を目的としてアジア出身の女性たちが母国料理を提供する「神戸アジア食堂バル SALA」。大学在学中から外国人女性のエンパワーメントに取り組み、2016年7月にSALAをオープンした黒田尚子さんにこの3年間の取り組みと、クラウドファンディングによる新たな挑戦についてお話を頂きます。また黒田さんが関西学院大学人間福祉学部社会起業学科在学中からサポートを行ってきた同学科教授の武田丈先生をお招きし、大学の果たすべき役割についてコメントを頂いた上で、参加者の皆様とのディスカッションを行います。



■第7回 「貧困の連鎖を断ち切る」

講師:

渡剛(特定非営利活動法人あっとすくー理事長)

1989年熊本県生まれ。未婚の母子家庭で育つ。大阪大学在学中の2010年、「次の世代の子どもたちが、自分のように苦しなくていいように」という思いからひとり親家庭の子どもへの教育支援事業を立ち上げ、今年度で団体設立の節目となる10周年を迎える。自分自身の家庭環境もひとり親家庭であったことを活かし、子どもの気持ちに寄りそうかたちでの支援を行なっている。

開催挨拶: 永田 靖 (大阪大学共創機構社会学共創本部長)

日時: 10/30 (水) 14:40~16:10

会場: サイエンスコモンズ スタジオ A (豊中キャンパス)

受講者数: 27名

開催趣旨:

ひとり親家庭の相対的貧困率は50.8%。7人1人の子どもが貧困状態にあると言われますが、ひとり親家庭だけに限れば、2人に1人の割合まで高くなります。他の先進国と比べても日本のひとり親家庭の貧困率は高く、世界的に見てもその貧困率の高さは際立っています。大阪大学在学中に起業し、ひとり親家庭の子どもへの教育支援に取り組んできた渡剛さんを講師にお招きし、教育格差の問題について、私たち一人ひとりができることを考えていきたいと思います。



■第8回 「多文化共創社会の実現に向けた課題-ミャンマー難民として来日してからの28年の歩み-」

講師:

チョウチョウソー(特定非営利活動法人 ミャンマー日本教育のかけはし協会理事長 NHK 国際放送「ラジオ日本」ビルマ語アナウンサー)

1991年、軍事政権の弾圧を逃れ、妻を残し来日。7年後、難民認定を受けて妻を呼び寄せる。ビルマで暮らす仲間たちは自由も豊かさもない。日本に逃れてきた自分だけが、そのチャンスを独り占めすることはできない、と言う。2016年3月、25年ぶりに故郷の土地を踏む。ビルマで学校を建てるのが夫妻の目標。

川村 千鶴子(大東文化大学名誉教授・多文化社会研究会理事長)

博士(学術)。慶應義塾大学商学部卒業後、イギリスの国営会社に勤務。1989年から多文化社会研究会理事長。国立民族学博物館共同研究員。大東文化大学環境創造学部教授、学部長などを歴任。著書(2015)『多文化都市・新宿の創造 — ライフサイクルと生の保障』、共編著書(2016)『多文化「共創」社会入門』両方とも慶應義塾大学出版会ほか多数。

開催挨拶: 永田 靖 (大阪大学共創機構社会学共創本部長)

日時: 11/6 (水) 14:40~16:10

会場: サイエンスコモンズ スタジオ A (豊中キャンパス)

受講者数: 32名

開催趣旨:

「ミャンマーで暮らしていた28年前の自分と、日本で生きる現在の私の一番大きな違い。それは自分と意見が異なる人たちと出会った時に対立するのではなく、自分とは異なる考えを持つ人々の多様な意見を受入れられるようになったこと」と語るミャンマー(旧ビルマ)難民のチョウチョウソーさん。事実上の無国籍の問題にも長年、直面してきました。自分と異なる存在を排斥しようとする風潮が世界的に広がる中、「支援し、受入れるだけでは難民や無国籍の問題はなくなる」と警鐘を鳴らします。多様な考え方・生き方を受け入れたうえで、共に新しい価値を創り出そうとする「多文化共創社会」の実現に向けて取り組むべき課題について、参加者の皆様とともにディスカッションを行います。



第9回 「歴史・文化資源のポテンシャル-文化財保全のオプションとしてのクラウドファンディング-」

講師：

三島 美佐子(九州大学総合研究博物館准教授)

1992 年富山大学理学部生物学科卒業、1994 年同大学院理学研究科生物学専攻修士課程修了、1997 年東京都立大学大学院理学研究科生物学専攻博士課程修了、博士(理学)。1998 年日本学術振興会特別研究員(PD)、2000 年 岡崎共同研究 機構基礎生物学研究所 COE 研究員、2002 年九州大学総合研究博物館助手、2007 年同助教、2010 年同准教授。文書館・大学院統合新領域学府ユーザー感性学専攻等を兼任。

松永 和浩(大阪大学適塾記念センター准教授)

1978 年熊本県生まれ。1997 年熊本県立熊本高等学校卒業、2001 年大阪大学文学部入学、2008 年大阪大学大学院文学研究科博士後期課程単位修得退学。博士(文学)。2010 年大阪大学総合学術博物館助教、2015 年大阪大学適塾記念センター准教授、2017 年組織変更により大阪大学社会学部准教授。著書に『室町 期公武関係と南北朝内乱』(吉川弘文館、2013 年)、編著に『ものづくり 上方“酒”ばなし』(大阪大学出版会、2012 年)、『佐治敏三“百面相”』(大阪大学出版会、2019 年)、共編著『新版 緒方洪庵と適塾』(大阪大学出版会、2019 年)がある。

日時：11/13(水) 14:40~16:10

会場：大阪大学学生会館セミナー室 201

受講者数：31 名

開催趣旨：

大学の教育研究を向上させるための新たな財政基盤強化手法としてクラウドファンディングが全国的に注目を集めています。2018 年度に大阪大学 適塾記念センターは 307.5 万円の寄附によって 180 年の歴史を詰め込んだ図録を作成。九州大学総合研究博物館も 2018 年度に 413.4 万円の寄附を活用して木製学校家具の保全活用を進めるなど、市民の皆様からの寄附によるプロジェクトを実行しました。文化資源のポテンシャルと、その活用オプションとしてのクラウドファンディングについて、両プロジェクトの責任者を務めた大阪大学適塾記念センターの松永和浩准教授と、九州大学総合研究博物館の三島美佐子准教授からお話を頂き、これからの文化財保全のあり方について参加者の皆様とともにディスカッションを行います。



第10回 「女性のリーダーシップと多様性がもたらすイノベーション/大学の役割」

講師：

我喜屋 まり子博士(ポストグローバルフォーラムを含む他の国際企業・財団・機関エグゼクティブボードメンバー)

ハーバード大学教育大学院にて博士号取得後、東京大学大学院医学系研究科グローバル・リーダーシップ・プログラムのファカルティ・ディレクター、ハーバード大学教育大学院プロジェクト・ゼロ グローバルチェアー、ハーバード大学公衆衛生大学院 Sustainability and Health Initiative for NetPositive Enterprise (SHINE) アドバイザリー・ボード・メンバー、国際女性ウェルネス財団(ニューヨーク)アドバイザリーボード、アジア女子大学支援財団(バンラデシュ)国際カウンシル・アドバイザリー役員などを歴任。ポストグローバルフォーラム・エグゼクティブボードメンバーとして、AI を活用した未来の働き方と国際的な女性活躍、包摂的経済成長実現のために活躍されている。

日時：1/31(金) 14:40~16:10

会場：サイエンスコモンズ スタジオ A (豊中キャンパス)

受講者数：25 名

開催趣旨：

2019 年にはフィンランドで 34 歳の女性首相が誕生するなど、世界各地で女性のリーダーたちが目覚ましい活躍を見せています。一方、日本では 2019 年度に世界経済フォーラムが発表したジェンダー・ギャップ指数で 121 位と過去最低を記録しました。女性活躍の推進に向けて世界を舞台にご活躍されている我喜屋まり子先生をお招きし、女性活躍を実現するための日本社会の課題と大学の役割/イノベーションについて参加者とともにディスカッションを行います。



2-15.森村泰昌「下町物語プロジェクト 2017-2019」本説

野生「能」2019：火魔我蹉鬼、洲波羅、富久破裸

“下町”の文化的かつ社会的意味を包括的に捉え直すことを企画主旨とし、国際的に活躍する美術家の森村泰昌を核にプロフェッショナルチームを立上げ、神戸・大阪・京都（新長田・釜ヶ崎・崇仁/東九条）を舞台にした「下町物語プロジェクト 2017-2019」を2017年に始動。前回の序説に続く本説は、3都市の地域を森村独自に読み解いた観点からクリエイションへと昇華させ、オリジナルの舞台作品を創作。本事業は、神戸新長田「下町芸術祭」と京都京都駅東南部エリア「東九条野外劇場 まちがつくる×まちがめぐる×まちがのこす」の一環として各所と共創し、二都市かつ屋内野外の異なる環境での世界初演となる公演へと結実した。（木ノ下智恵子）

公 演：森村泰昌『野生「能」2019：火魔我蹉鬼、洲波羅、富久破裸』

日程/会場：神戸＝2019年11月9日（土）10（日）19:00-21:00

ArtTheater dB神戸（神戸市長田区久保町6-1-1 アスタくにつか4番館4階）

京都＝2019年11月16日（土）17（日）16:00～

北河原市営住宅 跡地（京都市南区東九条北河原町1）

出演者等：森村泰昌（脚本/出演）、木ノ下智恵子（企画/プロデュース）、あごうさとし（演出）、
太田宏（出演/青年団）、葛西友子（出演/パーカッション演奏）、太田真紀（出演/ソプラノ）、
伊左治直（音楽）、藤井光、岸本康（映像）、加藤文崇（映像編集/オペレーション）、
夏目雅也、北方こだち（舞台監督）、三浦あさ子（照明）、西川文章（音響）、
岩本順平、笠木日南子（制作）、大館奈津子（制作協力、一色事務所）
※ 神戸公演アウタートークゲスト：やなぎみわ、塚原悠也

参加人数：700名（神戸有料公演＝199名 ※定員200名、京都無料公演＝501名 ※京都市公式発表）

神戸公演 主催 新長田アートコモンズ実行委員会

共催 大阪大学「下町三都物語 2016-2019」クラスター、一般社団法人アーツシード京都

協力 大阪大学 21世紀懐徳堂、京都市立芸術大学芸術資源研究センター、
NPO 法人こえとことばとこころの部屋 cocoroom ほか

京都公演 主催 京都市、企画制作：一般社団法人アーツシード京都

共催 大阪大学「下町三都物語 2016-2019」クラスター、新長田アートコモンズ実行委員会

協力 大阪大学 21世紀懐徳堂、京都市立芸術大学芸術資源研究センター、
NPO 法人こえとことばとこころの部屋 cocoroom ほか

成果

2017年の3都市（地域）のプロジェクトを経て、本番となる2019年には、神戸新長田のみならず、京都駅開発に関連する事業と連動して野外公演を行うことができた。まさしく、下町という文化環境が開発事業と密接に関わる事実を明らかにする機会となり、マスコミ各社からの取材・発信も多く、充実したプロジェクトとなった。

神戸・大阪・京都（新長田・釜ヶ崎・崇仁/東九条）を舞台にした新作能の上演は、神戸・京都の2都市にとどまり、大阪での公演は叶わなかった。予算・人員・時間・場所との交渉事項など実現には様々な課題があるが、大阪万博等の時勢を勘案し、なんらかの手立てをもって大阪公演の実現を目指したいと考える。

【公演チラシ、舞台の様子:三部構成シーン抜粋（撮影者：福永一夫）】



「下町とは何か？」という根本的な問いをテーマにした三ヶ年プロジェクトの集大成は、日本を代表する美術家・文筆家である森村泰昌が、戦後復興高度成長の光と闇、消費経済と創造性の矛盾、アートプロジェクトの功罪、表現の自由と不自由など、様々な主題についての言及する独創的な脚本に昇華された。その表現形式には、政治経済の論理によって済し崩しに変わろうとしている“街の事情”と、それらに左右されない“ふつつと残っている魂のようなもの”や、自然発生的に形成されてきた路地や海辺や河原などの水際の文化といった土地から湧き上がるものの息づきなど、あらゆる地脈の過去と現在と未来をつなぐ“能”に着目している。ただし伝統芸能としての“能”ではなく、“野生の能”とも言うべき、古に大陸からもたらされた表現の原点に戻り、三間四方に立ち現れる夢幻を描くことを目的としている。その結果、森村流の飛躍的解釈による『野生「能」2019：火魔我蹉鬼、洲波羅、富久破裸 KAMAGASAKI SUHARA FUKUHARA』は、多彩なプロフェッショナル陣の参画も加わり、世界初演となる神戸/新長田と京都/東九条の二都市かつ屋内野外の異なる環境での公演へと結実した。また、2017年の展覧会で誕生した森村扮する【町下路地蔵】は本作でも重要な役割を担っており、これまでの森村作品における泰西名画や女優や歴史的人物といった他者ではなく、森村自身を投影する存在の創造へと繋がったことは、特筆すべき事項と考える。以上のことから様々な観点で本プロジェクトの意義と価値を示すことができたと言える。事実、マスコミや批評誌（朝日新聞、毎日新聞、日経新聞、realkyoto、批評誌 ACT 等）による記事掲載も多く、社会的評価や期待値も高い。よって本プロジェクトは時勢を勘案し各所と連携して大阪公演等を目指したいと考える。

3-1. 大阪大学 21 世紀懷徳堂だより

21 世紀懷徳堂が主催、共催、協力するイベントや一般公開講座、また大阪大学各部署が主催、共催するイベントや一般公開講座の情報を集約し、学内外に告知するフリーペーパー。各号 8,000～12,000 部発行。（沢村 有生）

- ・対象／学外の一般・小中高生、学内の教職員・学生
- ・発行日／vol.42＝2019 年 6 月 25 日、vol.43＝7 月 30 日、vol.44＝11 月 8 日、vol.45＝12 月 25 日、
- ・部数、サイズ／各号 8,000～12,000 部、A3 変形
- ・配布先／学外＝大阪科学記者クラブ、報道機関、タウン誌、関西経済連合会、関西経済同友会、大阪商工会議所、地方公共団体、近畿各府県公共施設、博物館・美術館、図書館、生涯学習センター、大阪 21 世紀協会、近畿地区国公立私立大学、モノレール 2 駅、石橋商店街、公開講座受講生、各種イベントで配布、その他
学内＝本部事務機構、各部長・室長、各部署および各部署同窓会事務局、総合学術博物館、吹田・豊中・箕面学生センター、吹田・豊中・箕面図書館、中之島センター、適塾
- ・発行頻度／年 4 回
- ・発行開始時期／2009 年 11 月

成果

複数の一般公開講座、各種イベントを一括して告知することにより、21 世紀懷徳堂と大阪大学の社会学連携事業の厚みを見せた。夏休み特集号も小学生高校生への告知媒体として定着している。

情報収集は WEB や SNS が主流となった昨今ではあるが、21 世紀懷徳堂主催事業に積極的に参加される一般の方に向けてはブッシュ型情報発信として紙媒体の果たす役割はいまだ健在であることがうかがえた。



2019 年度発行「21 世紀懷徳堂だより」表紙

=====

■大阪大学 21 世紀懐徳堂だより vol.42
(2019 年 7～9 月) 12,000 部

●2019 年 7 月～9 月の

小学生高校生対象の公開講座 告知

- ・大阪大学×大阪ガス アカデミックキング …1 講座
- ・大阪大学 21 世紀懐徳堂 i-spot 講座 …… 3 講座
- ・大阪大学大学院理学研究科生物科学 …… 1 講座
- ・大阪大学理学部数学科／
 高校生のための公開講座 …… 1 講座
- ・大阪大学理学部化学科一日体験入学 …… 1 講座
- ・大阪大学蛋白質研究所セミナー …… 1 講座
- ・大阪大学産業科学研究所／
 ものづくり教室 2019 …… 1 講座
- ・大阪大学大学院工学研究科技術部／
 社会貢献プログラム …… 1 講座
- ・大阪大学大学院工学研究科
 ひらめき☆ときめきサイエンス …… 1 講座
- ・大阪大学工学部一日体験化学教室／
 夢・化学-21 化学への招待 …… 1 講座
- ・はんだいラボ@EXPOCITY …… 3 講座
- 大阪大学総合学術博物館 第 22 回企画展 告知
- 大阪大学の学生イベント告知
- ・第 40 回大阪大学夏まつり
- ・流しそうめん@阪大坂 (+竹取り@待兼山)

=====

■大阪大学 21 世紀懐徳堂だより vol.43
(2019 年 8～12 月) 8,000 部

●2018 年 8 月～12 月の一般公開講座告知

- ・第 51 回大阪大学公開講座 …… 8 講座
 - ・大阪大学×大阪ガス アカデミックキング …1 講座
 - ・Handai-Asahi 中之島塾 …… 4 講座
 - ・大阪大学 21 世紀懐徳堂 i-spot 講座 …… 6 講座
 - ・大阪・京都文化講座 …… 8 講座
 - ・ラボカフェ …… 5 講座
 - 令和元年度大阪大学適塾記念講演会 告知
 - 植物探検隊の学生レポート
 - メールマガジン登録の案内
- =====

=====

■大阪大学 21 世紀懐徳堂だより vol.44
(2019 年 10 月～2020 年 3 月) 8,000 部

●2019 年 10 月～2020 年 3 月の一般公開講座告知

- ・Handai-Asahi 中之島塾 …… 10 講座
 - ・超学校 大阪大学×ナレッジキャピタル … 2 講座
 - ・Science café@大阪大学歯学部附属病院 … 2 講座
 - ・ラボカフェ …… 8 講座
 - ・第 11 回適塾講座 …… 3 講座
 - 大阪大学総合学術博物館 第 13 回特別展 告知
 ミュージアムレクチャー
 スペシャルトーク+ワークショップ
 - 音楽のアラベスク、文学のアラベスク 告知
 - 大阪大学共創 DAY@EXPOCITY 告知
 - メールマガジン登録の案内
- =====

■大阪大学 21 世紀懐徳堂だより vol.45
(2020 年 1 月～3 月) 8,000 部

●2020 年 1 月～3 月の一般公開講座告知

- ・大阪大学 21 世紀懐徳堂 i-spot 講座 …… 6 講座
 - ・Handai-Asahi 中之島塾 …… 5 講座
 - ・ラボカフェ …… 3 講座
 - ・サイエンスカフェ@待兼山 …… 4 講座
 - ・サイエンスカフェ@豊中市立中央公民館 3 講座
 - 大阪大学シンポジウム
 AI ネットワーク社会の共創に向けた ELSI 告知
 - 大阪大学シンポジウム
 大阪大学オープンイノベーション機構
 発足記念シンポジウム 告知
 - 第 2 回 SSI シンポジウム 告知
- =====

※各 21 世紀懐徳堂だより PDF ファイルを
21 世紀懐徳堂ウェブサイトに掲載している。

3-2. みのおエフエム「まちのラジオ」

連携協定を締結している箕面市との連携事業として、同市で開局している「タッキー816 みのおエフエム」が放送する番組「まちのラジオ」において、2010年4月から大学から地域へ、大学から社会に向けて社会学連携事業を中心に大阪大学を紹介している。大阪大学を身近に感じていただくとともに、大学と市民とが連携・協働を展開する上での足がかりとなることを期待し、毎月、教職員、学生団体等が出演している。大阪大学の取り組み、研究活動や社会に向けた特色ある活動等を紹介すると同時に、「地域に生きる」大阪大学をアピールすることを目指している。

(肥後 楽)

【番組概要】

- ・番組名／「まちのラジオ（大阪大学社会学連携事業）」
- ・放送日／毎月第2木曜日 午後3時～4時
再放送は同日の午後9時～10時と翌週の日曜日 午後1時から
みのおエフエムホームページからインターネットでも聴取可（同時配信のみ）
- ・形態／原則スタジオ収録
- ・周波数／FM81.6MHz
- ・みのおエフエムホームページ／<http://fm.minoh.net/>
- ・番組開始時期／2010年4月



法学研究科・林智良教授（2019年11月）



社会学共創本部・松永和浩准教授（2020年2月）

成果

昨年度から引き続き、21世紀懐徳堂の学生スタッフ（CA）がパーソナリティとしてゲストの選定・番組内容の企画・当日の聞き手として番組制作に参画した。パーソナリティの興味・問題意識に応じて幅広い分野の教職員・学生をゲストに招き、大阪大学の特色ある研究や取り組みについて発信することができた。今後も、学生が大学と社会とのつながりについて考え、主体的に取り組みに参画できる場として活動を発展させたい。

また、今年度は全12回中4回の放送について、社会学共創本部の事業に関する話題を取り上げ紹介した。マンスリー多文化サロン、総合学術博物館第22回企画展、能勢町文化活性化クラスターによる野外公演、クラウドファンディングなど、大学が実施する多彩な活動について発信し、「地域に生き世界に伸びる」をモットーとする大阪大学の特色ある活動を定期的に発信する場ともなった。

2019年度「まちのラジオ（大阪大学社会学連携事業）」放送内容

放送日	出 演	放 送 内 容
2019年4月11日	米田 信子（言語文化研究科教授）、 永原 順子（言語文化研究科講師）	毎月開催する「マンスリー多文化サロン」について紹介した。
5月9日	宇野田 尚哉（文学研究科教授）、 横田 洋（社会学共創本部助教）	大阪大学総合学術博物館第22回企画展について紹介した。
6月13日	八木 絵香（COデザインセンター 准教授）	「なぜ、科学コミュニケーションが大切なのか？」について紹介した。
7月11日	林 千宏（言語文化研究科准教授）	ご専門のフランス・ルネサンス文学について紹介した。
8月8日	辻田 俊哉（COデザインセンター講師）	イスラエル・パレスチナという地域や、国際関係・国際問題とソーシャルイノベーションとの関係について紹介した。
9月12日	山崎 達哉（文化研究科特任助教）、 松田 正弘（浄るりシアター館長）	能勢町文化活性化クラスターの活動について紹介した。
10月10日	山森 裕毅（COデザインセンター 特任講師）	現在取り組む当事者研究について紹介した。
11月14日	林 智良（法学研究科教授）	ご専門のローマ法について紹介した。
12月12日	望月 太郎（文学研究科教授）	発展途上国における哲学プラクティスの実践について紹介した。
2020年1月9日	本多 智佳（医学系研究科附属ツイン リサーチセンター特任准教授）	「ふたご研究とは何か？」について紹介した。
2月13日	松永 和浩（社会学共創本部准教授）	博物館企画展の企画や、クラウドファンディングなど大学を社会に拓く取り組みについて紹介した。
3月12日	磯谷 有亮（文学研究科助教）	ご専門の戦間期の写真史について紹介した。

3-3. 大阪大学 21 世紀懐徳堂メールマガジン

21 世紀懐徳堂が主催する公開講座やシンポジウムなどの参加者のうち、希望者に対して 2010 年 8 月より配信を開始した。“プッシュ型”の情報発信手法として、公開講座や催しの告知に活用している。（肥後 楽）

- ・対象／一般
- ・登録人数／2,858 名（2020 年 3 月 31 日現在）
- ・登録方法／公開講座やイベントの際に登録用紙を配付し登録希望者から回収・HP の登録フォームから申込
- ・配信開始時期／2010 年 8 月
- ・配信頻度／週 1～2 回程度。今年度は計 49 回配信。

こんにちは。大阪大学21世紀懐徳堂です。
本日は、21世紀懐徳堂が主催する2つの講座と、みのおエフエムの放送番組
「まちのラジオ 大阪大学社会学部専攻」をご紹介します。

=====

大阪大学21世紀懐徳堂i-spot講座
「子育てしやすい住環境を考える」
講師：伊丹絵美子（大阪大学大学院工学研究科助教）
<https://21c-kakokudo.osaka-u.ac.jp/events/2020/8631>

あなたは、どのような住環境の中で子育てをしたいですか。生活の便利さ、
運動のしやすさ、公園・緑の多さ、教育環境、実家からの距離など、子育て
で何が住環境に望むことは増えます。また、子育ての安心には人とのつながり
も重要だと考えられていますが、住環境は人とのつながりにも貢献できるの
でしょうか。

この講座では、子育て世帯の住環境選定やママ友ネットワーク形成等に關
する研究成果を交えて、子育てしやすい住環境について考えたいと思います。

日時：2020年1月29日（水）19:00～20:30
会場：大阪市まちづくり情報発信施設「アイ・スポット」
（地下鉄御堂筋線 淀屋橋駅10番出口直結 淀屋橋odona 2階）
<https://mijai-shoppe.no-nark.com/odona/2nd/Facces>
定員：30名 受講料：無料

申込み：①講座名 ②受講者ご本人のお名前 ③年齢 ④電話番号を、
下記メールアドレスまでお送りください。
申込締切：1月20日（月）
申込み・問合せ先：大阪市まちづくり情報発信施設「アイ・スポット」
（Mail: lspt@voice.ocn.ne.jp）

主催：大阪大学21世紀懐徳堂、大阪市都市計画局

=====

Handai-Asahi中之島塾
「大阪府はらばら講座—「知らんけど」の秘密」
講師：金水敏（大阪大学大学院文学研究科教授）
<https://21c-kakokudo.osaka-u.ac.jp/events/2020/8577>

大阪人・関西人の話し方には、単に大阪弁・関西弁を話すという以上に、独
特の話し方の特徴というべきものがあります。例えば、オノマトペの多用、
「ばけ」「つっこみ」の応酬、「落ち」への強い執着、よく知らないことでも
喋ってしまい、とりえず「知らんけど」と言い添える癖など、日本国内
の他地域と比較しても、きわめて特異といえるような言語文化や、そこ
に通底する大阪人・関西人のコミュニケーション哲学は、いったいどのよう
に形成されたのでしょうか。

日時：2020年1月25日（土）10:30～12:00
会場：大阪大学中之島センター
<https://www.osaka-u.ac.jp/other/imap/index.php>
受講料：1,650円
申込先：朝日カルチャーセンター
https://www.asahiculture.jp/page/nakanoshima/univ_alliance

eHandai-Asahi中之島塾について、詳しくはこちら！
<https://21c-kakokudo.osaka-u.ac.jp/handai-asahi/>

メールマガジンの例

成果

メールマガジンの登録者数は、昨年度末の 2,805 名から 2,858 名になった。年々、他部局からの協力依頼申請の増加により配信回数が増加していたが、メールマガジン登録者により適切なタイミング・情報量で大学の活動情報を配信できるよう運用ルールの見直しを行い、複数のイベントについてまとめて配信し、全体的な配信頻度を昨年度までの週 2-3 回から週 1 回程度に変更した。

メールマガジンは、チラシ配架や HP への掲載と異なり、個人に対して直接情報を届けることができるため、イベント参加者数の増加に確実に繋げることができる強力なツールである。学内の社学共創活動支援利用者からは多くの登録者に向けて情報発信でき、参加申込など広報の成果が確実に出るツールとして利用を希望する声も多い。今後も魅力的な情報を配信するツールとして利用者・登録者双方に向け認知度を高めていきたい。

大阪大学 21 世紀懷徳堂メールマガジン一覧（2019 年 4 月～9 月発行分） ★は他支援学部等の主催事業

No.	送信日	告知内容
1	4 月 3 日（水）	★大阪大学大学院連合小児発達学研究所 市民公開講座
2	4 月 10 日（水）	★大阪大学大学院理学研究科公開講座「サイエンスナイト 2019」 ・みのおエフエム まちのラジオ「大阪大学社会学連携事業」
3	4 月 17 日（水）	★大阪大学 いちょう祭
4	4 月 24 日（水）	★身近なホールのクラシック 中欧音楽夜話～オーケストラの現在～
5	5 月 8 日（水）	・みのおエフエム まちのラジオ「大阪大学社会学連携事業」
6	5 月 15 日（水）	・Handai-Asahi 中之島塾「怖い動脈硬化にならないためには？—脂質異常症とメタボを治そう！」
7	5 月 22 日（水）	★シベリウスとフィンランドの言語の多様性—合唱団のためのスウェーデン語発音講座— ★Society 5.0 社会に向けた健康×スポーツへのアプローチ
8	5 月 29 日（水）	・Handai-Asahi 中之島塾「生き方死に方と在宅医療を考える」 ・Handai-Asahi 中之島塾「「死後の世界」と東西文化の交流—日本の冥界観はどこから来たのか？—」
9	6 月 5 日（水）	★【受講生募集中！】「微しの上を鳥が飛ぶ—文学研究科におけるアート・プラクシス人材育成プログラム」
10	6 月 12 日（水）	・Handai-Asahi 中之島塾「古代語の謎を解く」 ★大阪大学出版会 出版記念イベント「分断社会と若者の今」 ・みのおエフエム まちのラジオ「大阪大学社会学連携事業」
11	6 月 19 日（水）	・Handai-Asahi 中之島塾「腸内フローラの話：微生物と共に生きる人生を知ろう」 ・大阪大学社会学共創連続セミナー 第 6 回「ソーシャルビジネスと大学」 ★現代インド監督ナンディダ・ダースさんを迎えての映画上映会 ★夏休みおもしろ理科実験 大阪大学大学院工学研究科技術部社会貢献プログラム「風の力を利用しよう！」 ★大阪大学理学部化学科 一日体験入学 ひらめき☆ときめきサイエンス「ミクロの分子を観て、触って、操ってみよう」
12	6 月 26 日（水）	★第 40 回大阪大学なつまつり ★市民参加型ワークショップ@梅田 新しい医療と、くらし～再生医療のあるべき未来像～ ★第 5 回流しそうめん@阪大坂（竹取り@待兼山） ★夢・化学—21 化学への招待—大阪大学工学部一日体験化学教室
13	7 月 3 日（水）	・大阪大学 21 世紀懷徳堂 i-spot 講座「箱庭フィギュアで我が家の「食」を考えよう」 ・大阪大学×大阪ガス「アカデミックッキング」vol.68 ★大阪大学基礎工学部 第 41 回公開講座
14	7 月 10 日（水）	・大阪大学 21 世紀懷徳堂 i-spot 講座「やっていいマネ、悪いマネ」 ★産研ものづくり教室 2019「電子回路で発電防災グッズを作ろう！」 ★高校生のための分子生物学実習「ジャイアントインパクト」 ・みのおエフエム まちのラジオ「大阪大学社会学連携事業」
15	7 月 17 日（水）	★まちかね ta 公演 at 大阪大学 ★高校生のための公開講座「分岐過程の絶滅問題」 ★あつまれ！未来のはかせシリーズ「サル顔を覚えられかな？」
16	7 月 24 日（水）	★社会経済研究所・第 16 回行動経済学研究センターシンポジウム ・大阪大学 21 世紀懷徳堂 i-spot 講座「箱庭フィギュアで我が家の「食」を考えよう」
17	7 月 31 日（水）	★森村泰昌氏（美術家）「関西は今」特別講義 ・大阪大学 21 世紀懷徳堂 i-spot 講座「やっていいマネ、悪いマネ」
18	8 月 8 日（木）	・Handai-Asahi 中之島塾「めまいと難聴の仕組みと原因～内耳疾患の最新治療について」 ・みのおエフエム まちのラジオ「大阪大学社会学連携事業」
19	8 月 21 日（水）	★大阪大学リサーチクラウドカフェ
20	8 月 30 日（金）	・Handai-Asahi 中之島塾「温暖化と私たち—社会科学の視点から—」 ・2019 年度秋期 大阪・京都文化講座「大阪・京都＜偉人伝＞—近世・近代編—」
21	9 月 4 日（水）	★文部科学省新学術領域研究 2019 年度市民公開シンポジウム ★ラボカフェスペシャル featuring クリエイティブ・アイランド・ラボ中之島&鉄道芸術祭「社会と表現の相互作用—フィンランド近現代史と陶芸—」

3.広報・情報発信 > 3-3. 大阪大学 21 世紀懐徳堂メールマガジン

大阪大学 21 世紀懐徳堂メールマガジン一覧（2019 年 9 月～2020 年 1 月発行分） ★は他支援学部等の主催事業

No.	送信日	告知内容
22	9 月 11 日（水）	★Robo café—ロボットが人間に教えてくれること— ・みのおエフエム まちのラジオ「大阪大学社会学連携事業」
23	9 月 18 日（水）	・第 22 回植物探検隊@秋の待兼山を訪ねて ・Handai-Asahi 中之島塾「温暖化と私たち—社会科学の視点から—」（再掲載）
24	9 月 25 日（水）	★Consemi 2019 Work Life Balance セミナー
25	10 月 2 日（水）	★サイエンスカフェ・オンザエッジ@ラボカフェ ★第 17 回市民フォーラム「人生 100 年時代を支える健口のために」
26	10 月 9 日（水）	★令和元年度大阪大学司馬遼太郎記念学術講演会 ・Handai-Asahi 中之島塾「日本の伝統文化、能狂言に親しむ」 ・大阪大学×大阪ガス「アカデミックッキング」vol.70 ・みのおエフエム まちのラジオ「大阪大学社会学連携事業」
27	10 月 16 日（水）	★大阪大学社会学共創セミナー 第 7 回「貧困の連鎖を断ち切る」・第 8 回「多文化共創社会の実現に向けた課題」・第 9 回「歴史・文化資源のポテンシャル 文化財保全のオプションとしてのクラウドファンディング」
28	10 月 23 日（水）	★第 2 回女性科学者サミット@阪大豊中 ★一般財団法人懐徳堂記念回 第 138 回秋季講座
29	10 月 30 日（水）	★下町物語プロジェクト 2016-2019」本説 森村泰昌 野生「能」2019：火魔我蹉鬼、洲波羅、富久破裸 — KAMAGASAKI SUHARA FUKUHARA— ★第 35 回湯川記念講演会 ★総合学術博物館第 13 回特別展佐治敏三「百面相」 スペシャルトーク+ワークショップ（試飲有）
30	11 月 1 日（金）	・Handai-Asahi 中之島塾「長期志向・短期志向の違いから見る貿易戦争」 ・ラボカフェスペシャル featuring 鉄道芸術祭「カタコト、空耳、デタラメの歌謡史」 ・ラボカフェスペシャル featuring 鉄道芸術祭「外国人と日本人がともに輝ける社会のために」
31	11 月 6 日（水）	★ふたごフェスティバル 2019 ★第 8 回大阪大学 COI シンポジウム
32	11 月 8 日（金）	・Handai-Asahi 中之島塾「認知症医療の過去、現在、未来」 ・Handai-Asahi 中之島塾「ミャンマーのいまを歴史的に考える ～アウンサンスーチーとロヒンギャ問題」 ・Handai-Asahi 中之島塾「臓器移植はなぜ社会の問題となるのか？：医療人類学の考え方」 ・Handai-Asahi 中之島塾「長期志向・短期志向の違いから見る貿易戦争」（再掲載）
33	11 月 13 日（水）	★2019 年度全国ダイバーシティネットワーク組織近畿ブロックシンポジウム ・みのおエフエム まちのラジオ「大阪大学社会学連携事業」
34	11 月 15 日（金）	・Science café @大阪大学歯学部附属病院 vol.10「お口の中のがんの話」 ・Science café @大阪大学歯学部附属病院 vol.11「好き嫌いの理由は科学で分かるのか？」
35	11 月 20 日（水）	★ノンフィクション作家高野秀行氏講演会「言語オタクのちょっとクレイジーな探検生活」 ★ダイバーシティを育む組織文化とリーダーシップ
36	11 月 27 日（水）	★ソーシャル・スマートデンタルホスピタル（S2DH）シンポジウム（第 3 回） ★第 4 回 大阪大学豊中地区研究交流会
37	12 月 4 日（水）	★サイエンスカフェ・オンザエッジ@大阪大学医学部中之島祭 ・Science café @大阪大学歯学部附属病院 vol.11「好き嫌いの理由は科学で分かるのか？」（再掲載）
38	12 月 11 日（水）	・みのおエフエム まちのラジオ「大阪大学社会学連携事業」
39	12 月 18 日（水）	★「感染症・免疫の虎の巻ウェブサイト」制作のためクラウドファンディングを開始
40	12 月 25 日（水）	★第 14 回あびす男選び@阪大坂
41	1 月 9 日（木）	・大阪大学 21 世紀懐徳堂 spot 講座「子育てしやすい住環境を考える」 ・Handai-Asahi 中之島塾「大阪弁ばちばち講座—「知らんけど」の秘密」 ・みのおエフエム まちのラジオ「大阪大学社会学連携事業」
42	1 月 15 日（水）	・Handai-Asahi 中之島塾「老年行動学からみた認知症」 ★未来医療フォーラム～大阪大学医学部附属病院の取り組み～
43	1 月 22 日（水）	★大阪大学社会学共創連続セミナー第 10 回「女性のリーダーシップと多様性がもたらすイノベーション」 ★箕面市との連携協力講座～阪大生たちが見た『生きた学び』～

大阪大学 21 世紀懐徳堂メールマガジナー覧（2020 年 1 月～2020 年 3 月発行分） ★は他支援学部等の主催事業

No.	送信日	告知内容
44	1 月 29 日（水）	・大阪大学 21 世紀懐徳堂 i-spot 講座「アーカイブズってなに？」 ・Handai-Asahi 中之島塾「老年行動学からみた認知症」「うつの人を支える人のために」
45	2 月 5 日（水）	★大阪大学シンポジウム（ELSI センター創立記念シンポジウム）
46	2 月 10 日（月）	・Handai-Asahi 中之島塾「日本人の肥満・メタボ研究と医療、30 年」 ・みのおエフエム まちのラジオ「大阪大学社会学連携事業」
47	2 月 12 日（水）	★第 2 回 SSI シンポジウム「命への責任—新しい企業像を求めて—」
48	3 月 4 日（水）	【開催延期のお知らせ】大阪大学シンポジウム
49	3 月 11 日（水）	・みのおエフエム まちのラジオ「大阪大学社会学連携事業」

3-4. 大阪大学 21 世紀懷徳堂ホームページ

社会に開かれた大学として、本学の各学部・研究科、附置研究所、センター、附属病院、総合学術博物館などが主催するイベント、公開講座など多彩な社会学共創事業（講演会、講座、シンポジウム、ワークショップ、サイエンスカフェなど）の開催情報を集約し、広く発信するポータルサイト“情報の玄関口”として開設している。この開催情報のほか、本学の社会学共創事業関連ニュースや 21 世紀懷徳堂の主催事業、学内向けの社会学共創・アウトリーチ活動支援を案内するページも設けている。

（田中 綾）

	2019 年度		2018 年度	
	全体	月平均	全体	月平均
訪問数	79,898	6,658	80,311	6,693
ユーザー数	52,305	4,359	48,666	4,056
ページビュー数	260,758	21,730	265,281	22,107

2018 年度：2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日

2019 年度：2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日

[サイトマップ]

- ・ ホーム
- ・ イベント情報
 - ー開催中／これからイベント
 - ー終了したイベント
 - ーカテゴリ別 文化・芸術／語学／医療・健康／科学・技術／社会・政治・経済・法律／教育・学校／スポーツ／その他
- ・ ニュース
- ・ 21 世紀懷徳堂とは
- ・ 学内の方へ
- ・ アクセスマップ
- ・ 大阪大学公式サイト
- ・ このサイトについて
- ・ サイトマップ
- ・ サイトご利用にあたって
- ・ 個人情報保護方針
- ・ お問い合わせ



スマートフォン表示

成果

訪問者数・ページビューが微減のところ、ユーザー数が 7%増となった。さらに新規ユーザー数が 86%を占めており、本学の認知を広げる役割を果たしていると言える。

ホームページを通じたメールマガジンの購読数が継続して伸びており、メールマガジン配信後のイベント申し込みも伸びているので、大阪大学の様々なイベントを主とした情報を伝えるハブの役割を果たしていると考え。

イベント情報を含めた社会学共創のさまざまな取り組みを今後も積極的にアップしていくとともに、引き続き情報の

内容や見やすさを重視しながら訪問者の視線を意識したページ作りをしていきたい。

学内向けの情報提供について、アウトリーチ支援や協力依頼申請の案内を集約したメニューを設置した。利用者の声も得ながら引き続きさらなる利便性向上を図りたい。

これまでの継続的な取り組みによる成果により、メールマガジンを含めて本学の広報として重要な位置を占めていると考える。今後も積極的な発信とともにコミュニケーションのきっかけとなるようなページにしていきたい。

■イベント情報

21世紀懐徳堂ホームページでは、大阪大学の学部・研究科や研究所、センター等が実施している様々な催しのうち、一般市民の方を対象に含むイベントを公開している。

各イベントは、カテゴリーやキーワードで検索できるほか、カレンダーで日時指定し絞り込むなど多数の検索手段を用意している。

2019年度に公開したイベント情報は270件であった。

■ニュース

ニュース記事は、2019年度に24件掲載した。

定例のニュースでは、みのおエフエムでの大阪大学社会学連携事業番組（ラジオ放送）の告知や「21世紀懐徳堂だより」発行のお知らせ（PDFダウンロード可能）などを掲載した。また、その他の取り組みとして、21世紀懐徳堂の学生スタッフ（コラボレーションアシスタント）が主に執筆する「イベントレポート」や、フリーペーパー「待兼山 PRESS」の発行なども掲載している。

■その他

2018年度末頃から2019年度にかけて準備したホームページシステムのバージョンアップを完了し、セキュリティ強化を含めたシステムの更新を行った。同時にモバイル対応や関連イベント表示などの機能性の強化、学内向け支援コンテンツの集約による利便性向上も実現した。

The screenshot displays the homepage of the 21st Century Haidetokudo. The header includes navigation tabs for Home, Events, News, and 21st Century Haidetokudo. A featured event section highlights the 'Handai-Asahi' symposium. Below this, a list of upcoming events is shown with details on dates, times, and locations. A sidebar on the right contains a calendar, a list of featured news items, and a section for event reports. The footer provides contact information for the 21st Century Haidetokudo and links to related websites.

■イベント情報更新の内訳(2019.4.1～2020.3.31)

名称	主なイベント	件数
文学部・文学研究科	トークイベント、ワークショップ等	5
人間科学部・人間科学研究科	シンポジウム	1
外国語学部	セミナー、マンスリー多文化サロン	14
法学部・法学研究科	シンポジウム	1
経済学部・経済学研究科	流しそうめん	1
理学部・理学研究科	高校生のための公開講座、サイエンスカフェ、一日体験入学、公開講座、南部コロキウム	7
医学部・医学系研究科	シンポジウム、セミナー	3
医学部/医学系研究科保健学科	公開講座	1
医学系研究科 ツインリサーチセンター	ふたごフェスティバル	1
医学部附属病院	市民公開フォーラム、見学会	2
歯学部・歯学研究科・歯学部附属病院	市民フォーラム	1
工学部・工学研究科	シンポジウム、セミナー、夏休みおもしろ理科実験等	7
基礎工学部・基礎工学研究科	公開講座、一日体験入学等	3
言語文化研究科	セミナー、公開講座等	7
国際公共政策研究科	講演会、公開講座等	3
生命機能研究科	春の学校	1
微生物病研究所	高校生のための Summer School、ラボカフェ	2
産業科学研究所	研究所公開、ものづくり教室、テクノサロン等	5
蛋白質研究所	公開講座等	1
社会経済研究所	シンポジウム	1
接合科学研究所	ラボカフェ	2
総合学術博物館	サイエンスカフェ@待兼山、展覧会	2
サイバーメディアセンター	公開講座	1
免疫学フロンティア研究センター	サイエンスカフェ	2
データビリティフロンティア機構	シンポジウム	1
全学教育推進機構	特別講義	1
マルチリンガル教育センター	ワークショップ	1
男女協働推進センター	シンポジウム	2
社会ソリューションイニシアティブ	シンポジウム	1
COデザインセンター	セミナー、サイエンスカフェ、研究会等	46
適塾記念センター	適塾講座、適塾記念講演会	2
共創機構社会学共創本部	セミナー等	11
センター・オブ・イノベーション研究推進機構	シンポジウム	1
21 世紀懐徳堂	大阪大学公開講座、Handai-Asahi 中之島塾、植物探検隊、大阪・京都文化講座、i-spot 講座、アカデミックッキング等	44
学内その他（学生団体含む）	シンポジウム、サイエンスカフェ等	22
懐徳堂記念会	公開講座	4
アートエリア B1	ラボカフェ	50
学外	シンポジウム、講演会、セミナー、講座等	10
計		270

3-5. 学外媒体掲載実績（新聞、タウン誌、WEB など）

21 世紀懐徳堂の活動の告知や開催報告について、次の内容で掲載された。

（肥後 楽）

■新聞			
朝日新聞	2019 年 6 月 14 日	Handai-Asahi 中之島塾「腸内フローラの話」「古代語の謎を解く」「温暖化と私たち～社会科学の視点から」「外国語として学ぶ日本語の面白さとむずかしさ～日本語教育の現場から」	告知
	2019 年 6 月 16 日	Handai-Asahi 中之島塾「腸内フローラの話～微生物とともに生きる人生を知ろう」	告知
	2019 年 7 月 26 日	Handai-Asahi 中之島塾「めまいと難聴の仕組みと原因」「外国語として学ぶ日本語の面白さとむずかしさ」	告知
	2019 年 8 月 14 日	Handai-Asahi 中之島塾「外国語として学ぶ日本語の面白さとむずかしさ」	告知
	2019 年 9 月 10 日	Handai-Asahi 中之島塾「温暖化と私たち」	告知
	2019 年 9 月 13 日	Handai-Asahi 中之島塾「日本の伝統文化 能狂言に親しむ」「長期志向・短期志向の違いから見る貿易戦争」「認知症医療の過去・現在・未来」	取材記事
	2019 年 10 月 25 日	Handai-Asahi 中之島塾「ミャンマーのいまを歴史的に考える～アウンサンスーチーとロヒンギャ問題」「臓器移植はなぜ社会の問題となるのか？」	取材記事
産経新聞	2019 年 6 月 14 日	大阪大学 21 世紀懐徳堂 i-spot 講座「やっていいマネ・悪いマネ」	告知
	2019 年 10 月 24 日	大阪大学×ナレッジキャピタル「あたりまえをゆさぶる、新しい問いを立てよ」「令和」の時代の“天寿”を考える」「新しい価値を生む方法論としての Foresight Creation」	取材記事
デジタル毎日	2019 年 12 月 4 日	都市の脈動、現代の目で 国内外 3 作家「鉄道芸術祭」	取材記事
■雑誌			
美術手帖	2019 年 11 月 12 日	今年の鉄道芸術祭は「都市と身体の関係性」がテーマ。国内外から 3 名のアーティストが参加	告知
■TV			
ケーブルテレビ	2019 年 8 月 9 日	大阪大学 21 世紀懐徳堂 i-spot 講座「実験！台所で火山大爆発」	取材
ケーブルテレビ	2020 年 2 月 4 日	大阪大学 21 世紀懐徳堂 i-spot 講座「適塾のお引越しい近世大坂の町屋の所有と身分」	告知

3.公開講座・催しの実施 > 3-5. 学外媒体掲載実績

■タウン情報紙、ミニコミ			
島民	2019 年春号	ナカノシマニア ラボカフェスペシャル featuring クリエイティブ・アイランド・ラボ 中之島 09「中之島文化ネットワークを考えるラウンドテーブル」	取材記事
瓦版や	2019 年 5 月号	Handai-Asahi 中之島塾「怖い動脈硬化にならないためには」「死後の世界と東西文化の交流～日本の冥界観はどこからきたのか？」「古代語の謎をとく」	告知
	2019 年 6 月号	Handai-Asahi 中之島塾「生き方死に方と在宅医療を考える」「死後の世界と東西文化の交流～日本の冥界観はどこからきたのか？」「古代語の謎を解く」	告知
	2019 年 7 月号	Handai-Asahi 中之島塾「腸内フローラの話」	告知
	2019 年 8 月号	Handai-Asahi 中之島塾「めまいと難聴の仕組みと原因」「古代語の謎を解く」	告知
	2019 年 9 月号	大阪大学×大阪ガス「アカデミックキング」からだのなかの金属のはたらき Handai-Asahi 中之島塾「めまいと難聴の仕組みと原因」「外国語として学ぶ日本語の面白さとむずかしさ」「温暖化と私たち～社会科学の視点から～」	告知
	2019 年 10 月号	大阪大学×大阪ガス「アカデミックキング」国際スーパーフード学術機構の理事長がおとどけるスーパーフードの基礎講座！	告知
	2019 年 12 月号	Handai-Asahi 中之島塾「ミャンマーのいまを歴史的に考える」「臓器移植はなぜ社会の問題となるのか？～医療人類学の考え方」	告知
大阪大学 POST	2019 年 3・4 月号	大阪大学 21 世紀懐徳堂 i-spot 講座「ゆりかごから『古墳』まで～古墳時代人のくらし～」	取材記事
梅田経済新聞	2020 年 2 月 28 日	京阪・なにわ橋駅で大阪の都市形成振り返る展示企画「ビルダーズ」	取材記事
■自治体広報誌			
吹田生涯学習情報 「学びの情報」	2019 年 4 月～7 月号	Handai-Asahi 中之島塾「「かわいい」の科学—実験心理学で探る心の世界—」「元気に立って歩く—脳と身体による制御の仕組み—」「なぜ紛争は続くのか—中東と平和問題から考える—」「古代語の謎を解く」、2019 年度春期大阪・京都文化講座（全 8 講座）	告知
	2019 年 8 月～11 月号	Handai-Asahi 中之島塾「めまいと難聴の仕組みと原因」、「古代語の謎を解く」、「温暖化と私たち—社会科学の視点から—」、「外国語として学ぶ日本語の面白さとむずかしさ」、大阪大学 21 世紀懐徳堂 i-spot 講座「なぜ、医師が大阪の「空を飛ぶ」のか」、「空と航空機と軍事の世界」、「イラン文化の背景をさぐる」、「オーストリア—多民族国家ハプスブルクの残影」	告知
	2019 年 12 月～2020 年 3 月号	Handai-Asahi 中之島塾「ミャンマーのいまを歴史的に考える」、「臓器移植はなぜ社会の問題となるのか？：医療人類学の考え方」	告知
みのお FM「まちの情報箱」	2019 年 4 月号～ 2020 年 3 月号	(4 月号) Handai-Asahi 中之島塾 1 講座、(6 月号) 令和元年適塾特別展示「北船場地域と適塾・除痘館」、(7 月号) 大阪大学 21 世紀懐徳堂 i-spot 講座 1 講座、(8 月号) 大阪大学 21 世紀懐徳堂 i-spot 講座 1 講座、(12 月号) Handai-Asahi 中之島塾 1 講座、(1 月号) 大阪大学 21 世紀懐徳堂 i-spot 講座 1 講座、(2 月号) 大阪大学 21 世紀懐徳堂 i-spot 講座 1 講座、(3 月号) Handai-Asahi 中之島塾 1 講座	告知

■WEB			
大阪市ホームページ	2019年8月	シンポジウム「社会と表現の相互作用—フィンランド近現代史と陶芸」の開催のご案内	告知
	2019年12月	大阪大学 21世紀懐徳堂 i-spot 講座「大学を社会に拓く」(3講座)、「これからの人とまちを考える」(3講座)	告知
JS 日本の学校	2019年6月14日	大阪大学 21世紀懐徳堂講座 i-spot 講座 (小学生対象 3講座)	告知
	2019年6月14日	大阪大学×大阪ガス「アカデミックキング」vol.68	告知
ほとんど0円大学	2019年5月7日	大阪大学×大阪ガス「アカデミックキング」で学ぶ熟年夫婦クライシス回避法	取材記事
	2019年9月3日	大阪大学総合学術博物館「四國五郎展〜シベリアからヒロシマへ〜」から伝わるメッセージ	取材記事
NAKANOSHIMA-STYLE.COM	2019年10月	中之島夜会@国立国際美術館×アートエリア B1「コレクション特集展示 ジャコメッティと II」と「鉄道芸術祭 vol.9 都市の身体」を巡る夜	告知
livedoornews	2019年10月1日	岡田利規が選出したテキストを青柳いづみ、七尾旅人、YPY が紡ぐ電車公演	告知
ステージナタリー	2019年10月1日	岡田利規が選出したテキストを青柳いづみ、七尾旅人、YPY が紡ぐ電車公演	告知
PaperC	2019年10月10日	アートエリア B1にて、鉄道芸術祭 vol.9「都市の身体 〜外から眺める私たちの輪郭、遠くから聞こえてくる私の声〜」開催	告知
PR TIMES	2019年10月24日	ナレッジキャピタル超学校 大阪大学 × ナレッジキャピタル「あたりまえをゆさぶる、新しい問いを立てよ。」	告知
CNETJapan	2019年10月24日	ナレッジキャピタル超学校 大阪大学 × ナレッジキャピタル「あたりまえをゆさぶる、新しい問いを立てよ。」	告知
Excite ニュース	2019年10月24日	ナレッジキャピタル超学校 大阪大学 × ナレッジキャピタル「あたりまえをゆさぶる、新しい問いを立てよ。」	告知
JJJI.COM	2019年10月24日	ナレッジキャピタル超学校 大阪大学 × ナレッジキャピタル「あたりまえをゆさぶる、新しい問いを立てよ。」	告知
Haconiwa	2019年10月25日	今週末行きたいイベント 12選 in 関西 10月26日(土)〜11月4日(月・振休) (鉄道芸術祭 vol.9 都市の身体 〜外から眺める私たちの輪郭、遠くから聞こえてくる私の声〜)	告知
大阪中心	2019年11月	鉄道芸術祭 vol.9 関連トーク「外国人と日本人がともに輝ける社会のために」 (他1件)	告知
ぴあ いま、最高の一本に出会える	2019年11月2日	「都市の身体 〜外から眺める私たちの輪郭、遠くから聞こえてくる私の声〜」	告知
デイリー	2019年11月3日	京阪電車の駅構内で、都市をテーマにした現代アートの展覧会	取材記事
YAHOO! JAPAN ニュース	2019年11月12日	今年の鉄道芸術祭は「都市と身体の関係性」がテーマ。国内外から3名のアーティストが参加 (他1件)	告知
Lmaga.jp	2019年11月13日	京阪電車の駅構内で、都市と鉄道のアート	取材記事
ARTLOGE	2020年1月29日	大大阪から高度成長期まで一映像で辿る大阪の都市の記憶 ビルダーズ：工事記録にみる都市再考	取材記事
まいどなニュース	2020年3月9日	高熱のねじを空中でキャッチ！昭和のとび職人は半端ない ビルや地下鉄の工事で活躍「ビルダーズ」映像公開	取材記事

3-6. 学内媒体掲載実績

21 世紀懐徳堂の活動の告知や開催報告について、学内の媒体に次の内容で掲載された。 (沢村 有生)

■大阪大学 NewsLetter	
2019 年 9 月 (No.81)	「共創 DAY@EXPOCITY」11 月 30 日にブース展開 (告知)
2020 年 2 月 (No.82)	いま必要な“知”をみなさんと考えます 大阪大学シンポジウム (告知)
■マイハンダイ	
2020 年 1 月 23 日	役員室だより 大阪大学シンポジウムを 3 月 9 日・10 日に連日開催します！
2020 年 2 月 28 日	役員室だより 大阪大学シンポジウムの開催を延期します
■ 大阪大学ホームページ	
2019 年 12 月 27 日	<ELSI センター>設立記念シンポジウム (大阪大学シンポジウム) (告知)
2020 年 1 月 16 日	大阪大学オープンイノベーション機構発足記念シンポジウム (大阪大学シンポジウム) (告知)
2018 年 4 月～2019 年 3 月	21 世紀懐徳堂の公開講座、催事のすべての告知 (セミナー/シンポジウム情報)
2018 年 4 月 ～2019 年 3 月	トップページ「大阪大学公開教室 (一般の方を対象とした講座・セミナーなど)」 大阪大学シンポジウム、大阪大学公開講座、Handai-Asahi 中之島塾、大阪大学×大阪ガスアカデミックッキング、大阪大学 21 世紀懐徳堂 i-spot 講座、大阪・京都文化講座、植物探検隊、ラボカフェの紹介
■ 全学ディスプレイシステム『O+PUS』	
2019 年 4 月～2020 年 3 月	みのお FM 「まちのラジオ 大阪大学社学連携」(12 回) (告知)
2019 年 7 月 16 日	大阪大学 21 世紀懐徳堂 i-spot 講座「箱庭フィギュアで我が家の「食」を考えよう」
■ 大阪大学 twitter・Facebook	
2019 年 4 月～2020 年 3 月	21 世紀懐徳堂の公開講座、催事のすべての告知
2020 年 1 月 16 日	大阪大学オープンイノベーション機構発足記念シンポジウム (告知)
2019 年 12 月 27 日	<ELSI センター>設立記念シンポジウム—AIネットワーク社会の共創に向けた倫理・法・社会— (告知)
2019 年 11 月 12 日	日経グローバル「大学の地域貢献度調査 2019」で阪大は総合ランキング第 2 位
■ 大阪大学共創機構 Facebook twitter	
2019 年 4 月 11 日	シンポジウム「都市防災備災の現状と展望 サイエンスアゴラ in 大阪」(報告)
2019 年 5 月 22 日	プロジェクト・ミーティング「中之島まつり」というシビックプライド (告知)
2019 年 6 月 6 日	プロジェクト・ミーティング「これからの自然科学・博物館と市民」(告知)
2019 年 7 月 8 日	大阪大学 21 世紀懐徳堂 i-spot 講座「箱庭フィギュアで我が家の「食」を考えよう」
2019 年 9 月 25 日～	2019 大阪大学共創 DAY@EXPOCITY (告知)
2019 年 12 月 2 日～	2019 大阪大学共創 DAY@EXPOCITY (報告)

■ 大阪大学共創機構ホームページ	
2019年4月15日	「サイエンスアゴラ in 大阪／シンポジウム 都市防災の現状と展望～産官学ネットワークの共創に向けて～」を開催しました（報告）
2019年12月4日	「大阪大学共創 DAY@EXPOCITY」を開催しました
2019年6月3日	アートエリア B1 ラボカフェ：プロジェクトミーティング「これからの自然科学博物館と市民」
2019年5月7日	はんだいラボ@EXPOCITY Lab 第8回
2019年5月7日	はんだいラボ@EXPOCITY Lab 第9回
2019年7月8日	大阪大学 21 世紀懐徳堂 i-spot 講座「箱庭フィギュアで我が家の「食」を考えよう
2019年10月8日	社会学共創連続セミナー第7回 「貧困の連鎖を断ち切る」
2019年10月8日	社会学共創連続セミナー第8回「多文化共創社会の実現に向けた課題」
2020年1月28日	社会学共創連続セミナー第10回 「女性のリーダーシップと多様性」
■ 中之島キャンパス通信	
2019年4月17日号	Handai-Asahi 中之島塾（告知）
2019年5月15日号	Handai-Asahi 中之島塾（告知）
2018年6月19日号	Handai-Asahi 中之島塾（告知）
2018年7月17日号	Handai-Asahi 中之島塾（告知）
2019年8月21日号	Handai-Asahi 中之島塾（告知）
2018年9月18日号	第51回大阪大学公開講座、Handai-Asahi 中之島塾（告知）
2018年10月16日号	第51回大阪大学公開講座、Handai-Asahi 中之島塾、鉄道芸術祭 vol.9（告知）
2019年11月20日号	第51回大阪大学公開講座、Handai-Asahi 中之島塾（告知）
2019年12月18日号	Handai-Asahi 中之島塾（告知）
2020年1月15日号	Handai-Asahi 中之島塾（告知）
2020年2月19日号	Handai-Asahi 中之島塾（告知）
■ 大阪大学 卒業生メールマガジン OUMail News	
2019年7月9日 vol.81	大阪大学 21 世紀懐徳堂 i-spot 講座「箱庭フィギュアで我が家の「食」を考えよう」（告知） アカデミックッキング vol.68「ようこそ！タンパク質ワンダーランド」（告知）
2019年8月6日 vol.82	アカデミックッキング vol.89「からだのなかの金属（超微量だけど!!）のはたらき」（告知）
2019年11月12日 vol.85	2019 大阪大学共創 DAY@EXPOCITY（告知）
2020年1月15日 Vol.87	Handai-Asahi 中之島塾「大阪弁ぼちぼち講座—「知らんけど」の秘密」（告知）
2020年2月14日 Vol.88	Handai-Asahi 中之島塾「豊臣秀吉と天皇」（告知）

3-7. プレスリリース

一般公開講座やイベントの開催情報を、広報課を通じて記者クラブに発信した。

(沢村 有生)

- ・対象／大阪科学・大学記者クラブ、その他
- ・発信時期／随時

発信日	事業名とリリースタイトル	プレスリリースによる掲載実績
2019年5月22日 ＜開講日＞ 6月9日(大阪会場) 6月29日(東京会場)	●フィンランド・日本外交関係樹立 100 周年を記念したレクチャーイベント ■シベリウスとフィンランドの言語の多様性 —合唱団のためのスウェーデン語発音講座 主催：大阪大学共創機構社会学共創本部異文化理解クラスター 共催：大阪大学 21 世紀懐徳堂 協力：(大阪会場) 豊中混声合唱団／(東京会場) 混声合唱団鈴優会 後援：全日本合唱連盟、フィンランド大使館	
2019年6月25日 ＜開講日＞ 8月9日	●大阪大学 ×大阪ガス「アカデミックキング」 ■vol.68「ようこそ！タンパク質ワンダーランド」 小学生と保護者対象／夏休み特別講座 主催：大阪大学 21 世紀懐徳堂、株式会社大阪ガス	
2019年10月24日 ＜開講日＞ 11月14日、20日	●ナレッジキャピタル超学校 大阪大学×ナレッジキャピタル 「あたりまえをゆさぶる、新しい問いを立てよ」 ■第 1 回「令和の時代の天寿を考える」久坂部羊 (大阪大学大学院医学系研究科招へい教授、小説家、医師) ■第 2 回「新しい価値を生む方法論としての Foresight Creation」松波晴人(大阪大学共創機構産学共創・渉外本部特任教授、大阪ガス行動観察研究所所長) 主催：大阪大学共創機構社会学共創本部 21 世紀懐徳堂、一般法人ナレッジキャピタル、株式会社 KMO ※一般社団法人ナレッジキャピタルから、PRTIMES 及び関係各機関にも同時に情報提供。	10月24日 CNET Japan (告知) 10月24日 Exite ニュース (告知) その他 web サイト多数

2019年8月7日 (配信数:321件) 2019年9月21日 (配信数:322件)	●鉄道芸術祭 vol.9「都市の身体～外から眺める私たちの輪郭、遠くから聞こえてくる私の声～」	2019/10/10「paperC」(告知) 2019/11/2「ぴあ いま、最高の一本に出会える」(告知) 2019/11/3「デイリー」(取材) 2019/11/3「L.maga.jp」(取材) 2019/11/12「美術手帖」(告知) 2019/12/4「デジタル毎日」(取材) *その他、ウェブでの告知記事
2020年1月21日 (配信数:168件)	●サーチプロジェクト Vol.7 「クリエイティブアイランド・ラボ 中之島」 ■1/24-3/22 アートエリア B1 展覧会+トーク 「ビルダーズ：工事記録にみる都市再考」	2020/1/29「ARTLOGE」(取材) 2020/2/28「梅田経済新聞」(取材) 2020/3/9「まいどなニュース」(取材) 2020/4/1「contemporary Art Now」(取材)

成果

5件の事業について情報をリリース発信した。受講生や参加者を募るためのみならず、大阪大学が取り組む社会連携事業自体を周知することができた。今年度はマスコミ媒体への掲載に至らなかったリリースがあった。

発信先が大阪科学・大学記者クラブであることから、研究成果ではなくイベント事業の告知は、担当紙面が異なり記事化はしづらいことが考えられる。社会面生活面の記者に届く発信先を広報課には開拓してもらいたい。

国立大学法人 大阪大学
〒565-0871 大阪府吹田市豊津寺1-8
TEL: 06-6870-5111
www.osaka-u.ac.jp

Press Release

2019年6月25日

大阪大学×大阪ガス「アカデミッキング」ようこそ！タンパク質ワンダーランド

【概要】
大阪大学 21 世紀構想館（※1）は、大阪ガス株式会社との共同企画で、大阪大学の研究をテーマにした講義と料理実習を通じて教養を深める講座シリーズ「アカデミッキング」を平成 22 年 10 月から、大阪ガススクッキングスクールで開催しています。
この講座は、大阪大学の研究者による医学・科学・文化・芸術等の専門の講義とともに、講義テーマにちなんだ調理料理の調理・試食を通じて、市民のみなさんに学問と料理に親しんでいただく企画です。ユニークな講義内容と参加者共通の関心テーマを介した会話に加え、料理実習の楽しさが支持され、開講以来、毎回定員を超える応募のある人気講座です。
第 68 回は、小学生とその保護者を対象とする夏休み特別講座を開催します。当該講座につきまして、事前に周知していただくとともに当日はぜひ取材をお願いいたしますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

大阪大学 × 大阪ガス「アカデミッキング」vol.68
ようこそ！タンパク質ワンダーランド【小学生と保護者対象／夏休み特別講座】

タンパク質に関して、栄養素としてのタンパク質（お肉やお魚）を思い浮かべませんでしたか？でも、それだけではなく、血液や汗、ホルモンや抗体・分解酵素などなど、私たちの体を動かしているもの全てに、タンパク質が深く関係しています。体を作っているのも、主にタンパク質と水です。植物の光合成や色合いの平たんとなるのだってタンパク質。この身近で不思議なモノ・「タンパク質」のほたらそと形について勉強しながら、おもしろくタンパク質を見てみましょう！

・日時／2019年8月9日（金）
午後の部＝10:00～13:00（10:00～11:00 講義、11:00～13:00 料理実習＋試食）
午後の部＝14:00～17:00（14:00～15:00 講義、15:00～17:00 料理実習＋試食）
・講師／栗橋 剛（大阪大学蛋白質研究所・教授）
・対象・定員／小学 4～6 年生とその保護者、各 30 名（保護者 1 人につき子どもは 2 人まで可）
・参加料／ワンダーゼンジン、ふわふわ卵のツカヌースープ、シェフウェアサイダーゼリー
・受講料／一人 1,600 円（税込）
・申込先／大阪ガススクッキングスクール定機
・申込期間／2019年6月25日～7月15日
WEB 申込は 6 月 25 日 00:00 時より ⇒ <https://www.osg-cookingschool.com>
電話受付は 7 月 9 日 11:00 時より ⇒ TEL.06-6205-4640（9:00～17:30 休校日は除く）
※抽選の上、当選者の方に申込締切日以降に際して案内を発送します。

【条件に関するお問合せ先】
大阪大学 共創機構社会共創本部 21 世紀構想館
担当 沢村 TEL.06-6850-6443 sawamura.21c@kaitokudo.osaka-u.ac.jp

国立大学法人 大阪大学
〒565-0871 大阪府吹田市豊津寺1-8
TEL: 06-6870-5111
www.osaka-u.ac.jp

Press Release

【令和元年 6 月】小学生と保護者対象夏休み特別講座

通常のアカデミッキングは、一般社会人対象で平日の開催ですが、今回は小学 4～6 年生とその保護者を対象とし、夏休み期間中の平日の午後と午後開催します。夏休みの自由研究におススメ！です

●タイトル「ようこそ！タンパク質ワンダーランド」
くりす・ハルシ / 1992 年大阪大学卒業、タンパク質の構造と機能の不思議に惹かれて、蛋白質化学・蛋白質工学の分野で 1997 年に博士（工学）の学位を取得する。2009 年 4 月から開講。現在は主に、次世代エネルギー源として光合成のしくみを使うための基礎研究をおこなっている。
●講義がインパクト大！大分県の一つのイメージが強いタンパク質だが、生物学者としての過程で、私たちの生命活動がダイナミックに変化する役割を果たしていることあまり知られていない。細胞内で様々な物質の輸送を担っているタンパク質分子モーター「ダイニン」の原子構造を、世界で初めて決定したことでも知られる栗橋 剛教授（大阪大学蛋白質研究所）が、私たちの身近で活躍するタンパク質の不思議を、その上と働きに注目し、小学生の理解に合わせた講義をする。
●調理料理「ワンダーゼンジン、ふわふわ卵のツカヌースープ、シェフウェアサイダーゼリー」
新で変化するタンパク質の性質、タンパク質由来のゼラチンとそれを分解する酵素に登場する酵素の働き、ゼラチンと多量糖の複合体を形成するタンパク質など、講義で学んだ作用を料理で体験する。献立は、栄養素としてのタンパク質もたっぷり！

アカデミッキングは 3 部構成
①講義
②調理
③試食

■大阪大学 × 大阪ガス「アカデミッキング」は、「食」や「料理」という身近な切り口から、学問的なものの見方・考え方を身につける教育講座です。専門的に職能を大学で研究するとも、どこかで習得した私たちの生活とつながっている。そんな楽しい実感から、日常生活にちよっと変化をもたらすアカデミッキングを思いついたのが、あたらしく、ガスから作れる料理から新たな学びのとりかえを模索してみませんか？

【お問い合わせ先】
大阪大学 21 世紀構想館とは
大阪大学 21 世紀構想館は、市民と大阪大学をつなぐ社会連携や社会貢献活動の窓口です。大阪大学の高度な研究と教養の成果、文化の資源を広く社会に還元し、また、学外からの要望を受け、大学のさまざまな活動に貢献できるコーディネート体制を構築しています。大阪大学の社会連携の情報を集約し広報するとともに、大阪大学の精神的資源のひとつである「開学」で築かれた歴史と伝統にある多くの思いの結晶を、公開講座、サマースクール、シンポジウムなどを企画・運営し、市民のみなさんと学生、教職員が思い、能動的に学び合う場づくりを展開しています。

●大阪大学×大阪ガス「アカデミッキング」のリリース

4-1.社会学共創事業支援メニューおよび支援実績の概要

21 世紀懐徳堂では、公開講座やイベントの主催、ホームページなどによる情報発信のほか、各学部等や研究者による社会学共創事業の支援、学外からの社会学共創に関する相談窓口など重要なミッションも担っている。さらにスタジオ・楽屋の会場提供や、各学部等からの一般の方を対象とした催事・企画に関する相談受け付け、WEB 掲載、チラシ発送・配架およびメールマガジン配信による広報支援等を行っている。

(田中 綾)

- ・対象／学内外の社会学共創に関する取り組み（会場提供に関しては授業も含む）
- ・支援申請方法／申請書類の提出

※「共催・協力・後援等依頼申請書」様式は 21 世紀懐徳堂 HP からダウンロード可能
HP トップ>学内の方へ（社会学連携事業支援の利用方法）

<https://21c-kaitokudo.osaka-u.ac.jp/forinternal>

《支援のイベント等例》



山崎正和名誉教授文化勲章受章記念フォーラム
(文学研究科)

大阪大学クラウドファンディング
「感染・免疫虎の巻和部サイト制作」
(微生物病研究所)



成果

広報支援等の希望に基づく名義申請は昨年度から若干減り 58 件であったが、依頼内容は変わらず広報支援が主であり、ホームページ掲載やチラシの学内配架・発送、メールマガジン配信の中から依頼元のニーズに応じて行い、認知向上や来場者の増加等に貢献した。過去に支援を行った学部等からの再依頼も多く、恒常的な支援ニーズがうかがえる。

また学内をはじめ、自治体やその関連機関など学外から案内送付されるポスター・チラシ等広報物（計 356 件/うち学外 193 件）の掲示・配架等により、広報に寄与した。

学外からの相談で多数を占める講師派遣相談について、公民館や高校をはじめとした機関等から寄せられ、半数を

超える案件において講師を紹介するに至った。

名義申請数の減少は各学部等での事業実施数や、各事業で支援を必要とする割合などとの関連があると考えられる。

講師派遣相談を含めて、来年度新しい体制で具体的にどのように行っていくかは現在検討中であるので、支援を行う際や報告書から受け取った感想や意見なども参考に、求められている支援内容を模索していきたい。あわせて手続き方法や進め方についても、初めて利用する方にも分かりやすく、スムーズかつ効率的に運用できるよう、これまでの蓄積を生かして適宜改善していきたい。

2019 年度支援実績概要（詳細は次ページ以降）

主催団体	名義 使用	HP 掲載、ポスター掲示、 チラシ配架・発送	メルマガ	その他
文学部・文学研究科	2	2	2	
外国語学部・言語文化研究科	5	4	4	
経済学部・経済学研究科	1	1	1	1
理学部・理学研究科	5	5	5	3
医学部・医学系研究科	1	1	1	
歯学部・歯学研究科・歯学部附属病院	2	2	2	1
医学部附属病院	2	2	1	
工学部・工学研究科	4	4	4	3
基礎工学部・基礎工学研究科	2	2	2	
微生物病研究所	2	2	2	
産業科学研究所	2	1	1	1
蛋白質研究所	1	1		1
社会経済研究所	1	1	1	
免疫学フロンティア研究センター	3	2	2	
全学教育推進機構	1	1	1	
男女協働推進センター	1			
社会ソリューションイニシアティブ	1	1	1	1
センター・オブ・イノベーション研究推進機構	1	1	1	
学内その他	8	7	7	1
学外	13	12	9	1
計	58	52	47	13

4. 学内外との連携による社会学連携事業推進 > 4-1. 社会学連携事業支援メニューおよび支援実績の概要

No	開催日	主催団体	事業名	名義	広報的支援		その他の支援
					HP掲載、ポスター掲示、チラシ配架・発送	メルマガ	
1	2019.4.18-2020.3.19	大阪大学外国語学部、みのお市民活動センター	阪大外国語学部×みのお市民活動センター「マンスリー多文化サロン」	協力	○	○	
2	2019.5.2-3	大阪大学	大阪大学いちょう祭	協力	○	○	
3	2019.5.31-6.28	公益財団法人箕面市メイプル文化財団	平成31年度生涯学習講座（春の講座）《身近なホルのクラシック》中欧音楽夜話	協力	○	○	
4	2019.6.8	大阪大学文学部・大学院文学研究科	山崎正和名誉教授文化勲章受賞記念フォーラム	共催	○	○	
5	2019.5.2	大阪大学免疫学フロンティア研究センター企画室	サイエンスカフェ・オンザエッジ@いちょう祭「新しいガン免疫治療“CAR-T細胞療法”の最前線」	協力	○	○	
6	2019.7.5	東京外国語大学、TUFSCinema、人間文化研究機構「現代南アジア地域研究」東京外国語大学拠点	現代インド映画監督ナンディタ・ダースさんを迎えての映画上映会	後援	○	○	
7	2019.10.9	公益社団法人知財登録協会	パラダイムシフトの発想2019	後援	○		
8	2019.10.12-11.9	大阪大学大学院理学研究科	最先端の物理を高校生に Saturday Afternoon Physics 2019	協力	○	○	
9	2019.5.28	大阪大学	第2回 CSC シンポジウム「Society5.0 社会に向けた健康×スポーツへのアプローチ」	協力	○	○	
10	2019.7.31-8.2	大阪大学基礎工学部	大阪大学基礎工学部第41回公開講座	協力	○	○	
11	2019.6.23	大阪大学出版会	大阪大学出版会 出版記念イベント「分断社会と若者の今」吉川徹先生講演会	後援	○	○	
12	2019.7.13	公共圏における科学技術・教育研究拠点（STiPS）	市民参加型ワークショップ「新しい医療と、くらし～再生医療のあるべき未来像～」	後援	○	○	
13	2019.8.27-29	大阪大学 大学院理学研究科 生物科学専攻	高校生のための分子生物学実習「ジャイアントインパクト」ー学びを生きる力に変える 科学的キャリア教育ー「高大ギャップを埋める高大接続教育」高校生の悩みを解消！	協力	○	○	○
14	2019.8.7	大阪大学 大学院工学研究科 環境・エネルギー工学専攻	ひらめき☆ときめきサイエンス「ものづくり道場：放射線検出器を作ってみよう！」	協力	○	○	○
15	2019.8.2	大阪大学 大学院工学研究科 技術部	工学研究科技術部 社会貢献プログラム（夏休みおもしろ理科実験）「風の力を利用しよう！」	協力	○	○	○
16	2019.8.7	大阪大学蛋白質研究所	蛋白研セミナー 第12回「高校生のための特別公開講座」	協力	○		○
17	2019.8.8	大阪大学 大学院理学研究科 数学専攻	高校生のための公開講座「分枝過程の絶滅問題」	協力	○	○	○
18	2019.8.8	大阪大学工学部化学系教室 夢化学グループ（物質生命工学コース、分子創成化学コース、物質機能化学コース各教室）	夢・化学-21 化学への招待ー大阪大学工学部ー日体験化学教室ー	協力	○	○	○
19	2019.7.13	大阪大学夏まつり実行委員会	第40回 大阪大学夏まつり	協力	○	○	○

No	開催日	主催団体	事業名	名義	広報的支援		その他の支援
					HP掲載、ポスター掲示、チラシ配架・発送	メルマガ	
20	2019.8.7-9	大阪大学産業科学研究所技術室	ものづくり教室 2019	協力	○	○	○
21	2019.8.10	大阪大学理学部化学科、日本学術振興会	大阪大学理学部化学科一日体験入学 ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ「ミクロの分子を覗いて、触って、操ってみよう」	協力	○	○	○
22	2019.6-2022.3.31	文化庁大学における文化芸術推進事業「微しの上を鳥が飛ぶー文学研究科におけるアート・ブラクシス人材育成プログラム」＝文学研究科	文化庁大学における文化芸術推進事業「微しの上を鳥が飛ぶー文学研究科におけるアート・ブラクシス人材育成プログラム」	協力	○	○	
23	2019.7.14	大阪大学大学院経済学研究科松村研究室	第5回流しろうめん@阪大坂	協力	○	○	○
24	2019.9.14	文部科学省新学術領域研究 学術研究支援基盤形成 生命科学連携推進協議会 社会との接点活動班	文部科学省新学術領域研究 2019年度市民公開シンポジウム ゲノム編集の現在地ー社会とともにある科学研究ー	後援	○	○	
25	2019.8.21	大阪大学社会経済研究所附属行動経済学研究センター	大阪大学社会経済研究所・第16回行動経済学研究センターシンポジウム	協力	○	○	
26	2019.7.28	大阪大学出版会	あつまれ未来のはかせシリーズ「サル顔をおぼえられるかな？」	協力	○	○	
27	2019.9.4-12.4	大阪大学学術研究機構会議、アートエリアB1（大阪大学+NPO法人ダンスボックス+京阪ホールディングス(株)）	大阪大学リサーチクラウドカフェ	協力	○	○	
28	2019.11.9	大阪大学大学院歯学研究科・歯学部附属病院	大阪大学大学院歯学研究科・歯学部附属病院第17回市民フォーラム	協力	○	○	○
29	2019.8.6	大阪大学全学教育推進機構	森村泰昌氏「関西は今」特別講義	協力	○	○	○
30	2019.10.16-11.6	大阪大学微生物病研究所	サイエンスカフェ・オンザエッジ@ラボカフェ	協力	○	○	
31	2019.10.24	豊中市立蛸池公民館	秋の待兼山の自然を訪ねて	共催			○
32	2019.11.2-3	大阪大学大学院工学研究科機械工学専攻 大須賀・杉本研究室	Robo Café -ロボットが人に教えてくれること-	協力	○	○	○
33	2019.10.3-4	一般社団法人 臨床医工情報学コンソーシアム関西	Work Life Balance セミナー ～体験・参加型講義で楽しく学べる2日間～	後援	○	○	
34	2019.11.17	大阪大学大学院医学系研究科附属ツインリサーチセンター	ふたごフェスティバル 2019	協力	○	○	
35	2019.12.4	大阪大学外国語学部ビルマ語専攻・スワヒリ語専攻	ノンフィクション作家高野秀行氏講演会	協力	○	○	
36	2019.11.9-17	新長田アート commons 実行委員会、京都市他	「下町物語プロジェクト 2016-2019」本説 森村泰昌 野生「能」2019：火魔我蹉鬼、洲波羅、富久破裸	協力	○	○	
37	2019.12.17	理学研究科、他 大阪大学豊中部局計13部局	第4回大阪大学豊中部地区研究交流会	共催	○	○	

4. 学内外との連携による社会学連携事業推進 > 4-1. 社会学連携事業支援メニューおよび支援実績の概要

No	開催日	主催団体	事業名	名義	広報的支援		その他の支援
					HP掲載、ポスター掲示、チラシ配架・発送	メルマガ	
38	2019.11.3	基礎工学研究科	第2回女性科学者サミット@阪大豊中	協力	○	○	
39	2019.11.27	大阪大学センター・オブ・イノベーション（COI）研究推進機構	第8回大阪大学 COI シンポジウム 潜在力を発揮し、自ら課題を克服する積極的自立社会 ーセルフエンパワーメント社会の実現に向けてー	協力	○	○	
40	2020.2.9	大阪大学医学部附属病院	未来医療フォーラム ～大阪大学医学部附属病院の取り組み～	協力	○	○	
41	2019.11.21	全国ダイバーシティネットワーク組織近畿ブロック	2019 年度全国ダイバーシティネットワーク組織近畿ブロックシンポジウム「理系女性研究者の裾野拡大と風土づくり」	後援	○	○	
42	2019.12.19	大阪大学	2019 年度 第2回セミナー ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）	協力	○	○	
43	2019.12.16	大阪大学歯学部附属病院	ソーシャル・スマートデンタルホスピタルシンポジウム（第3回）	協力	○	○	
44	2020.2.18-3.17	箕面市（運営委託/公益財団法人箕面市メイプル文化財団）	令和元年度生涯学習講座（冬の講座） 日常にあるなにげない疑問それが哲学！	後援	○		
45	2020.2.8	大阪大学医学部附属病院	市民公開フォーラム	協力	—	—	
46	2019.12.14	大阪大学外国語学部	留学生とあそぼ	協力	—		
47	2020.1.13	糸びす男選抜実行委員会	第14回糸びす男選抜@阪大坂	協力	○	○	
48	2019.12.8	大阪大学免疫学フロンティア研究センター企画室	サイエンスカフェ・オンザエッジ@中之島祭「核医学ってなに？ -最先端の画像診断からがん治療まで-」	協力	○	○	
49	2019.12.20-2020.3.10	大阪大学微生物病研究所	大阪大学クラウドファンディング微生物病研究所企画「感染症・免疫の虎の巻ウェブサイト制作」	協力	○	○	
50	2020.3.11	大阪大学社会ソリューションイニシアティブ	第2回SSIシンポジウム「命への責任 — 新しい企業像を求めて — 」	協力	○	○	
51	2020.3.1	大阪府立中央図書館 指定管理者長谷工・大阪共立・TRCグループ	第4回府民講座 小説家、織田作之助	後援	○		○
52	2020.1.30	大阪大学大学院言語文化研究科・外国語学部 / 箕面市	箕面市との連携協力講座（ミャンマー編）	共催	○	○	
53	2020.2.6	大阪大学大学院言語文化研究科・外国語学部 / 箕面市	箕面市との連携協力講座（インドネシア編）	共催	○	○	
54	2020.5.2	大阪大学産業科学研究所	大阪大学 産業科学研究所 一般公開	協力	※	※	
55	2020.5.2-3	大阪大学	大阪大学いちょう祭	協力	※	※	
56	2020.5.2	大阪大学免疫学フロンティア研究センター	サイエンスカフェ・オンザエッジ「1細胞解析～新しいヒト免疫学を切り開く最新の技術～」	協力	※	※	
57	2020.5.27	大阪大学男女協働推進センター（全国ダイバーシティネットワーク）	第3回全国ダイバーシティネットワークシンポジウム	協力	※	※	
58	2020.5.20-12.16	大阪大学大学院理学研究科	大阪大学大学院理学研究科 公開講座 サイエンスナイト 2020	協力	○	○	

※新型コロナウイルス感染症の影響により中止等

(参考：関連組織等の連携)

組織名	開催日	行事名	名義 使用	広報的連携	
				HP 掲載、 ポスター掲示、 チラシ配架・発送	その他
社会学創本部	2019.6.9、29	シベリウスとフィンランドの言語の多様性ー合唱団のためのスウェーデン語発音講座ー	○	○	
	2019.7.30	大阪大学×能勢人形浄瑠璃 コラボレーション公演 「能勢人形浄瑠璃鹿角座 まちかね ta 公演 at 大阪大学」	○	○	
総合学術博物館	2020.1.25～3.21	サイエンスカフェ@待兼山（2019 年度） No.152～156	○	○	
	2019.8.21～23	2019 体験！こどもミュージアム@大阪大学	○	○	だより掲載
	2019.11.30～12.7	豊中市立小中学生 理科展 サテライト展示	○		
	2019.4.26～7.20	大阪大学総合学術博物館 第 22 回企画展 四國五郎展～シベリアからヒロシマへ～ （関連イベント含む）	○	H30 実施	だより掲載
	2019.10.25～12.26	第 13 回特別展 大阪が生んだ稀代の経営者 佐治敬三 “百面相”（関連イベント含む）	○	○	
	2019.9.24～10.18	「衣と生活 Kimoni and Life」かんさい・大学ミュージアム連携プロジェクト ゴージャスとモダニズムーの美意識探訪、塩野家コレクションとその周辺ー	○	○	
	2019.11.17	第 35 回 湯川記念講演会	○	○	
	2020.4.24-7.28	大阪大学総合学術博物館 第 14 回特別展 「なんやこりゃ EXPO'70ー大阪万博の記憶とアート」	○	○	
適塾記念センター	2019.12.9	令和元年度 大阪大学適塾記念講演会	○	○	申込フォーム
	2019.9.19、10.17、11.21	第 12 回適塾講座「おおさかの街に生きる愉しみー音楽と変容する大大阪／おもしろいこと言いと出版／適塾の青春ー」	○	○	申込フォーム
	2019.6.4～16	適塾特別展示「北船場地域と適塾・除痘館」	○		
懐徳堂記念会	2020.4.1～12.21	懐徳堂古典講座	○	○	
	2019.11.21～23	第 138 回秋季講座「大阪に息づくシェイクスピア文化」	○	○	
	2019.10.25	第 46 回見学会「中世寺社境内の絵図を楽しむ」		○	
	2019.6.28～30	第 137 回懐徳堂春季講座「日本の怪を語る」	○	H30 実施	
	2020.6.27	第 139 回懐徳堂春季講座 ギリシア神話を読む		○	
その他	2019.10.25	令和元年度大阪大学司馬遼太郎記念学術講演会		○	

4-2. アウトリーチ活動の推進

教職員へのアウトリーチマインドの涵養と、アウトリーチ活動の活性化のため、学内外への広報・支援活動を継続して行っている。各部局等の社会学連携担当者「社会学連携ネットワーク」を通じた、21世紀懐徳堂がもつ社会学共創事業の情報・ノウハウ提供等の支援をはじめ、「代理入力」等による本学におけるアウトリーチ活動実績の積極的な公開も行っている。

（田中 綾）

■21世紀懷徳堂ホームページを通じた学内への情報提供とサポートの取り組み

2016 年、アウトリーチ活動支援に関する内容について、「学内教職員向けアウトリーチ活動支援情報」として 21 世紀懐徳堂ホームページにまとめ、支援メニューの詳しい説明やアウトリーチ活動の実例・ノウハウ、大阪大学のアウトリーチ活動方針などをまとめて紹介してきた。今年はホームページのシステムバージョンアップとともにホームページ内の学内向けメニュー項目を統合し、「学内の方へ」としたページでそれらの支援情報等をまとめて発信している。

また、このホームページを通じるなどして、アウトリーチ活動に関する問い合わせや相談などを受け付け、サポートの取り組みを行っている。



大東大学
第21世紀
創 業 塾

演説、講演、カフェなどの企画を通して、大学が市民の“学び”をお手伝いします。

大東大学公式サイト サイタマライブ アウトリーチラボ
文字サイズ: ● ○ □ ▲

ホーム
イベント
ニュース
21世紀情報室とは
学内の方へ

学内の方へ

学内の社共創事業に対する支援について

大学と市民・社会をつなぐ「社会学創事業」を各企業の際は、21世紀情報室にぜひお申し込みください。21世紀情報室が様々な形でお手伝いをいたします。

具体的な支援内容については、[こちら（マイハンドライ）学内専用](#) ページをご覧ください。お気軽にお問合せください。

支援を希望される方は、[自費・協力・後援等依頼書](#)（[excelファイル](#)・約50KB）にご記入の上、チラシや企画書を添えてのメールまたはお電話にてご送付ください。（★お急ぎにさせていただきます）までお待ちしております。

なお、支援の際は、実施のご報告をお願いいたします。

「社会学創事業」とは、市民向け公開講座、シンポジウム等のイベントや、地域・自治体・企業・NPO等との連携による学園・文化事業を通じて、大東大学が広く社会に貢献していく取り組みです。

21世紀情報室ホームページでの各種行事等の公開方法について

このサイトは、社会に関わりたい大学として大東大学の学部・研究科や研究所・センター等が公開している様々なシンポジウムやセミナー、公開講座等の情報を広く皆様にお知らせするポータルサイト（情報の広場）として開設しています。

各部署等の多様な社会学推進策（演説会、講演、シンポジウム、ワークショップ、カフェなど）の活動の開催情報を集約し、開催内容や開催日時・場所、申し込み期間や窓口などの情報を、わかりやすくお知らせすることを目指しています。

●本サイトで情報の提供いただく際、以下の二つの方法によりご提供ください。

- 1) **マイハンドライ「セミナー/シンポジウム情報登録画面」から**
学内専用「[サインイン](#)」ペー... にログインしていただき、「セミナー/シンポジウム情報登録画面」で開催予定の行事・イベントの情報を入力していただきます。本サイトでPに掲載がされます。同時にその情報は21世紀情報室ページにも自動的に掲載されます。
- 2) **21世紀情報室ページへの直接掲載**
開催予定の行事・イベントについて、電話・メール等で21世紀情報室担当者の概要を直接お問い合わせください。詳細情報についてご担当者の方と直接調整のうえ記事を作成し掲載することが出来ます。

学内の方へ

- [学内の社会学推進策に関するお問い合わせ](#)
- [21世紀情報室ホームページでの各種行事等の公開方法について](#)
- [21世紀情報室ページへの直接掲載について](#)

研究向けアウトリーチ活動支援について

- [研究機関のアットリチ活動支援制度](#)
- [大東大学のアウトリーチ活動方針](#)
- [企業コミュニケーション](#)
- [案内パンフレット](#)
- [公開講座](#)
- [サイエンスカフェ](#)
- [研究会主催](#)
- [中核的民間研究機関](#)
- [WFO](#)
- [フェイスブックス](#)
- [研究会向けへの募集入り](#)
- [FAQ](#)
- [新卒採用ページ](#)

1月18日・18日 日本橋区「ノ」
大東大学シンポジウム

1月18日・18日 日本橋区「ノ」
Handai-Asahi 中之島塾

大東大学 21世紀情報室 1st open 講座

海外より来日した研究者を招き行う
大東・新文化講座

21世紀情報室施設のご使用方法について

21世紀情報室は、豊中キャンパスの大東大学本部（旧・旧校舎）内に活動拠点を設けています。学園関係者以外の方の参加は以下のとおりです。

●スタジアム・編組
会場：ワークショップ、発表会、講演会、座談会として、一般の方を含めた公開行事を対象とします。（学生は大東大学職員のみが利用可能となります。）

○スタジオ：数回貸借・15分キッズルーム・数回貸借（入館時）
○図書：60坪キッズルーム（備品・備具・サービスを含む）

※ご利用には、申込・設備等を必要とする場合があります。申請書は必ず事前に提出してください。また、申込日より前日の午後、当日の午前、当日の午後、当日の夜間の4つ、本学の職員・関係者以外の方による利用も可能です。（申請書は必ず事前に提出してください。）（サインイン・サインアウト）に賛同をお願いします。

※受付時間は、21世紀情報室スタッフにお問い合わせください。



▲スタジオ



▲図書

研究向けアウトリーチ活動支援について

21世紀情報室は、大東大学のアウトリーチ活動を支援するための拠点として設置されています。研究機関のアットリチ活動（研究発表会・公開講座）実施をサポートするための体制を整えています。詳しくはこちらをご覧ください。

またの機会は、大東大学21世紀情報室までの訪問にご確認ください。

【研究機関のアットリチ活動支援制度】

- 広報・宣伝活動など、アウトリーチ活動をサポートします。
- 会場・会議室など、アウトリーチ活動の受け入れを行います。
- 一泊二泊滞在費
- 出張旅費の補助金を提供します。
- 公開講座、サインイン・サインアウト、研究会主催、小中高生向け特別授業、WFO、フェイスブックス、研究会発表、社会貢献活動



大東大学
21世紀
情報室

〒565-0832 大阪府大阪市淀川区西長崎1-13-1 大東大学本部
TEL: 06-6543-5445 FAX: 06-6543-5449

Copyright © 2008-2020 Daiichi University All Rights Reserved.

■社会学連携ネットワーク

大阪大学全体の社会学連携事業やアウトリーチ活動の円滑かつ効果的な推進を図る目的で、各学部等の社会学連携担当教員や事務担当係等からなる社会学連携ネットワークを2016年に構築した。

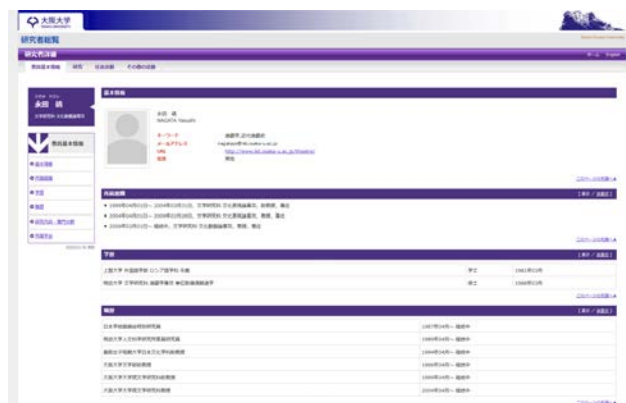
2016年12月から1～2月に1回メール通信を配信（マイハンドアイにバックナンバーを掲載）しており、担当者などが社会学共創活動やアウトリーチを行う際に「役立つ」「寄り添う」内容をめざした情報提供を行っている。



■代理入力

21世紀懐徳堂が本学研究者の公開講座やサイエンスカフェ等のアウトリーチ活動実施実績を収集・蓄積し、「代理入力」として、当該教員に代わって教員基礎データベースを通じて大阪大学研究者総覧「社会活動」欄に情報入力を行っている。これにより研究者の負担を増やすことなく、大阪大学におけるアウトリーチ活動の情報収集、社会への発信を進めている。

2014年の開始から現在まで、2,300件以上の研究者の社会活動情報を入力しており、代理入力の可否をうかがった研究者からは概ね継続的な入力を許可いただくなど有用に受け入れられている。



成果

ホームページ等を通じての支援相談や協力依頼は継続的に寄せられており、中には毎年度依頼があるものなど、支援のニーズと同時に、支援の効果も推し量られる。実際に、7月から運用の支援行事等の実施報告書にて、来場者の認知経路のうち40%程度に21世紀懐徳堂からの広報が含まれるという場合もあった。

代理入力については、本学のアウトリーチ情報の収集、学外への発信力向上や教職員の利便性向上という点でその役割を果たしていると考えられる。支援を始めた当初から現在に至っては、アウトリーチの考え方や活動のすそ野が広がり、一定の状況に達したと受け止めている。教員基礎デー

タベースのシステム移行と共創機構の改組も踏まえ、この取り組みについては、今年度で区切りをつけることとなった。なお、具体的な取り組み状況として次ページに紹介する。

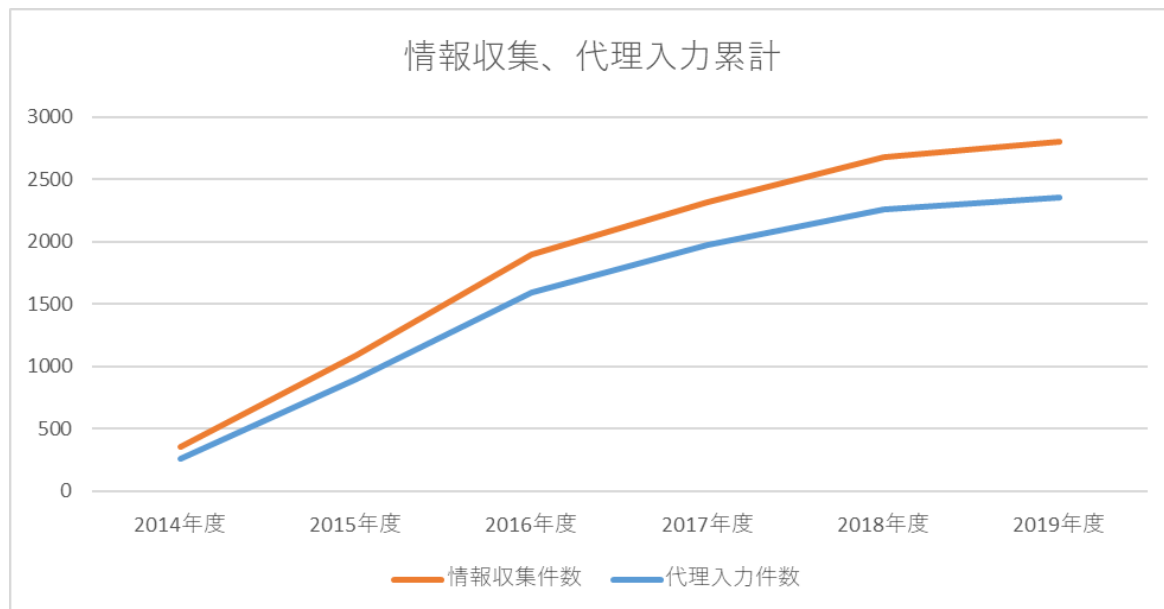
社会学連携ネットワークはこれまで主に情報提供の場であったが、今後は、共創機構での新しい体制のもと、学内のコミュニケーションの場としての活性化を模索していきたいと考えている。

アウトリーチ活動においては今後、研究活動と社会との循環の中で次なる展開を拡げられるよう取り組んでいきたい。

4. 学内外との連携による社会学連携事業推進 > 4-2. アウトリーチ活動支援

○代理入力に関するデータ

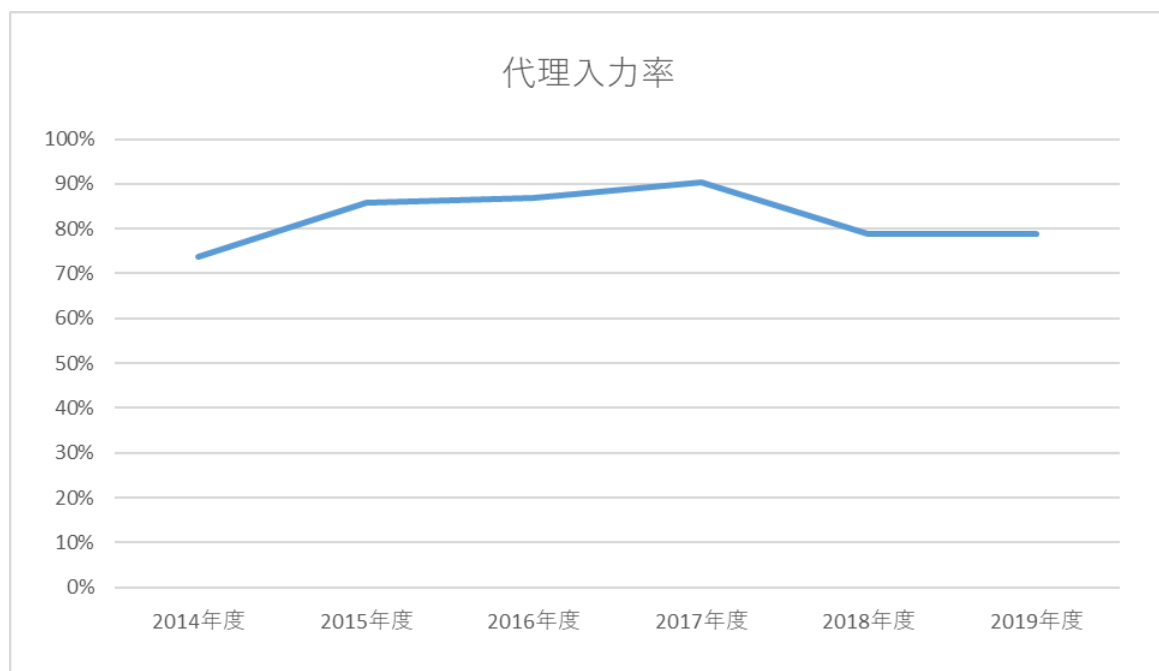
・情報収集累計



※2014年度は12月（事業開始）からのもの（次のグラフも同じ）

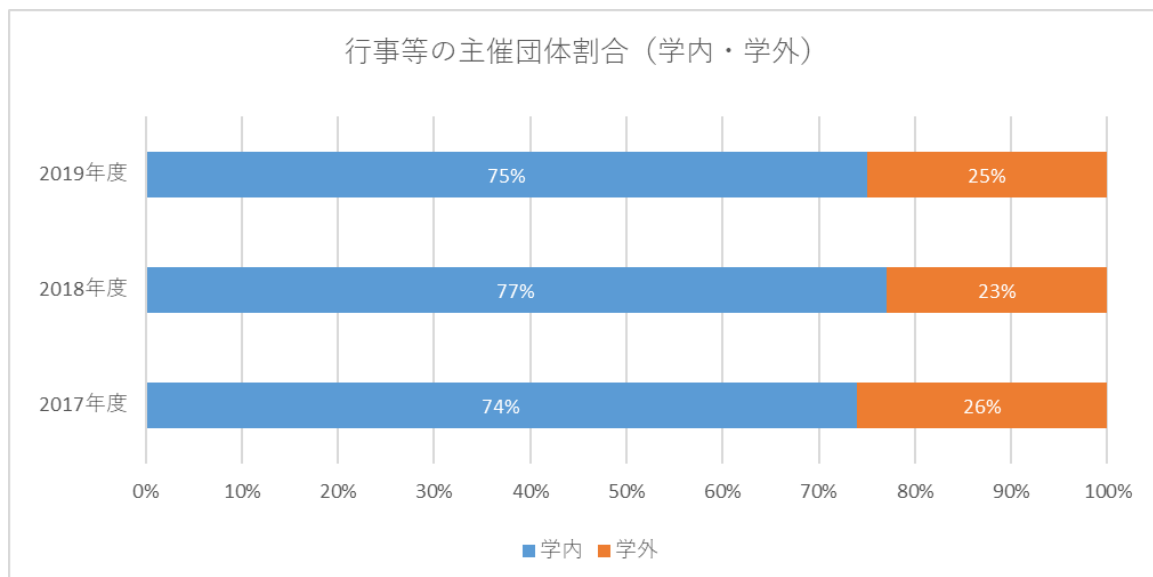
※開催日を基準とした年度ごとに集計（次のグラフも同じ）

・情報収集に対する代理入力率

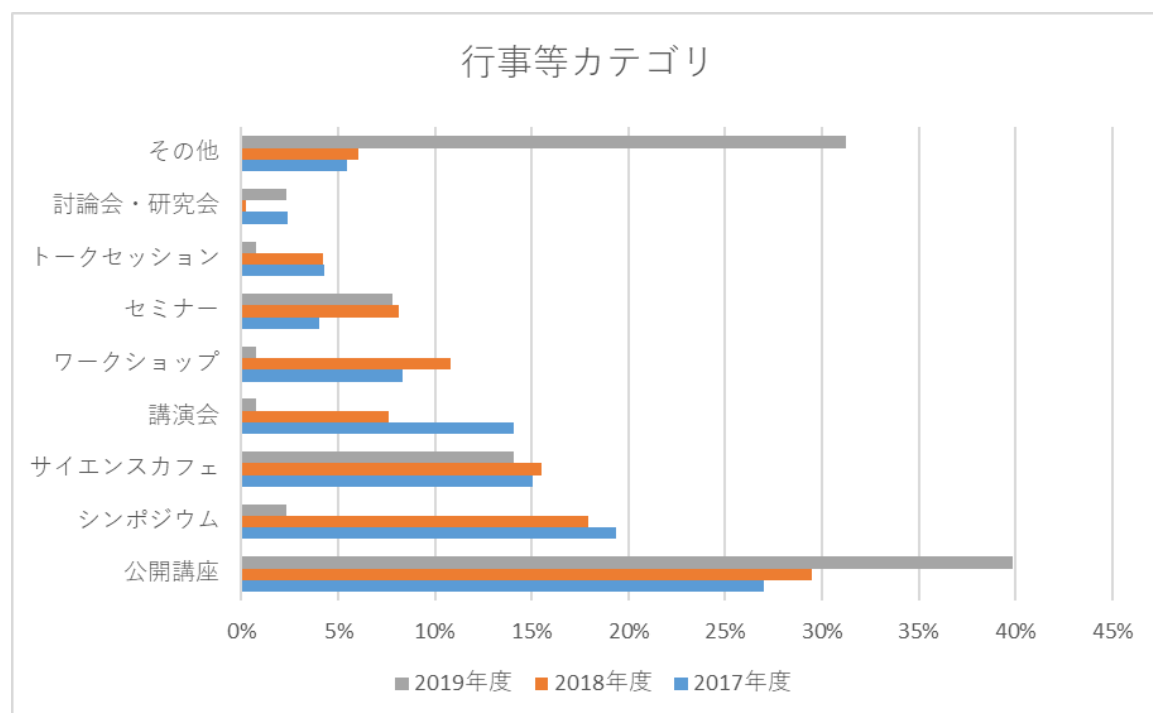


(過去3か年におけるデータより)

- ・収集情報における行事等の主催団体の割合 (学内・学外)



- ・収集情報における行事等の形態区分



4-3. 自治体・大学・企業等との連携

21 世紀懐徳堂は、本学の社会学共創事業や社会貢献活動の窓口として、自治体、大学、企業等と連携した事業を展開している。ここでは、実際にどのような連携が行われたかを概観する。個別の事業詳細については別項を参照したい。(徳野 光男)

- ・ 21 世紀懐徳堂が事業連携している自治体／大阪府、大阪市、吹田市、豊中市、箕面市、能勢町
〔参考〕 大阪大学が包括協定を結んでいる自治体／大阪府、大阪市、吹田市、豊中市、箕面市、池田市、茨木市、堺市、摂津市、能勢町、尼崎市
- ・ 21 世紀懐徳堂が事業連携している大学等／大阪音楽大学、立命館大学
〔参考〕 21 世紀懐徳堂が連携協力覚書を結んでいる大学／大阪音楽大学
- ・ 21 世紀懐徳堂が事業連携している企業等／株式会社朝日カルチャーセンター、大阪ガス株式会社、一般財団法人懐徳堂記念会、京阪ホールディングス株式会社、NPO 法人ダンスボックス、一般社団法人ナレッジキャピタル、株式会社 KMO、三井不動産株式会社

成果

2008 年の発足以来、数々の自治体、大学、企業などと連携・協力関係を築き、地域や社会と本学をつなぐ多種多様な公開講座などの連携事業を展開してきた。

連携事業は連携先により特色ある内容で開催してきたもので、座学だけではないものもあり、21 世紀懐徳堂単独ではできないことを実現してきた。

事業の実施場所を連携先の施設とすることで、大阪大学になじみのない方、遠方の方、幅広い年齢層からの参加も得て、パブリックリレーションズの一翼も担えたものと考えている。

また、各事業はアウトリーチ活動にも活用され、教員の研究活動の支援や市民の方の人文社会科学・自然科学などへの興味や関心を高めることにつながったものと思う。

21 世紀懐徳堂は、これまで公開講座などを中心とした連携活動を多種多様な連携先と行ってきたところである。

連携先の数、参加者数などは数字に表すことはできるが、実施した効果は定量的に計ることが難しいものであることから、その成果をアピールすることにつなげることができないジレンマがあった。

連携事業はその大半を閉じることになるが、これまで培ってきた関係や事業の手法を今後大学が行う活動において生かせればと考えているところである。



包括連携協定に基づくプラットフォーム会議
〔大阪府〕



はんだいラボ@EXPOCITY
〔三井不動産（株）〕



21 世紀懐徳堂×豊中市レクチャーコンサート
〔豊中市文化芸術課〕

自治体との連携事業等一覧＜2019 年度実績＞

自治体名等（担当部署）	主な事業名等	概要等
大阪市 （都市計画局）	大阪大学 21 世紀懐徳堂 i-spot 講座	2008 年 10 月にスタートし、文系・理系多彩な講座ラインナップで好評の人気講座に成長。今年度は前期 6 講座、後期 4 講座、小学生対象 3 講座の合計 12 講座を開講した（予定していた 2 講座は、新型コロナウイルス感染症問題から中止）。
大阪府 （財務部行政経営課） （政策企画部企画室） ほか	①地域活性化全般 ②人材育成・教育関係 ③調査・研究及び事業の実施 ④産学共創・産業振興 ⑤ダイバーシティの推進	①-1 大学×大阪府プロジェクトの実施 大学が有するシーズと行政の持つフィールドをかけ合わせ、大阪府がかかえる社会課題の解決に向けてのアプローチ。 石油コンビナート地区における津波避難支援プロジェクトほか 3 件 -2 G20 大阪サミットでの学生ボランティア 大阪・関西魅力発信スペースでの通訳 ②-1 学生の就職・キャリア支援に関する連携 ・業界研究セミナーの実施 ・OSAKA 障がい学生支援ネットワークへの参画 -2 健康キャンパス・プロジェクトの実施 ・健康に関する公開講座の実施 「健康キャンパスプロジェクト～ヘルスリテラシー向上講座～」 ・学内カフェテリアにおける V.O.S.メニューの提供 -3 W E S T 論文研究発表会 -4 「統計普及活動の推進、データ関連人材の育成」 ・大阪府×大阪大学共催セミナー 「経済波及効果を計算する～統計からわかる【もうけ】」 ・厚生労働省教育訓練プログラム開発 「データサイエンス利活用教育訓練プログラムの開発」 -5 府政についての学生への情報提供 ③都市基盤施設の維持管理に関する連携 寝屋川流域における浮遊汚泥（スカム）の発生メカニズム解明及び発生制御 ④大阪スタートアップ・エコシステム・コンソーシアムの設立 起業家教育に取り組む大学として大阪大学が参画 ⑤女性活躍推進に向けた連携 ・ハンダイ理工系女子フェアの開催 ・共通講義「女性リーダーとの対話ーグローバル化時代を生きる阪大生へー」の開催
吹田市 （環境部環境政策室）	アジェンダ 21 すいた計画	「アジェンダ 21 すいた」の団体（大学）会員として、吹田市民、事業者、行政が共同で策定した「アジェンダ 21 すいた計画」に基づき、チラシ、ポスター等の学内掲示協力などを例年に引き続き実施。 また、クールアースウィークへの参加について仲介。
豊中市 （都市活力部文化芸術課） （選挙管理委員会事務局）	大学の研究知を活用した豊中市の新たな魅力を創造し、文化芸術振興に貢献する事業	豊中市と新たな装いで企画実施した、とよなか音楽月間の期間中に開催したレクチャーコンサート。 大阪大学 21 世紀懐徳堂×豊中市レクチャーコンサート 2019 年 12 月 1 日（日）桜の庄兵衛ギャラリー
	選挙啓発に係る大阪大学と豊中市との連携事業	2015 年度から若年層（本学学生）の選挙参加へのきっかけを作り、各種選挙の関心、投票率向上に繋げることに加え、地域住民の利便性向上のため、豊中キャンパスに豊中市選挙管理委員会管轄の「期日前投票所」を開設。 【大阪府議会議員一般選挙】 4 月 3 日（水）、4 日（木）の 2 日間 【豊中市議会議員一般選挙】 4 月 17 日（水）、18 日（木）の 2 日間 【参議院議員通常選挙】 7 月 17 日（水）、18 日（木）の 2 日間 いずれも大阪大学会館 21 世紀懐徳堂スタジオを提供。
箕面市 （箕面市教育委員会） （人権文化部） （教育委員会事務局） （地域創造部）	みのおエフエム「まちのラジオ（大阪大学社会学連携事業）」	2010 年 4 月から 21 世紀懐徳堂がコーディネートし、本学の教職員・学生が出演する大阪大学紹介番組。2019 年度も毎月 1 回、計 12 回放送。 このうち、9 回は企画製作を本学学生が行った。
	大阪大学・箕面市連携協力講座（共催事業）	2014 年 2 月にスタートした大阪大学大学院言語文化研究科・外国語学部及び箕面市教育委員会で行う生涯学習の連携協力講座。今年度も 21 世紀懐徳堂は開催経費の支援を行った。 ＜箕面市立みのお市民活動センターほか＞ 2019 年 10 月 31 日（木）：ベトナムの文化を知ろう！ 2020 年 1 月 30 日（木）：ミャンマー（ビルマ）の文化を知ろう！ 2020 年 2 月 6 日（木）：インドネシアの文化を知ろう！

4. 学内外との連携による社会学連携事業推進 > 4-3. 自治体・大学・企業等との連携

大学等との連携事業等の一覧

大学名等（担当部署）	主な事業名等	概要等
立命館大学 （同大学文学部）	大阪・京都文化講座	2009年10月にスタート。本学文学研究科と三者による共催により実施するもので、年2期・各8講座（阪大4講座、立命館大4講座）を開講している。今年度も歴史や文化に関して共通テーマを設定し、2大学の多様な専門分野の研究者が講義を展開した。



大阪モノレール「柴原阪大前駅」駅名変更記念
ウォーキングイベント
[大阪高速鉄道株式会社]



選挙啓発に係る大阪大学と豊中市との連携事業
[豊中市選挙管理委員会事務局]

企業等との連携事業等の一覧

企業名等	主な事業名等	概要等
株式会社朝日カルチャーセンター	Handai-Asahi 中之島塾	2004年10月、大阪大学中之島センター誕生を機に立ち上げられた、文化、歴史、芸術、理学、工学、医療など大阪大学が有する様々な分野の講師による公開講座。リピーター受講も多く、今年度は20講座を開講した。
大阪ガス株式会社	大阪大学×大阪ガス 「アカデミックッキング」	2010年10月にスタートした公開講座。「専門分野の講義」とそれにちなんだ「料理実習・試食」を組み合わせたスタイルが好評を博しており、メディアからも注目されている。今年度は4回開講した。
一般財団法人懐徳堂記念会	公開講座への協力	大阪大学の精神的な源流である懐徳堂を顕彰する一般財団法人懐徳堂記念会が開催する各種公開講座に関して広報等の協力を行った。
京阪ホールディングス株式会社	アートエリアB1 ラボカフェ	京阪「なにわ橋駅」地下1階コンコースにあるアートエリアB1を会場に、毎月不定期で、哲学、アート、デザイン、サイエンス、鉄道など多様なテーマで開いている対話プログラム。2010年から本学の教職員、学生が企画するプログラムも募集している。今年度は計50回開催。
一般社団法人ナレッジキャピタル、 株式会社KMO	ナレッジキャピタル「超」学校シリーズ 大阪大学×ナレッジキャピタル 「私の研究、今、ここです！」	2014年11月からスタート。大阪大学とナレッジキャピタルが、研究の発想やプロセスを学び対話するプログラムとして、本学教員と市民との交流事業をグランフロント大阪北館1F「カフェラボ」で開催し、今年度は2講座開講した。
三井不動産株式会社	・2019 大阪大学共創 DAY@EXPOCITY ・はんだいラボ@EXPOCITY Lab ・実証実験の場の創出	企業、自治体、地域社会などとの交流をより広げ深めるため、昨年度に引き続き11月30日（土）に「大阪大学共創 DAY@EXPOCITY」をショッピングモール「ららぽーと EXPOCITY」の光の広場などを使用して開催。 また、ららぽーと EXPOCITYの3階にある「EXPOCITY Lab」において、子育て世帯を主な対象として共創機構社会学共創本部が「はんだいラボ@EXPOCITY Lab」を本格実施。今年度は7回開催（予定していた3回は、新型コロナウイルス感染症問題から開催見送り）。 加えて、同モールを実証実験等のフィールドワークの場として使用するため、検討、調整にあたり、計5件の実施につながった。
大阪高速鉄道株式会社	大阪モノレール「柴原阪大前駅」駅名 変更記念ウォーキングイベント	大阪モノレール大阪空港駅をスタートして、大学祭「まちかね祭」開催中の大阪大学豊中キャンパスをゴールとする、なぜ解き形式のウォーキングイベントを開催（主催：大阪モノレール 共催：社会学共創本部） 恒常的な連携先ではないが、柴原阪大前駅への駅名変更を記念して実施。

4-4. 学生との連携

学生の主体的な社会学連携活動を支援することを目標とした本年度は、学生団体などへの積極的な声掛けを実施し、学生団体が市民対象のイベントステージに立ち、イベント参加者を盛り上げる機会の橋渡しや、大学の社会学連携活動に参加する機会の提供などを実施した。

(花岡 宏亮)

(1) 学生の課外活動公認団体による地域イベント等への参画

■中之島なつまつり (8月26日実施) への学生団体派遣

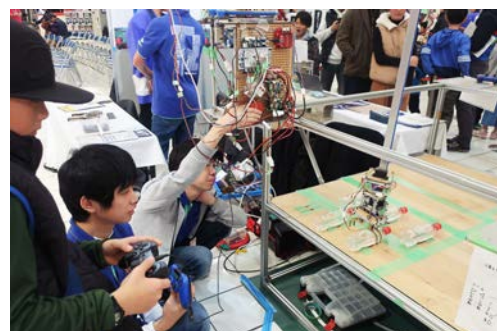
概要: 中之島なつまつりとは、中之島所在の企業が中心となり、中之島の勤務者、居住者に向けて実施する地域による地域を盛り上げるためのまつりの一つで、大阪大学中之島センターが協賛した。中之島なつまつり実行委員会が、本学学生に祭りを盛り上げてほしいとの相談があり、本学の課外活動団体への照会の結果、ベリーダンス部が選出された。大阪国際会議場(グランキューブ大阪)で実施されたまつりは、部員がベリーダンスの歴史などを紹介するとともに、華麗なダンスを参加者に披露し、本学のポテンシャルを伝える時間となった。



(2) 大学の社会学連携活動に参加する機会の提供

■大阪大学共創 DAY に本学学生団体がブース出展

概要: 本学と連携協定を締結している三井不動産との連携事業として、11月30日にらぽーと EXPOCITY において、「大阪大学共創 DAY@EXPOCITY」が開催された。出展したブースのうち、「Robohan」は本学学生団体による出展であった。「Robohan」の学生たちが、ロボットアームを子どもたちが操作してペットボトルを移動させる作業などをサポートした。



■本学学生を 21 世紀懐徳堂コラボレーションアシスタントとして、本学の社会学連携事業に従事

概要: 本学の学生を 21 世紀懐徳堂等が担う社会学連携事業の業務に、21 世紀懐徳堂コラボレーションアシスタント (CA/事務補佐員 S) として従事してもらうことで、社会との連携における実体験の機会等を得て、当該学生のコミュニケーション能力向上させる取組みを行った。

従事内容は、社会学連携事業の代理入力やアンケート集計、イベントのスタッフとしての参画など、実践的な機会を提供した。



成果

例年実施している事業に対し、継続的に従事してもらえたことと、社会学共創本部が実施する事業に対し、学生の参画を

得ることができたことは、一定の成果があったものと考えられる。

5-1. 活動スペースの概要

21 世紀懐徳堂は、演劇をはじめとするパフォーマンスやトークイベントなどに利用可能なスタジオ（「楽屋」付き）を大阪大学会館 1 階に保有している。主催事業を行うほか、学部等が開催する社会学連携事業や社会学連携関連の授業などの場として提供している。

(田中 綾)

[仕様]

●21 世紀懐徳堂スタジオ

- ・面積／165 m²（縦 18.2m×横 9.1m）
- ・壁・天井／黒色、天井に照明吊用バトンをグリッド配置
- ・床／木製フローリング仕上げ（リノリウム、パンチカーペットを敷くことが可能、平台設置により階段状客席の設置も可）
- ・設備／天井吊りプロジェクター、電動式スクリーン、天井蛍光灯、インターネット有線 LAN コンセント（グローバル）、ODINS 無線 LAN

客席用＝演台 1、イス（メモ台付き）80 脚

音響関係＝調整卓・アンプ、DVD デッキ、マイク（ワイヤレス 4 本）、スピーカー類

照明関係＝調光卓、スイッチボックス、調光ユニット、灯体（フレネルライト、凸ライト、PAR ライト、LED ライト）、その他関連機材類

舞台用＝平台・馬足・箱馬、ダンス用リノリウム、パンチカーペット、スモークマシン

その他＝車いすスタジオ入室用スロープ、履物脱着用のこ、長机 2 台、折りたたみ椅子 2 脚、サイドテーブル 3 台

●楽屋

- ・面積／83 m²（スタジオ備品収納スペース兼用）
 - ・設備／化粧前（洗面台・鏡・テーブル・椅子付）2、コート用ロッカー 2 台、折り畳みテーブル・椅子、ソファ、テレビ、簡易畳、ホワイトボード 2 台
- 看板用＝木製イーゼル 3 台、L 字フロアスタンド 2 台、ベルトパーテーション 8 本、
ホワイトボード看板（ウエイト・ロックパーツ付）2 台、ポスターグリップ 2 台、コルクボード 2 台



スタジオ



楽屋

5-2. 活動スペースの利用実績

21 世紀懷徳堂の主催事業、協力事業等の会場として、利用された。また本年度は、社会学連携事業以外のイベントや学生団体主体のイベント開催場所としても大いに利用された。今年度の 21 世紀懷徳堂スタジオ、楽屋の利用状況をふりかえる。

(谷 志保・野田 彩佳)

[利用実績の概要] (2019 年 4 月～2020 年 3 月)

- ・活動スペース全体の利用人数 (イベント時の合計) / 5,472 名
- ・スタジオ稼働率 / 月平均 30.0%
- ・社会学連携事業に関する使用件数 / スタジオ 40 件、楽屋 41 件



4 月：期日前投票[社会学連携事業]
学生・職員と一般人の投票風景
(428 名)



8 月：文学部オープンキャンパス [一般公開]
文学部についての説明会風景
(学生・職員と見学に訪れた一般人延べ 1,200 名)

成果

今年度も様々な社会学連携関連事業及び他イベントの活動拠点として大いに利用された。4 月には豊中市議会議員選挙と大阪府議会議員選挙の「期日前投票会場」として、のべ 789 名の市民・学生が投票に訪れ、政治意識向上に貢献した。8 月には毎年文学部オープンキャンパス会場として使用され、延べ 1,200 名の人が訪れ盛況のうちに終了した。

その他学生主催の演劇やアカペラオーディション、クィア映画祭など、年間を通し多岐にわたるイベント会場として利用され、総計 5,472 名が使用した。スタジオ稼働率は 30%、社会学連携事業に関するスタジオ使用件数は 21 件となった。21 世紀懷徳堂スタジオが大阪大学の社会資源として大いに活用され、周知されていることがわかる。

本年度、スタジオ使用日数は 94 日におよび、そのうち約 30%が土日祝の利用であった。21 世紀懷徳堂スタジオでは毎年備品の大規模メンテナンスを行っており、今年度はスタジオが開設して 10 年目にあたる。経年変化により備品修理や部品の入れ替え等随時見直しているが、今後必要に応じて管理する備品の数や種類を検討していく必要がある。

また、スタジオの認知度が上がったことにより、照明機材に触れたことのない人がスタジオを使用するケースも増えており、スタジオ機材の取り扱いについてはより一層の注意と意識向上が必須である。そのため、使用責任者はスタジオ講習会への参加を義務付けするなど、運用面から変えていくことが望ましい。

今年度は6月に「音響・照明機材使用講習会」、10月・2月に「照明機材使用講習会」を開催し、スタジオ機材の操作方法について、詳しく学べる場を設けた。



●2020 年度活動スペース利用人数内訳（スタジオ+楽屋／イベント時）

スタジオ使用講習会 参加者の感想（抜粋）

- ・ ライトの使用方法等、理解を深められてとてもよい講習会でした。
- ・ 質問が気軽にでき、機材にも実際に触れることができ充実した講習会でした。
- ・ 操作が難しかったが、その場で操作を練習させてもらえたのでわかるようになった。
- ・ 初めて懐徳堂に来させていただきましたが、非常に興味深い施設で面白かったです。
- ・ 設備がどちらかといえば劇やミュージカル向けと感じた。有線マイクやマイクスタンド設備がもう少し充実していれば、ライブなどにも使いやすいかもしれないと思う。
- ・ プロジェクター、スクリーンが一体で切り替えられるのが便利だと思いました。いい設備ですね。

●2020 年度スタジオ利用者数

	利用人数			
	教職員	学生	学外者	総数
4月	10	132	877	1019
5月	12	268	222	502
6月	7	123	149	279
7月	0	0	410	410
8月	35	27	1773	1835
9月	1	0	120	121
10月	11	37	191	239
11月	1	94	36	131
12月	1	269	239	509
1月	13	67	88	168
2月	0	83	17	100
3月	0	154	5	159
合計	91	1,254	4127	5,472

●2020 年度スタジオ稼働率

	稼働可能日数※ 1 (a)	利用日数(土日含む) ()は授業を含んだ日数 (b)	稼働率(%) ()は授業を含んだ数字 (b) / (a)
4月	30	14	47%
5月	31	9	29%
6月	28	9	32%
7月	30	4	13%
8月	31	6	19%
9月	29	2	7%
10月	29	9	31%
11月 ※ 2	29	7	24%
12月 ※ 2	29	15	52%
1月 ※ 2	30	3 (5)	7% (17%)
2月 ※ 2	25	8	32%
3月 ※ 2	13	8	62%
年間計	334	91	
平均	27.83	8.27	

※ 1 大学会館の稼働日数をスタジオの稼働可能日数とした。

※ 2 11、12月：計画停電日あり。 1、2、3月：入学試験日あり。
3月：ワックス日、機材メンテナンス日あり

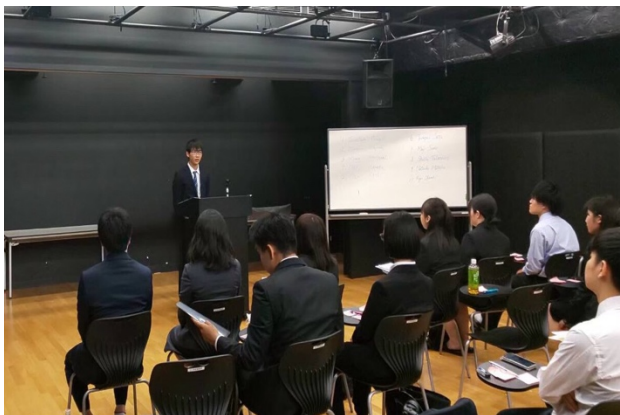
5.活動スペースの運営 > 5-2.活動スペースの利用実績

●2020 年度社会学連携等に関する活動スペース使用回数

月	NO	使用責任者			使用日	使用時間	使用目的	使用場所		使用人数			
		所属	職名	氏名				スタジオ	楽屋	教職員	学生	学外者	総数
4	1	社会学共創課	課長補佐	水野	2019.4.2 (火) ～4.5 (金)	7:30-20:00	大阪府議会議員選挙 期日前投票所	●	●	2	0	428	430
	2	全学教育推進機構	准教授	中村	2019.4.10 (水) ～4.14 (日)	9:00-20:00	第二劇場	●	●	0	87	10	97
	3	社会学共創課	課長補佐	水野	2019.4.16 (火) ～4.19 (金)	7:30-20:00	豊中市議会議員選挙 期日前投票所	●	●	3	0	389	392
	4	21世紀像徳堂	特任研究員	澤村	2019.4.27 (土)	10:00-17:00	第21回植物探検隊	●	●	5	45	50	100
							4月 合計	4	4	10	132	877	1,019
5	5	文学研究科	准教授	山田	2019.5.2 (水) ～5.3 (金)	9:00-17:00	大阪大学吹奏楽団	●	●	0	20	80	100
	6	基礎工学部	助教	西川	2019.5.6 (月)	8:30-19:30	大阪大学ESS 2019年度レジテーションコンテスト	●	●	0	52	2	54
	7	国際部国際学生交流課	課長	橋	2019.5.21 (火)	10:00-16:00	大阪大学海外留学フェア2019	●	●	2	1	0	3
	8	文学研究科	助教	東	2019.5.23 (木) ～5.27 (月)	9:00-20:00	阪大Queer映画祭実行委員会	●	●	10	195	140	345
							5月 合計	4	4	12	268	222	502
6	9	21世紀像徳堂	特任研究員	肥後	2019.6.9 (日)	9:00-20:00	異文化理解クラスター シベリウスとフィンランドの言語の多様性	●	●	2	3	25	30
	10	21世紀像徳堂	事務補佐員	谷	2019.6.20 (水)	10:00-20:00	スタジオ使用講習会	●	●	2	11	4	17
	11	全学教育推進機構	准教授	中村	2019.6.21 (金) ～6.25 (火)	9:00-20:00	第二劇場	●	●	0	40	80	120
	12	数理学研究科	准教授	輪島	2019.6.28 (金)	9:00-20:00	コレギウム・ムジウム	●	●	3	20	30	53
	13	全学教育推進機構	准教授	中村	2019.6.30 (日)	9:00-20:00	アカベラサークルinspirtual voices	●	●	0	49	10	59
							6月 合計	5	5	7	123	149	279
7	14	社会学共創課	課長補佐	水野	2019.7.16 (火) ～7.19 (金)	9:00-20:00	参議院選挙 期日前投票所	●	●	0	0	410	410
							7月 合計	1	1	0	0	410	410
8	15	文学研究科	事務員	藤戸	2019.8.6 (火) ～8.8 (木)	9:00-18:00	文学部オーブンキャンパス	●	●	20	15	1,200	1,235
	16	数理学研究科	特任事務職員	桐山	2019.8.23 (金) ～8.25 (日)	10:00-19:00	第4回日本数学会教育学会大会	●	●	15	12	573	600
							8月 合計	2	2	35	27	1,773	1,835
9	17	全学教育推進機構	准教授	中村	2019.9.20 (金) ～9.21 (土)	9:00-20:00	アカベラサークルinspirtual voices	●	●	1	0	120	121
							9月 合計	1	1	1	0	120	121
10	18	21世紀像徳堂	特任研究員	沢村	2019.10.5 (土)	9:00-17:00	第22回植物探検隊	●	●	2	0	25	0
	19	21世紀像徳堂	特任研究員	沢村	2019.10.16 (水)	9:00-17:00	蟹が池公民館 秋の特産山の自然を訪ねて	●	●	2	0	17	19
	20	教育・学生支援部	係長	山口	2019.10.17 (木) ～10.18 (金)	9:00-17:00	キャンパスメンバーズ併活動等	●	●	1	0	3	4
	21	21世紀像徳堂	特任研究員	沢村	2019.10.19 (土)	9:00-17:00	第22回植物探検隊	●	●	2	0	25	27
	22	言語文化研究科	准教授	岡本	2019.10.23 (水)	17:00-21:00	ベリーダンスの練習 Ralawastj	●		0	15	0	15
	23	21世紀像徳堂	事務補佐員	谷	2019.10.24 (木)	10:00-20:00	スタジオ使用講習会	●	●	0	17	1	18
	24	社会学共創課	主任	安田	2019.10.25 (金)	9:00-20:00	令和元年度司馬遼太郎学術記念講演会	●	●	3	5	0	8
	25	全学教育推進機構	准教授	中村	2019.10.26 (土)	9:00-20:00	アカベラサークルinspirtual voices	●	●	1	0	120	121
							10月 合計	8	7	11	37	191	239
11	26	文学研究科	教授	三谷	2019.11.19 (土)	11:00-18:00	チェコスロヴァキア知造サロン	●	●	1	4	25	30
	27	総合芸術博物館	係員	畑	2019.11.14 (木)	9:00-20:00	佐治政三展スペシャルトーク控室		●	0	0	10	10
	28	基礎工学部	助教	生田	2019.11.27 (水) ～11.31 (日)	9:00-20:00	大阪大学ESS	●	●	0	90	1	91
							11月 合計	2	3	1	94	36	131
12	29	全学教育推進機構	准教授	中村	2019.12.4 (水) ～12.8 (日)	9:00-20:00	第二劇場	●	●	0	46	40	86
	30	基礎工学部	助教	生田	2019.12.18 (水) ～12.22 (日)	9:00-20:00	大阪大学ESS	●	●	0	96	149	245
	31	文学研究科	准教授	中尾	2019.12.24 (火) ～12.28 (土)	9:00-21:00	現代芸術を考える会	●	●	1	127	50	178
							12月 合計	2	2	1	269	239	509
1	32	文学研究科	教授	伊東	2020.1.20 (月)	10:00-20:00	パンノニア少年少女合唱団コンサートの出演者およびスタッフの控室として使用	●	●	4	40	60	104
	33	法学研究科	助教	山田	2020.1.26 (日)	8:30-17:30	大阪大学法学研究科MFAプロジェクト	●	●	7	7	24	38
	34	C0デザインセンター	特任講師	山森	2020.1.30 (木)	17:00-22:00	C0デザインカフェ Rキュメンタリー映画で学ぶ社会課題と惑星思考vol.17	●	●	2	20	4	26
							1月 合計	3	3	13	67	88	168
2	35	言語文化研究科	准教授	岡本	2020.2.5 (水)	17:00-21:00	ベリーダンスの練習 Ralawastj		●	0	14	0	14
	36	言語文化研究科	准教授	岡本	2020.2.8 (土)	9:00-21:00	ベリーダンスの発表会 Ralawastj	●	●	0	14	0	14
	37	文学研究科	准教授	中尾	2020.2.12 (水) ～2.16 (日)	9:00-21:00	現代芸術を考える会	●	●	0	50	16	66
	38	21世紀像徳堂	事務補佐員	野田	2020.2.20 (木)	10:00-20:00	スタジオ使用講習会	●	●	0	5	1	6
							2月 合計	3	4	0	83	17	100
3	39	文学研究科	准教授	中尾	2020.3.4 (水) ～3.8 (日)	9:00～21:00	劇団六風館	●	●	0	100	5	105
	40	法学研究科	教授	仁木	2020.3.18 (水) ～3.20 (金)	9:00～21:00	軽音楽部 SWING	●	●	0	54	0	54
							3月 合計	2	2	0	154	5	159

～スタジオ利用風景～

5月：「E.S.S」(学生団体)
2019年レシテーションコンテスト
(学生を含む延べ54名が来所)



5月：阪大 Queer 映画祭 (学生団体)
上映会の様子
(学生を含む延べ345名が来所)



6月：アカペラサークル inspritual voices
(学生団体)Ekspiri!解散ライブ
(学生を含む延べ59名が来所)



12月：E.S.S 演劇風景
「Les Miserables」公演
(学生を含む延べ245人が来所)



12月：第二劇場
「映画の国のジェーン」公演
(学生を含む延べ86人が来所)



2月：ベリーダンス Halaawaat
ベリーダンス発表会
(学生を含む延べ14人が来所)



6-1. 運営体制

21 世紀懷徳堂の運営は、21 世紀懷徳堂運営委員会の審議を経て、担当理事、学主及び社会学共創本部会議構成員のもとで、機動的かつ効率的な業務運営を行っている。なお、21 世紀懷徳堂の主催事業の一部については、兼任教員の指導、助言及び招へい研究員の支援を受けて実施している。また、21 世紀懷徳堂の事務は共創推進部社会学共創課が所掌している。（水野 敬仁）

[運営体制]

● 社会学共創本部会議

社会学共創に係る将来構想、中期目標・中期計画及び年度計画、その他社会学共創に係る重要事項等を審議

- ・ 構成員／社会学共創本部長（理事、副学長又は総長参与のうちから総長が指名）

社会学共創担当副理事、社会学共創本部副本部長、社会学共創本部部門長、21 世紀懷徳堂学主、

総合学術博物館長、適塾記念センター長、アーカイブズ室長、共創推進部長、

共創推進部社会学共創課長、議長が特に必要と認めた者

- ・ 開催頻度／必要に応じて

- ・ 任 期／職名指定の者以外は 1 年を超えない範囲内で総長がその都度定める

● 21 世紀懷徳堂運営委員会

運営及び業務の実施に関する必要事項を審議

- ・ 構成員／学主、総合学術博物館長、CO デザインセンター長、グローバルイニシアティブ・センター長、全学教育推進機構長、中之島センター長、教育・学生支援部長、その他委員会が必要と認めた者

- ・ 開催頻度／年 2 回程度（6 月及び 3 月）

- ・ 任 期／職名指定の者以外は 2 年

● 21 世紀懷徳堂企画会議

21 世紀懷徳堂の事業企画検討

- ・ 構成員／運営委員会委員長、運営委員会副委員長、学主が推薦する教員若干名、21 世紀懷徳堂スタッフ

- ・ 開催頻度／必要に応じて

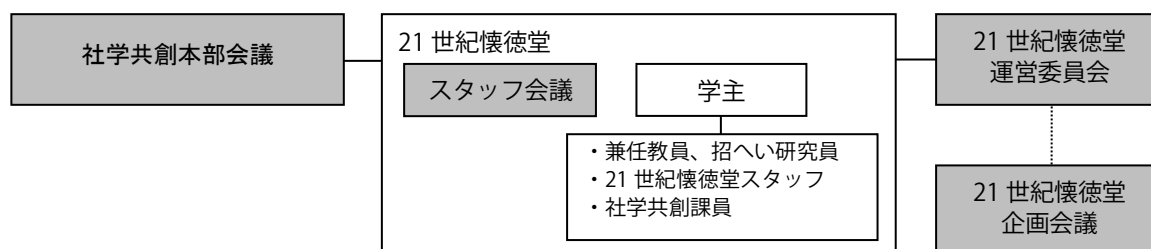
- ・ 任 期／定め無し

● 21 世紀懷徳堂スタッフ会議

運営実務及び事業実施に係る検討、調整

- ・ 構成員／学主、社会学共創本部長、社会学共創本部副本部長、21 世紀懷徳堂スタッフ、共創推進部社会学共創課員

- ・ 開催頻度／月 1 回程度



社学共創本部会議（2020 年 3 月現在）

本部長 永田 靖（文学研究科 教授）

【社学共創本部会議構成員】

氏名	所属・職	任期	氏名	所属・職	任期
永 田 靖	21 世紀懷徳堂 学主 総合学術博物館長	_____	上 田 貴 洋	社学共創本部 教授	_____
木ノ下 智恵子	社学共創本部 准教授 社学共創707ティア部門長	_____	三 阪 佳 弘	適塾記念センター長 共創イノベーション部門長	_____
高 橋 明 男	アーカイブズ室長 パブリック・リサーチ部門長	_____	橋 爪 節 也	社学共創本部 教授 インターウィグ共創部門長	_____
菅 真 城	社学共創本部 教授	_____	高 田 則 明	共創推進部長	_____
徳 野 光 男	共創推進部社学共創課長	_____			

大阪大学 21 世紀懷徳堂運営委員会 名簿（2020 年 3 月現在）

氏 名	職 名	任 期
◎ 永 田 靖	21 世紀懷徳堂学主／社学共創本部長	2017. 8.26 ~
永 田 靖	総合学術博物館長	_____
松 繁 寿 和	ＣＯデザインセンター長	_____
河 原 源 太	グローバルイニシアティブ・センター長	_____
佐 藤 宏 介	全学教育推進機構長	_____
金 田 安 史	中之島センター長	_____
神 宮 孝 治	教育・学生支援部長	_____
舟 場 保 之	文学研究科教授（懷徳堂関係）	2018. 4. 1 ~ 2020. 3.31
島 田 昌 一	医学系研究科教授（適塾関係）	2018. 4. 1 ~ 2020. 3.31
木ノ下 智恵子	社学共創本部准教授	2018. 4. 1 ~ 2020. 3.31

◎委員長 [事務担当] 共創推進部社学共創課

大阪大学 21 世紀懷徳堂企画会議 名簿（2020 年 3 月現在）

所属・職	氏 名	備 考
【オブザーバー】		
21 世紀懷徳堂 学主	永田 靖	21 世紀懷徳堂運営 委員会委員長
【教 員】		
社学共創本部 教授	上田 貴洋	議長
全学教育推進機構 准教授	中村 征樹	
文学研究科 教授	金水 敏	
文学研究科 教授	伊東 信宏	
理学研究科 教授	中嶋 悟	
工学研究科 教授	森 勇介	
所属・職	氏 名	備 考
言語文化研究科 准教授	古谷 大輔	
生命機能研究科 教授	仲野 徹	
社学共創本部 教授	橋爪 節也	
ＣＯデザインセンター 招へい教授	高島 幸次	
サイバーメディアセンター 教授	菊池 誠	
【21 世紀懷徳堂スタッフ】		
特任研究員	肥後 楽	

[事務担当] 共創推進部社学共創課

兼任教員、招へい研究員 名簿（2020 年 3 月現在）

	氏 名	所属・職		氏 名	所属・職
兼任教員	伊 東 信 宏	文学研究科 教授	兼任教員	天 野 敦 雄	歯学研究科 教授
兼任教員	金 水 敏	文学研究科 教授	兼任教員	佐 伯 康 考	社学共創本部 特任助教
兼任教員	木ノ下 智恵子	社学共創本部 准教授	招へい研究員	栗 原 佐智子	大阪大学出版会
兼任教員	古 谷 大 輔	言語文化研究科 准教授			

6-2. スタッフ

21 世紀懷徳堂のスタッフは、学主および担当教員、特任研究員、事務職員で構成されている。実務レベルで特任研究員と事務職員が密にコミュニケーションをとることで目的意識を共有しながら、日々の業務の円滑な運営を目指している。

(肥後 楽)

学主／社会学共創本部長	教授	永田 靖
社会学共創本部副本部長	教授 (2019.8 月まで)	上田 貴洋
社会学共創本部／兼 21 世紀懷徳堂	准教授	木ノ下 智恵子
社会学共創本部／兼 21 世紀懷徳堂	特任助教	佐伯 康考
企画実務	特任研究員 (2019.12 月まで)	沢村 有生
	特任研究員	肥後 楽
事務職員	共創推進部 社会学共創課 課長	徳野 光男
	同上 課長補佐	水野 敬仁
	同上 社会学共創係長	花岡 宏亮
	同上 社会学共創係 事務職員	田中 綾
	同上 社会学共創係 事務職員	畑 美祈
	同上 事務補佐員 (2019.12 月まで)	谷 志保
	同上 事務補佐員 (2019.12 月より)	野田 彩佳
	同上 事務補佐員 (CA) (2019.5 月まで)	矢口 奈津実
	同上 事務補佐員 (CA)	桑江 良周
	同上 事務補佐員 (CA)	小松 啓子
	同上 事務補佐員 (CA)	孫 雲之鵬
	同上 事務補佐員 (CA)	島本 奈央
	同上 事務補佐員 (CA)	安藤 歴
	同上 事務補佐員 (CA)	出戸 克尚
	同上 事務補佐員 (CA)	安井 裕人

CA (collaboration assistant) より

2年間活動をしてきましたが今年度特に印象的だったのは、自らが中心になって企画した「デザインに生きる心理学」です。実際に企画から資料作成、本番の実施まで行ったため、地域の方々に関心を持っていただくためには何をすれば良いかを考えて実践する貴重な機会となりました。CAとしての活動は今年度で終了しますが、今後は別の形で研究機関と地域の連携について考えられればと思います。2年間ありがとうございました。(人間科学部4年 桑江良周)

本年度からコラボレーションアシスタントとして21世紀懐徳堂の活動に携わりました。業務内容は、アンケート入力やラジオの企画、イベントの補助など多岐にわたりますが、とりわけ印象に残ったのは、植物探検隊や大阪大学公開講座など、多くの市民の方が参加されるイベントの補助業務でした。そうした講座に参加される方と直接ふれあうことで、市民の方々が、いかに大学の先生方の研究に興味を持っておられるかということを知り、あらためて社会学連携事業の重要性を感じることができたのはたいへん貴重な体験でした。今後も、こうした経験をいかしてコラボレーションアシスタントとしての活動を続けていきたいと思っています。(文学研究科博士前期課程1年 小松啓子)

今年度から21世紀懐徳堂のCAとして選ばれ、代理入力をはじめ、様々なイベントの運営補助やアンケート集計、ポスターの入れ替え、ホームページのイベント情報のリニューアルに関する編集、自ら関わったイベントのレポートへの執筆などの業務に携わりました。これまでは研究科の広報職員として、自分の研究科に行われた行事への宣伝のみ尽力しましたが、今年度よりCAとして大阪大学全体の社会学連携事業に関わらせていただくことで、自分自身の視野が更に広められて、大阪大学の原点とも言われる懐徳堂の精神も強く感じられました。1年間本当にありがとうございました。

(国際公共政策研究科 博士後期課程2年 孫雲之鵬)

今年度から21世紀懐徳堂のコラボレーションアシスタント(CA)として社会学連携事業に携わらせて頂きました。アンケート作業や公開講座の補助をさせて頂く中で、幅広い年齢層の方々に参加して頂いていることへの驚きや、市民の方々の大学に対する意見を伺えるなど、大学と地域との「つながり」が見えるようで、自身にとっても大いに学ぶことができました。また、みのおFMにおいてラジオ番組作りに参加し、大学が閉ざされた研究機関ではなく、外への発信を常に行っていく必要性和その可能性に満ちていること、そして大学が社会に対してもつ責任や役割について再認識できました。CAとして今回の経験を基に、来年度からは研究活動に邁進していきたいと思っています。

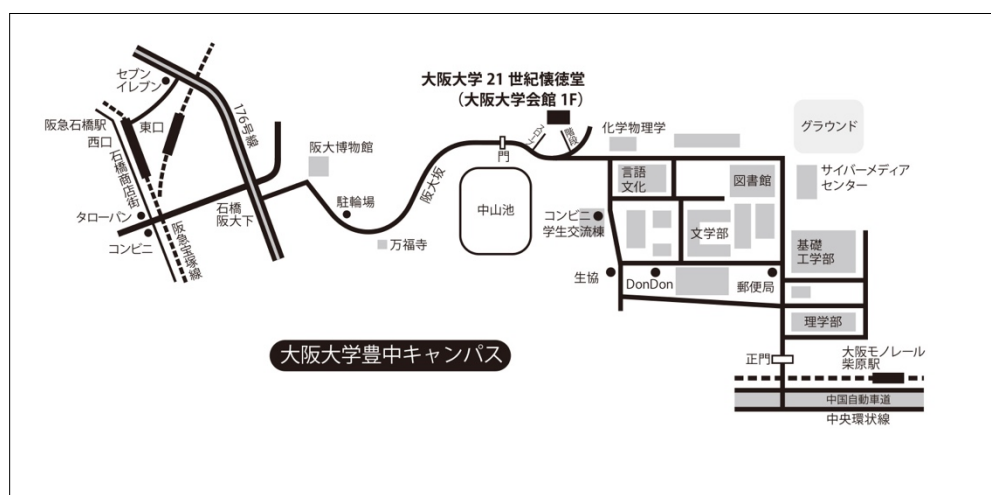
(国際公共政策研究科博士後期課程1年 島本奈央)

2019年4月から21世紀懐徳堂CAとしてお世話になりました。イベントのアンケート集計やイベントの運営スタッフ業務まで関わり、社会学連携事業への社会的な期待が大きいことを感じました。今後も大阪大学として社会と大学を結び活動を積極的に推進していただきたいと思います。また、CAとしての業務ではないですが、事業の一環として行われている箕面ラジオでのラジオ・パーソナリティとして大阪大学の教員の方と出演する経験ができたのはとてもいい思い出でした。大学と社会だけでなく、大学の中で様々な教員の方々を知る機会となり、CAの経験は実り豊かなものでした。

(人間科学研究科 博士後期課程1年 安藤 歴)

今年度から、CAとして様々な活動イベントのアンケート集計や21世紀懐徳堂のホームページ編集などに携わっています。この業務に関わったことで、1つのイベント開催にしても多くのスタッフの努力があることに気づき、CAもその一部として責任を持ちながら努めなければならないと感じました。また、イベント参加者のコメントを拝見しながら社学連携事業の大切さを再認識することが出来ています。今後もこの業務を通じ、大阪大学の地域社会への貢献をサポートしていきたいと思います。(生命機能研究科 博士前期課程1年 安井 裕人)

2020年1月より、21世紀懐徳堂のCAとしてアンケート集計、代理入力の業務を中心に関わらせていただきました。それ以前も大阪大学内で働かせていただく機会はありませんでしたが、今回の業務や経験を通じて、大阪大学が地域との関わり方を学ぶことができました。セミナーを開催し、各回の参加者からの意見を参考にし、今後のセミナーに活かす、もしくは他の社学連携事業に活かす。これを繰り返すことで、大阪大学は学業・研究の場だけでなく、地域のシンボルとして地元の方々に受け入れられていることを学びました。今後も、自分の立場から出来ることを考え、21世紀懐徳堂の活動に貢献できれば、と思います。(工学部3年 出戸 克尚)



大阪大学 21 世紀懐徳堂 活動報告書 2019

2020 年 5 月発行

編集／大阪大学共創機構社学共創本部 21 世紀懐徳堂

発行／大阪大学共創機構社学共創部門

(国立大学法人大阪大学 共創推進部 社会連携課 地域連携係)

〒560-0043 豊中市待兼山町 1-13 大阪大学会館 4F

TEL 06-6850-6443 FAX 06-6850-6449

office@21c-kaitokudo.osaka-u.ac.jp

印刷／株式会社アイジャスト

